このたびは、スズキ　ジムニー／ジムニーシエラ　をお買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！ 安全なドライブのために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。
  ⚠警告 、**⚠注意** 、**注 記** 、**アドバイス** は、とくにしっかりお読みください。

⚠警告	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
⚠注意	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
注 記	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「✕」または「⃠」の記号があるときは、図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

本書の見かた

本ページは見本を使って本書の基本的な読みかたを説明しています。

ヘッダー
ページの内容を案内しています。

タイトル
階層により区別しています。

フォグランプ

タイプ別装備

タイプ別装備
お車のグレードなどにより装備の有無が異なる事を示しています。

フォグランプスイッチ

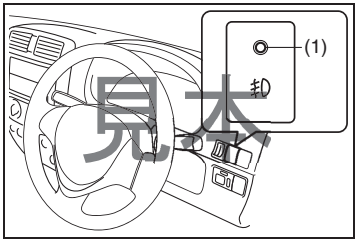
ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

参照先
関連する内容が記載されているページなどを案内しています。

→ **3-53ページ（ライトスイッチ）**

章番号
各章の番号を案内しています。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯（1）が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



見本

操作要領
装備の取扱いかたなどを説明しています。

注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

警告・注意・注記・アドバイス
前ページをお読みください。

お知りになりたいことをさがすときは

次のような方法で検索されますと、すばやくさがせます。

■ タイトルからさがす

- ♦ 総合目次
- ♦ 各章のはじめの目次
- ♦ ヘッダー

■ 取り付け位置、警告灯・表示灯からさがす

- ♦ イラスト目次 → **1-2ページ**

■ ブザー音からさがす

- ♦ 警告ブザーが鳴ったときは → **1-15ページ**

■ 名称からさがす

- ♦ さくいん → **9-1ページ**

■ 4WD車特有の記載をさがす

- ♦ 4WD車を運転するときは → **2-23ページ**
- ♦ 2WD⇆4WDの切替え操作 → **4-16ページ**
- ♦ タイヤチェーン → **6-14ページ**
- ♦ けん引してもらうときは → **7-33ページ**

■ オイルや、交換部品をさがす

- ♦ お車との上手なつきあいかた → **6-1ページ**
- ♦ 万一のとき → **7-1ページ**
- ♦ サービスデータ → **8-1ページ**

ご愛車に関するメモ

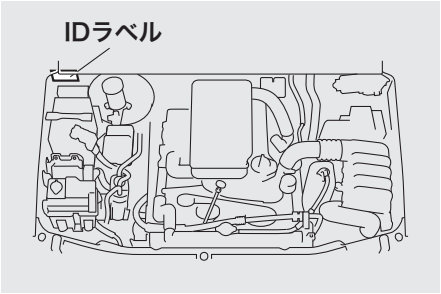
記入される記号・番号は、車検証、IDラベルをご覧ください。

ご　愛　車　の　メ　モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	□K6A型 □M13A型
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	□マニュアルミッション □オートマチックミッション
ナンバープレート（車両番号または自動車登録番号）	
ご購入年月日	年　月　日

IDラベル

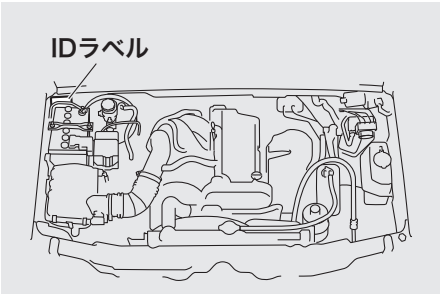
エンジンルームに貼付してあります。

ジムニー

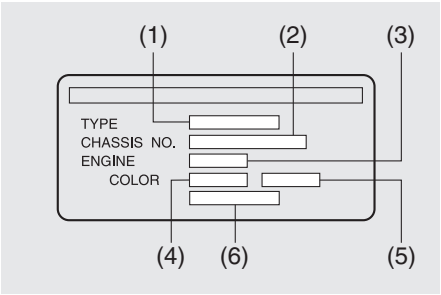


76J00011

ジムニーシエラ



76J00031



76J00020

(1) 車両型式　　(2) 車台番号
(3) エンジン型式　(4) 車体色記号
(5) 車体色と内装色の組み合わせコード
(6) 営業機種記号（補助記号）

総 合 目 次

1 クイックガイド

イラスト目次 ····· 1-2

警告ブザーが鳴ったときは ····· 1-15

2 必読！安全なドライブのために

必読！ 安全なドライブのために ····· 2-2

3 運転する前に

ドアの開閉 ····· 3-2

ウインドーの開閉 ····· 3-7

各部の調節 ····· 3-10

シートの調節 ····· 3-13

シートベルト ····· 3-23

SRSエアバッグ ····· 3-36

メーター ····· 3-44

スイッチの使いかた ····· 3-53

4 運転するときは

エンジン始動・停止 ····· 4-2

パーキングブレーキ ····· 4-6

チェンジレバー ····· 4-6

オートマチック車 ····· 4-8

4WD車 ····· 4-16

ABS ····· 4-21

横滑り防止装置装備車 ····· 4-24

5 装備の取扱い

エアコン、ヒーター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-2

オーディオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7

その他の装備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-9

6 お車との上手なつきあいかた

お手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2

寒冷時の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-9

7 万一のとき

パンク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2

バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-15

ヒューズ切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-18

電球切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-22

オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28

その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29

8 サービスデータ

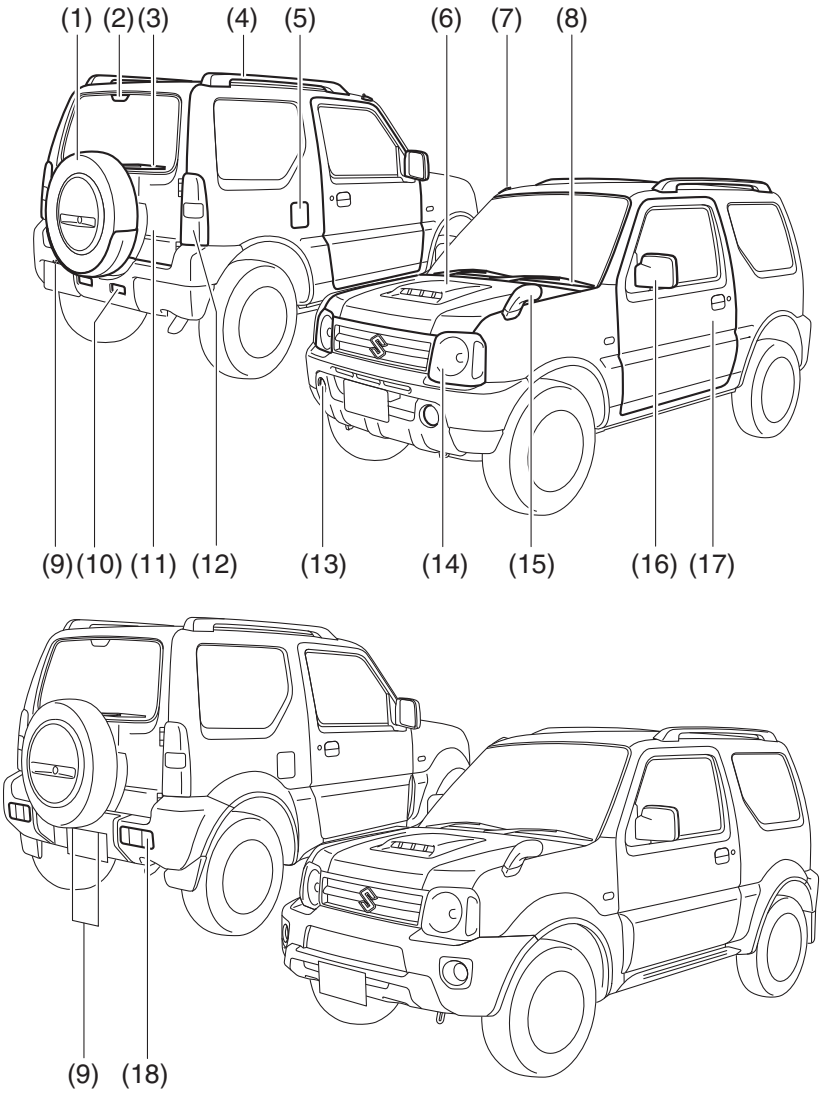
サービスデータ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1

9 さくいん

さくいん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9-1

イラスト目次

■ 外観

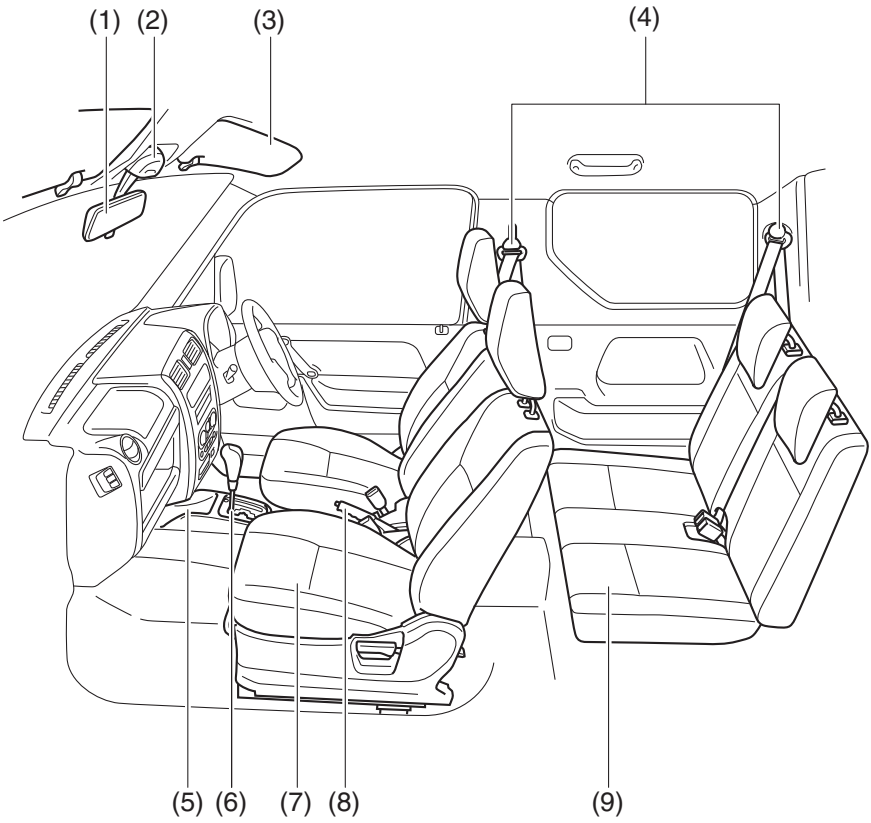


76J10011

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　スペアタイヤ　・・・

■ 内装1

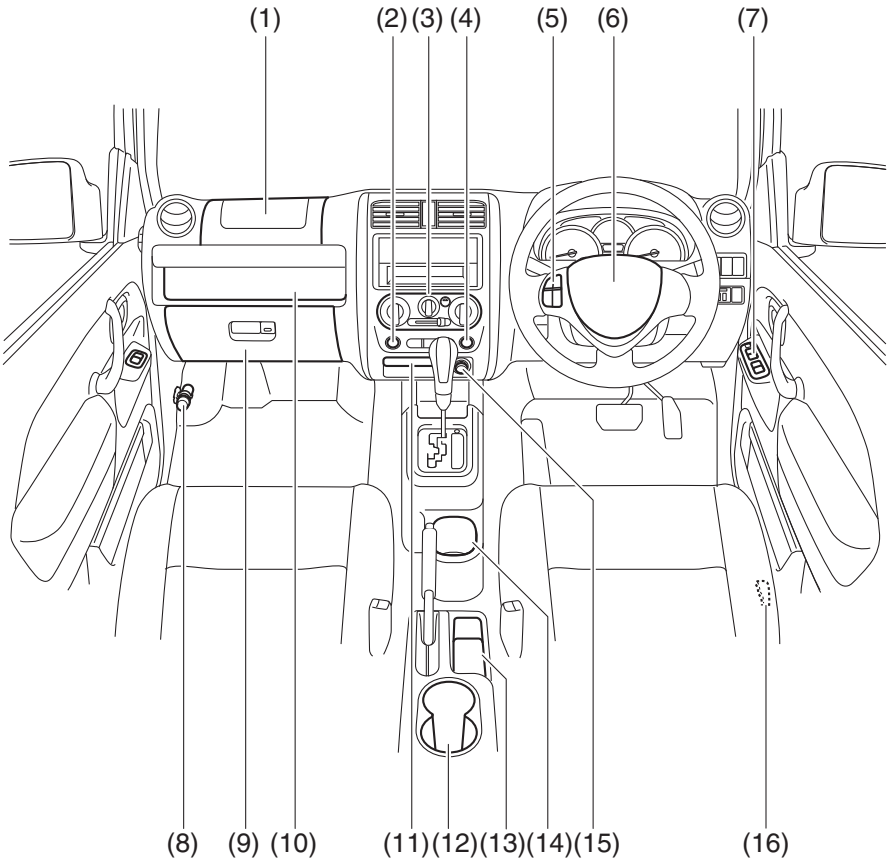


76J10021

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) ルームミラー ····· 3-10
(2) 前席室内灯 ····· 5-13
(3) サンバイザー ····· 5-12
(4) シートベルト ····· 3-23
(5) フロアコンソールトレー ····· 5-17
(6) セレクトレバー オートマチック車 ····· 4-8
チェンジレバー マニュアル車 ····· 4-6
クラッチスタートシステム マニュアル車 ····· 4-4
(7) 前席シート ····· 3-13
(8) パーキングブレーキ ····· 4-6
(9) 後席シート ····· 3-17

■ 内装2

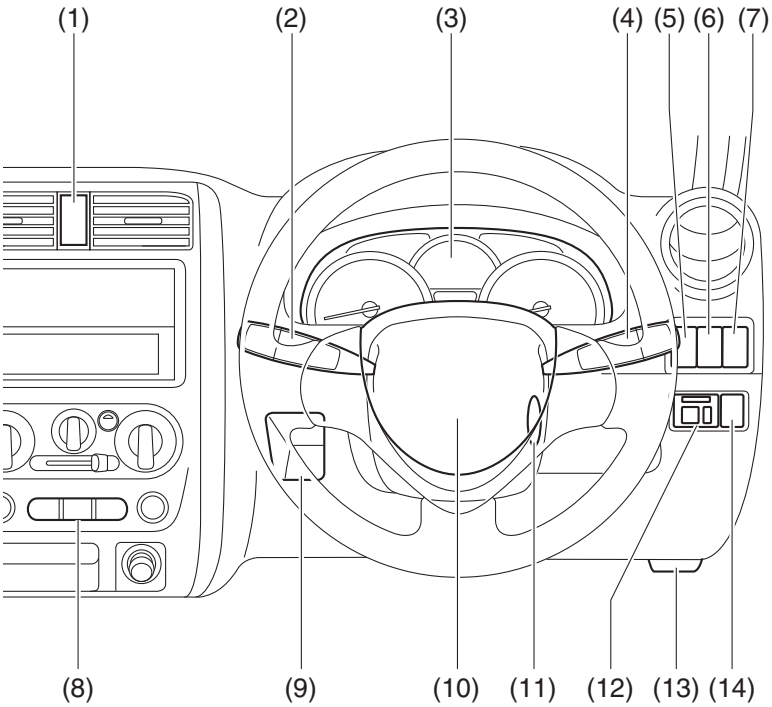


76J10031

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1) 助手席SRSエアバッグ ····· 3-37
(2) ドアミラーヒータースイッチ ····· 3-13
リヤデフォッガースイッチ ····· 3-58
(3) エアコン､ヒーター ····· 5-2
(4) 運転席･助手席シートヒータースイッチ ····· 3-16
(5) ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-7
(6) ホーンスイッチ ····· 3-58
(7) パワーウインドースイッチ ····· 3-7
(8) 発炎筒 ····· 7-29
(9) キー付グローブボックス ····· 5-14
(10) インパネトレー(助手席) ····· 5-14
(11) 灰皿 ····· 5-16
(12) フロアコンソールボックス
(ドリンクホルダー兼用) ····· 5-19
(13) センターコンソールトレー ····· 5-18
(14) センターコンソールボックス
(ドリンクホルダー兼用) オートマチック車 ····· 5-17
(15) シガーライター ····· 5-15
(16) フューエルリッドオープナー ····· 5-9

■ 運転席まわり

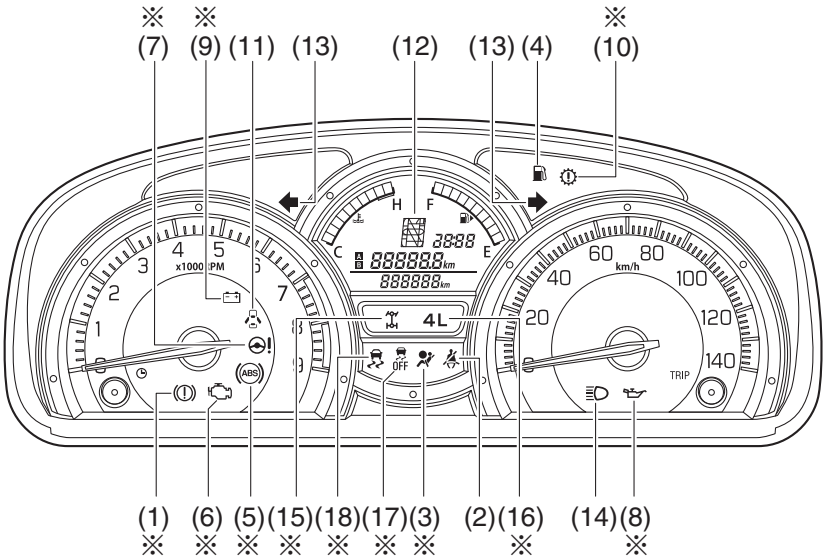


76J10041

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　非常点滅表示灯スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-56
(2)　ワイパー／ウォッシャースイッチ　・・・・・・・・・・・・　3-56
(3)　メーター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-44
　　表示灯、警告灯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-47
(4)　ライトスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-53
　　方向指示器スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-55
(5)　横滑り防止装置OFFスイッチ
　　(ジムニーシエラ)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-26
(6)　フォグランプスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-54
(7)　デアイサースイッチ(ジムニーシエラ)　・・・・・・・　3-59
(8)　2WD/4WD切替えスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-17
(9)　インパネポケット　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-15
(10)　運転席SRSエアバッグ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-37
(11)　エンジンスイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4-2
(12)　ドアミラー角度調節スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・　3-11
　　ドアミラー格納スイッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-12
(13)　ボンネットオープナー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5-10
(14)　光軸調整ダイヤル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3-54

■ 警告灯・表示灯

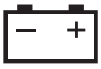


76J10070

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

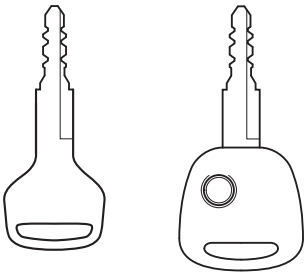
- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。次の参照先をよくお読みのうえ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-47ページ（警告灯・表示灯の見かた）**

- ※印の警告灯・表示灯は、エンジンスイッチを ON にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

警告灯			色	警告灯名
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯
(2)			赤	シートベルト警告灯
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯
(6)		※	オレンジ	エンジン警告灯
(7)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯 （ジムニー）
(8)		※	赤	油圧警告灯
(9)		※	赤	充電警告灯
(10)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯 （オートマチック車）
(11)			赤	半ドア警告灯 （ジムニーシエラ）

表示灯			色	表示灯名
(12)	D (代表例)		白	セレクトレバー位置表示 （オートマチック車）
(13)			緑	方向指示器表示灯
(14)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯
(15)		※	緑	4WD表示灯
(16)	4L	※	オレンジ	4L表示灯
(17)		※	オレンジ	横滑り防止装置OFF表示灯 （ジムニーシエラ）
(18)		※	オレンジ	横滑り防止装置作動表示灯 （ジムニーシエラ）

■ キー

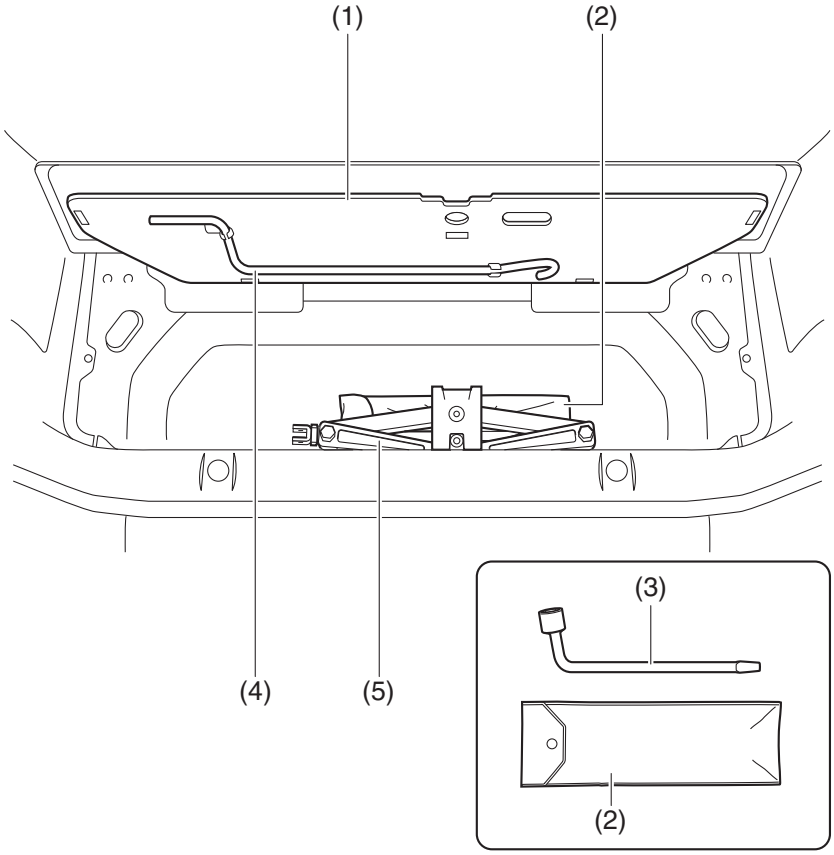


82M10060

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

キー ・・・

■ 荷室



76J10060

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

(1)　フロアボード　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(2)　工具袋　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(3)　ホイールナットレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(4)　ジャッキハンドル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2
(5)　ジャッキ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7-2、7-11

警告ブザーが鳴ったときは

下記機能の作動中は、次の表以外の警告ブザーが鳴る場合があります。
- 2WD⇆4WDの切替え操作（**4-16ページ**参照）

■ 全車共通

いつ	ブザー音（室内ブザー）	メーター	原因と対処方法
走行中	ピー、ピー、（約95秒間）	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。安全な場所に停車して、ベルトを着用してください。 → **3-24ページ（シートベルト警告ブザー）**
	ポーン（1回）	 点灯 ※	いずれかのドアが完全に閉まっていません。安全な場所に停車して、完全に閉めてください。 → **3-51ページ（半ドア警告灯）**
運転席ドアを開けたとき	ピーーー	−	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。これらを消してください。 → **3-53ページ（ライト消し忘れ警告ブザー）**
	ピー、ピー、	−	エンジンスイッチにキーが差さったままです。キーを抜いてください。 → **4-5ページ（キー抜き忘れ警告ブザー）**

※ジムニーシエラのみ

■ オートマチック車のみ

いつ	ブザー音（室内ブザー）	メーター	原因と対処方法
停車中／後退中	ピー、ピー、	 表示	セレクトレバーが R に入っています。セレクトレバーの位置を確認してください。 → **4-11ページ（ R （リバース）ポジション警告ブザー）**

MEMO

2. 必読！ 安全なドライブのために

とくに重要な項目ですのでしっかりお読みください。

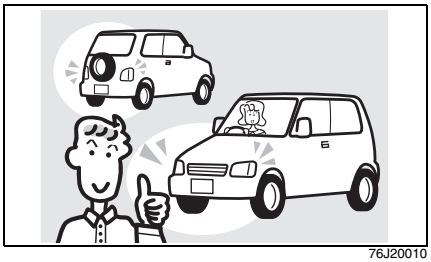
安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

出発の前に（お車の確認）…… 2-2
荷物を積むときは…… 2-3
お子さまを乗せるときは…… 2-4
運転席に座って…… 2-8
エンジンをかけるときは…… 2-10
走行するときは…… 2-10
駐車するときは…… 2-16
給油するときは…… 2-18
オートマチック車を運転するときは…… 2-20
SRSエアバッグ車を運転するときは…… 2-21
4WD車を運転するときは …… 2-23
ターボ車を運転するときは…… 2-25
こんなことにも注意して…… 2-26
エコドライブをしましょう…… 2-29

出発の前に（お車の確認）

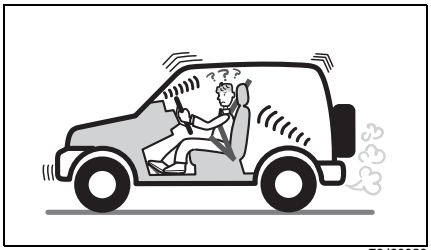
日常点検を確実に



76J20010

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

こんな症状に気づいたときは



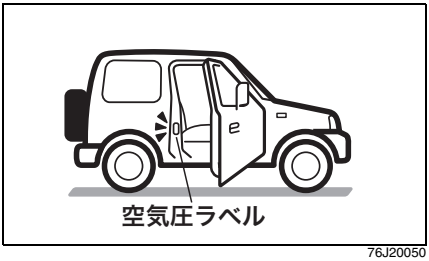
76J20020

⚠注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。
- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

タイヤの空気圧をチェック

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認できます。
  → **メンテナンスノート（日常点検）**

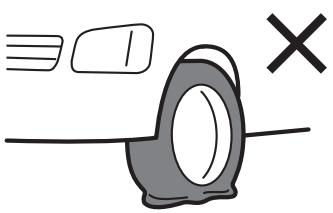


76J20050

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。

⚠警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



76J20360

⚠警告

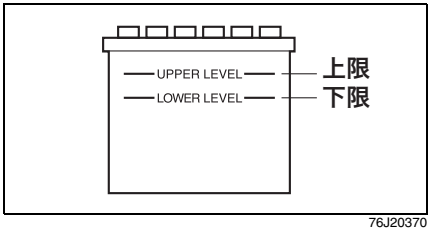
指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- **走行安定性が悪化する**
- **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  - **ABS**
  - **横滑り防止装置(ジムニーシエラ)**
  - **トラクションコントロール（ジムニーシエラ）**
  - **ブレーキアシスト（ジムニーシエラ）**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

バッテリーの液面を点検する

液面が下限より下にあるときは、バッテリー補充液を上限まで補給してください。バッテリー液が不足すると、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。

→ **メンテナンスノート（日常点検）**

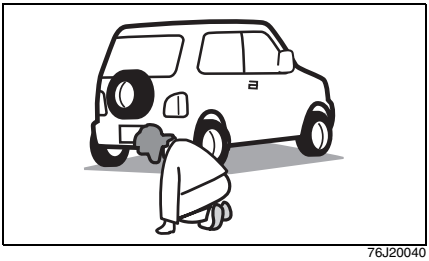


76J20370

⚠ 警告

- **バッテリー液が不足すると、発熱して爆発のおそれがあります。**
- **バッテリー端子を外して再び接続するときは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。**

排気管も点検



76J20040

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠ 警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積み過ぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠ 警告

- **燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。**



80J021

⚠警告

●インパネの上に物を置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席 SRS エアバッグがふくらんだときにとばされたりして、けがのおそれがあります。



80J070

⚠注意

●車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

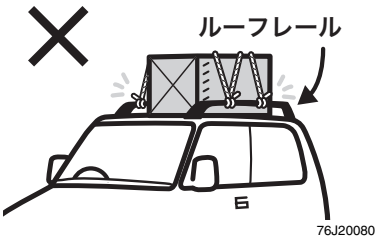


80J022

●動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

注 記

ルーフレール（タイプ別装備）などにロープをかけて、ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。ルーフレールおよびパネルが損傷するおそれがあります。



76J20080

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる



51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  → **2-6ページ（お子さま用シートの使用について）**
  → **3-30ページ（お子さま用シートの選択について）**

⚠ 警告

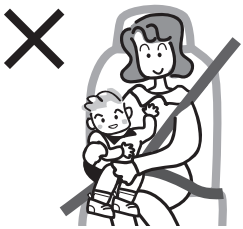
●お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは､次のことをお守りください。
・助手席をいちばん後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席 SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

●お子さまがアームレストやシート下のレール部分など車内の可動部に手や足などを近付けないように注意してください。はさまれてけがをするおそれがあります。

お子さまもシートベルトを着用

⚠ 警告

●ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J081

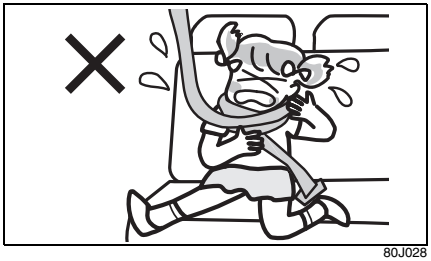
●必ずシートベルトを着用させてください。
●一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。
●シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



80J082

●首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。

シートベルトで遊ばせない



80J028

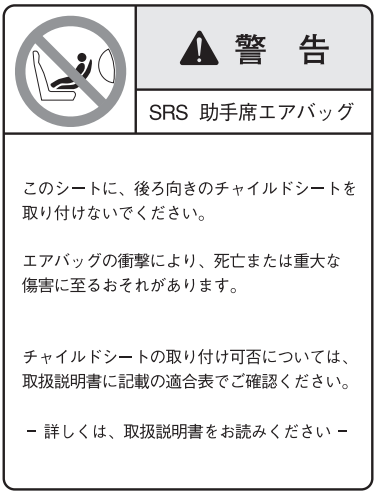
⚠警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでベルトを切断してください。

お子さま用シートの使用について

- お子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-30ページ（お子さま用シートの選択について）**

- 助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。ご使用の前に、必ずお読みください。



85K20020

※警告ラベルで使用される「チャイルドシート」は、本書で使用される「お子さま用シート」のことを表わします。

- この車の後席には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。
  - シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート
    → **3-28ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**

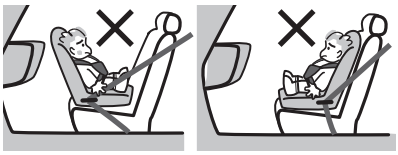
  - ISOFIXタイプのお子さま用シート
    → **3-20ページ(ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具)**

- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。
- お子さま用シートには、スズキ純正品をお勧めします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

●お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠警告

●助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

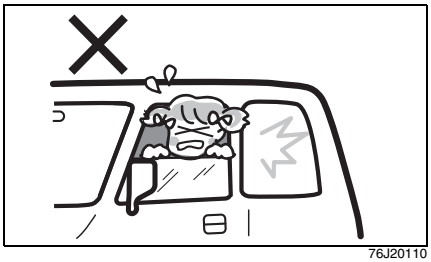
●走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。
●お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
●万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。

⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物にあたるおそれがあります。

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。



76J20110

⚠警告

パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。
→ 3-8ページ（ウインドーロックスイッチ）

窓から顔や手を出さない



76J20120

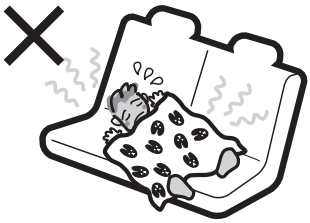
⚠警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外の物などにあたって重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときは

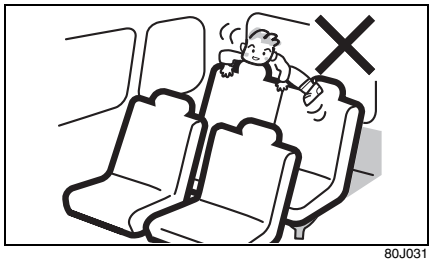
⚠警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。
- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。



80J032

お子さまを荷室に乗せない



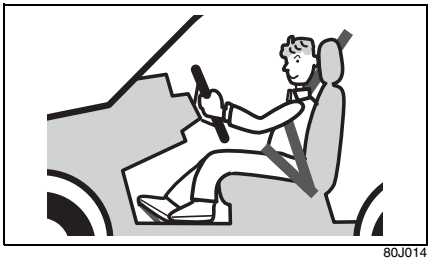
80J031

⚠警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。
道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

運転席に座って

シート、ミラーの調節は走行前に

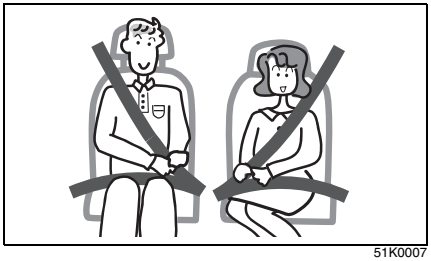


80J014

⚠警告

- 走行中にシートの調節、ルームミラーやドアミラーの調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  → 3-13ページ（前席シート）
  → 3-10ページ（ルームミラー、ドアミラー）
- 背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。

シートベルトは正しく着用



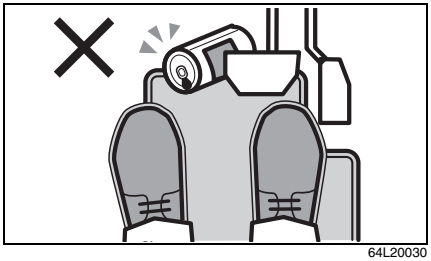
51K0007

⚠ 警告

- **走行前にシートベルトを正しく着用してください。**
- **助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。**

→ 3-23ページ（シートベルト）

運転席の足元付近に物を置かない

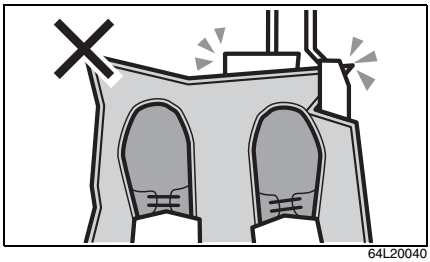


64L20030

⚠ 警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットを適切に使用する



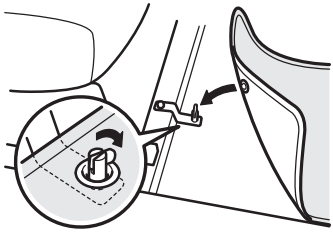
64L20040

⚠ 警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形に合わないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

スズキ純正フロアマットの例



76J20070

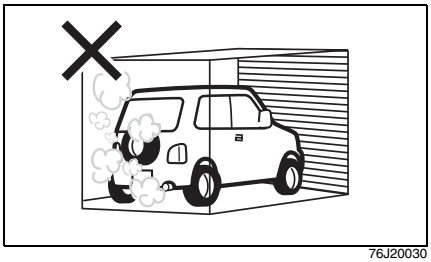
※運転席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具をタッピングスクリューで取り付ける際に利用するエンボス（凹み）があります。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

エンジンをかけるときは

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

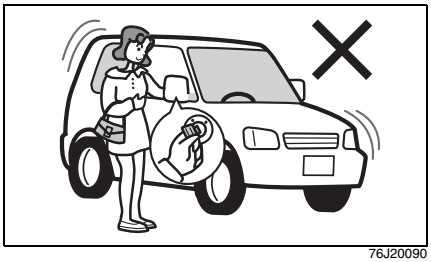


76J20030

⚠ 警告

- **車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**

窓越しのエンジン始動はしない



76J20090

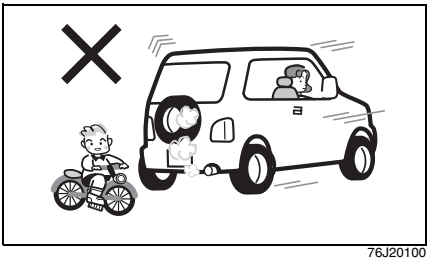
運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

⚠ 警告

窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
→ 4-3ページ(エンジンのかけかた)

走行するときは

周囲をよく確認してから発進する

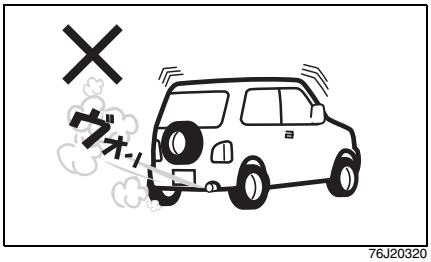


76J20100

⚠ 注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車からおりて自分の目で後方を確認してください。**

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない



76J20320

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。

→ 2-29ページ
（エコドライブをしましょう）

注 記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

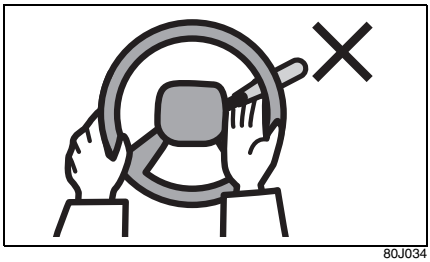


85K2114

⚠警告

●運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話などを操作しないでください。電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●運転者は、走行中にテレビを見たり、ナビゲーションやオーディオなどを操作したりしないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない



80J034

⚠警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

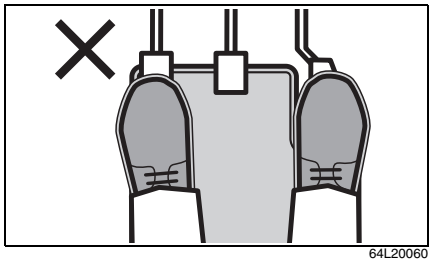
ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

⚠注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しない

マニュアル車



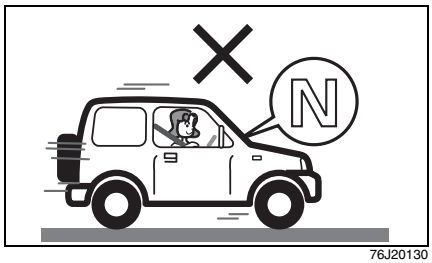
64L20060

⚠注意

クラッチが早く摩耗したり過熱したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行なわないでください。

走行中はニュートラルにしない



76J20130

⚠注意

緊急時以外は、走行中にチェンジレバーまたはセレクトレバーをニュートラルにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
  ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**
- **床下に強い衝撃を受けたら？**
  ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- **タイヤが突然パンクしたら？**
  ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  → **7-2ページ（パンク）**
- **ブレーキペダルが重く感じたら？**
  車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足をはなし、走行速度に合わせて、次のようにします。

■ マニュアル車

ギヤを1速ずつシフトダウンします。

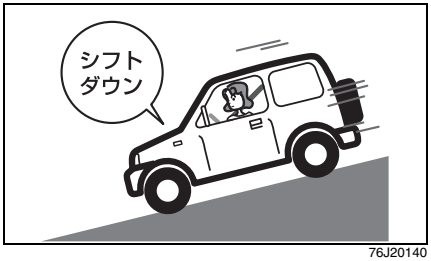
→ **4-6ページ**
（チェンジレバーの操作）

■ オートマチック車

セレクトレバーを 3 、 2 または L にシフトダウンします。

→ **4-8ページ**
（セレクトレバーの操作）

※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足をはなしたときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

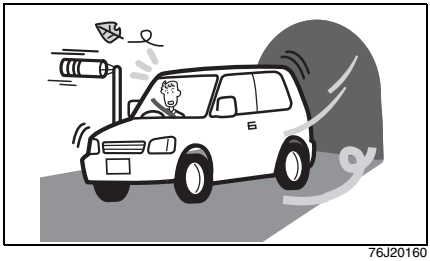


76J20140

⚠ 警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

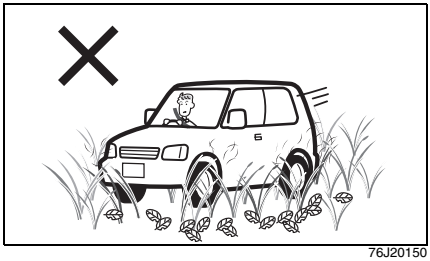
横風が強いときは



76J20160

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通り過ぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

草の生い茂った場所は走行しない

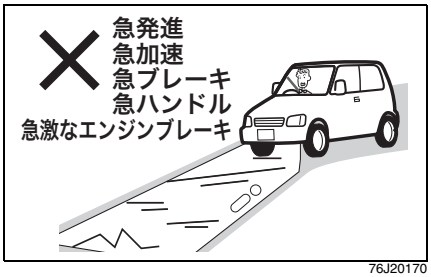


76J20150

⚠ 警告

草などが駆動系部品や排気管にからまると、駆動装置が損傷したり、火災につながったりするおそれがあります。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

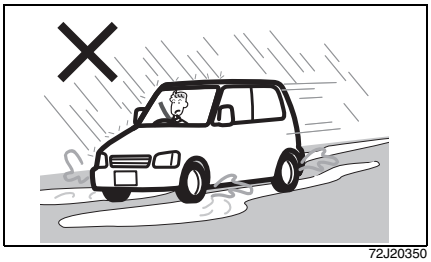


76J20170

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

水たまりを高速で通り抜けない

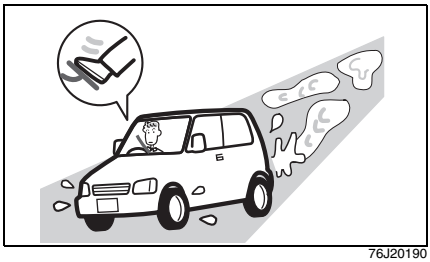


72J20350

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

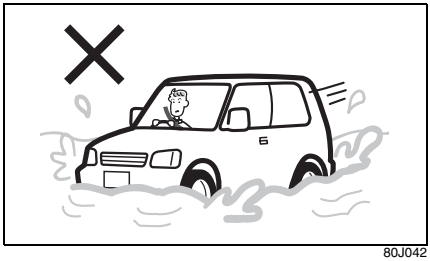
水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認



76J20190

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冠水した場所は走行しない



80J042

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

注 記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

スタック（立ち往生）したときは

- ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- 2WDの状態でスタックしたときに4WDへ切り替えると脱出しやすくなります。
  → **4-16ページ（2WD⇆4WDの切替え操作）**
- 横滑り防止装置装備車では、トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、横滑り防止装置 OFF スイッチを操作してトラクションコントロールを作動停止の状態にしてください。
  → **4-24ページ（横滑り防止装置装備車の取扱い）**

⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

注 記

タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。



76J20210

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
→ 4-6ページ
（パーキングブレーキの操作）



80J1037

(1) パーキングブレーキレバー

2 オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。

マニュアル車 は、チェンジレバーをR（リバース）または1速に入れます。

- ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。
→ 4-8ページ
（セレクトレバーの操作）
→ 4-6ページ
（チェンジレバーの操作）

⚠ 注意

●平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを P に入れるか、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。
●寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。
**→ 6-12ページ
（パーキングブレーキ）**

■ 坂道に駐車するときは

1、2 は、平らな場所で駐車するときと同じ操作です。

- マニュアル車 は、下り坂ではチェンジレバーを R（リバース）、上り坂では1速に入れてください。

3 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠ 警告

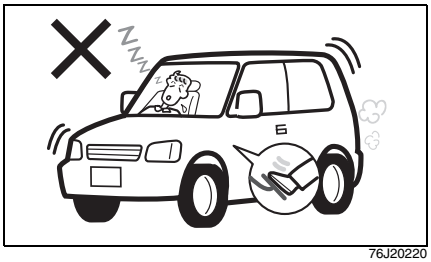
急な坂道には駐車しないでください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

⚠ 注意

坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない



76J20220

⚠ 警告

●周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
●無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
●無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。

燃えやすい物の近くに駐車しない

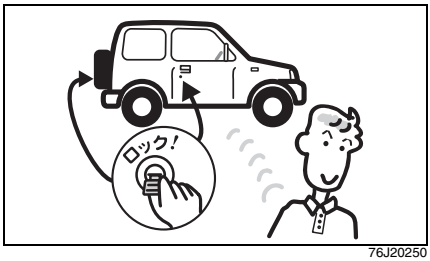


76J20230

⚠ 警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



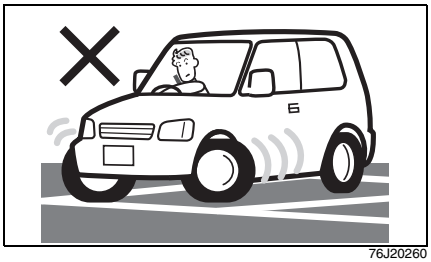
76J20250

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない



76J20260

注 記

駐車するときや車庫入れのとき、ハンドルをいっぱいにまわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない



80J1004

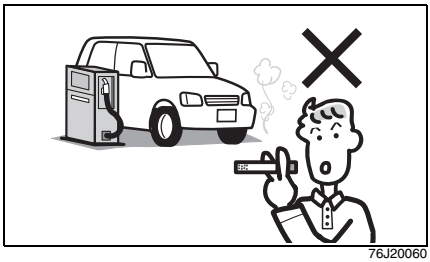
⚠警告

- **炎天下で駐車するときは、車内にライターやスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**
- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

給油するときは

→ **5-9ページ（燃料給油口）**

火気にきをつけて



76J20060

⚠警告

必ず次のことをお守りください。
- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。
- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
  また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

  ※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。



80J1005

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示に従ってください。

- 燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。
- 給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。
- 燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。
- その他、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。

無鉛ガソリン以外は使用しない

注 記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車には特有の操作上の注意があります。**4-8 ページ**の「**オートマチック車**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

- **セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R （リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

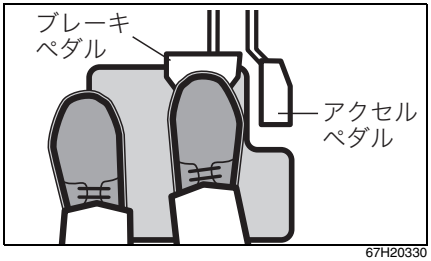
ペダルの踏み間違いに注意

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながります。

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

ブレーキペダルは右足で踏む



67H20330

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

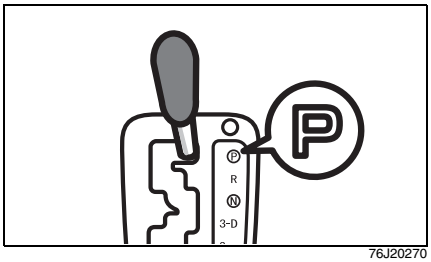
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままでセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P、前進時は D、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



76J20270

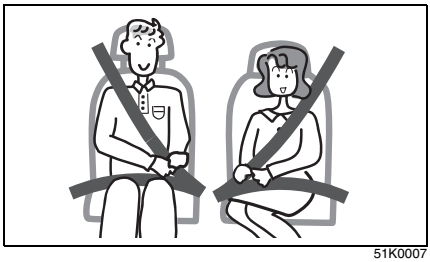
⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、**3-36 ページ**の「**SRS エアバッグ**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

シートベルトは必ず着用



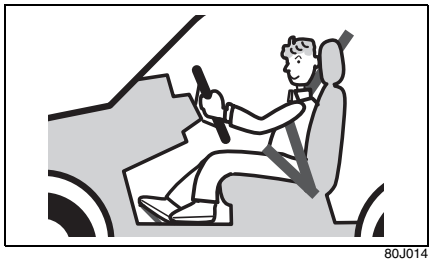
51K0007

⚠ 警告

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席 SRS エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。

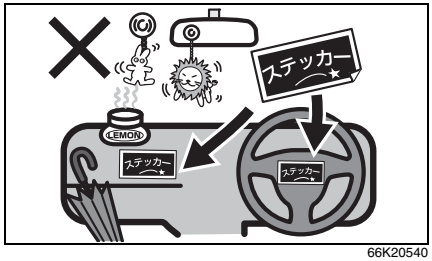


80J014

⚠ 警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために



66K20540

⚠ 警告

- **ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。**
- **インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。**
- **フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。**

お子さま用シートの取付け

→ 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）
→ 3-30ページ（お子さま用シートの選択について）

4WD車を運転するときは

4WD車には特有の操作上の注意があります。**4-16ページ**の「**2WD⇆4WDの切替え操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

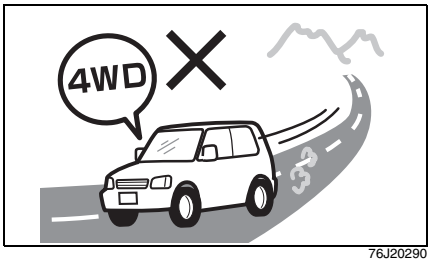
路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**

乾燥した舗装路では、4WDで走行しない



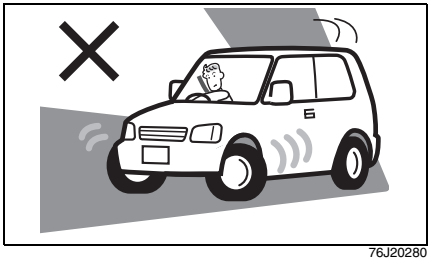
76J20290

⚠注意

濡れた舗装路でも 4WD で走行することは、できるだけ避けてください。タイヤがスリップしにくい路面では、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれず次のような状態が生じます。

- **駆動装置に無理な力がかかって、損傷するおそれがある**
- **タイヤの摩耗が早まる**
- **ハンドルが重くなる**
- **カーブではブレーキがかかったような状態になる**

4WDで急旋回をしない



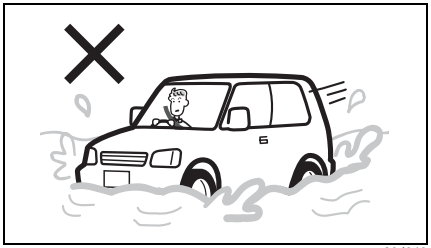
76J20280

⚠注意

4WD で急カーブや脇道、駐車場で急旋回をすると、ハンドルをまわすときの力が大きくなるとともに、タイトコーナーブレーキング現象（※）が起きて、思いがけない事故を起こすおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

※タイトコーナーブレーキング現象とは、直結モードでの急旋回時に、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれない状態が生じ、ブレーキをかけたときと同じ状態になることをいいます。

渡河走行はできるだけ避ける



80J042

注記

- 渡河などの水中走行をすると、エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。
  やむをえず渡河をするときは、次のことをお守りください。
  - あらかじめ河川の深さや地形を確認する
  - 水深 30 cm 以下のところを選び、河川に対して直角または川下方向に渡河する
  - 波を立てないように最徐行（5 km/h以下）し、セレクトレバーやチェンジレバーの操作は避け、一気に渡河する
- 渡河後は、周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。
- 万一、水深 30 cm 以上の河川を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。
  - ブレーキの効き具合
  - エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
  - ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

オフロード走行後は車を点検する

注 記

次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- **車両の下部に損傷がある**
- **オイル量の変化、オイルやグリスの白濁がある**

ターボ車を運転するときは

ジムニー

ターボ車には特有の注意があります。次の内容をよく読み、正しい取扱いをしてください。

ターボ車の取扱い

ターボとは、通常のエンジンより大きな馬力を引き出す精密装置です。ターボ装置内のタービン（羽根）が、排気ガスの圧力で超高速回転することで、エンジンに多量の圧縮空気を送り込みます。タービンを含むターボ装置は700 ℃以上の高温になり、その潤滑と冷却はエンジンオイルによって行なわれています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは定期的に交換してください。
  劣化したオイルのまま運転を続けると、ターボ装置の潤滑と冷却が適切に行なわれず、タービン軸受部の固着や異音の原因となります。
  → **2-28ページ（エンジンオイルを交換するときは）**

- 高速走行直後や登坂走行直後は、すぐにエンジンを停止しないでください。
  次の表にしたがってアイドリング運転を行ない、高温になったターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。

エンジン停止直前の走行状況	アイドリング運転時間の目安
高速走行、登坂走行	約1分
市街地、郊外などの一般走行	不要

- エンジンが冷えているときに、空ぶかしや急加速をしないでください。

注 記

前記にしたがって適切に取り扱わないと、ターボ装置の故障や破損の原因となります。

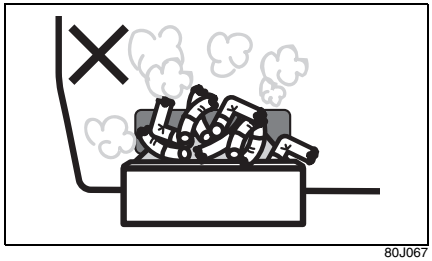
こんなことにも注意して

車検を受けるときの注意

ジムニーシエラ

横滑り防止装置装備車をテスターに載せる場合は、横滑り防止装置を整備モードに切り替える必要があります。切り替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

マッチ、タバコの火は確実に消す



80J067

⚠ 警告

- **マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿は完全に閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、紙など燃えやすい物を入れたりしないでください。**

外装部品に力をかけすぎない

注 記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

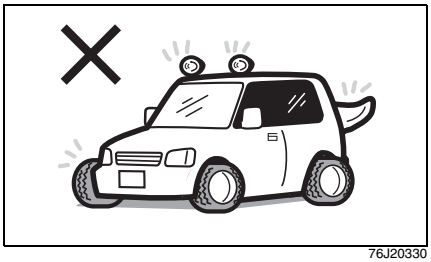
段差などに注意して

注 記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- **路肩など段差がある場所への乗り入れ**
- **わだちやくぼみなどがある道路の走行**

不正改造はしない



76J20330

⚠ 警告

- **この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。**
- **無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取付け、取外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。**

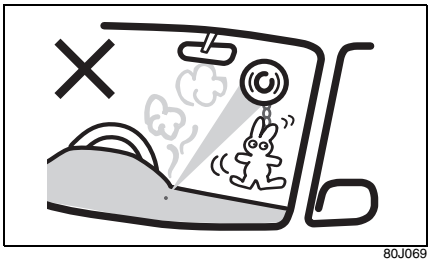
●ホイール、ホイールナットは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

部品の取付け、取外し、修理をするときは

⚠警告

SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。
次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取付けに気をつけて



80J069

⚠警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがのおそれがあります。

飲み物などをこぼしたときは

⚠警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。
- SRSエアバッグシステム
- ナビゲーションまたはオーディオ
- スイッチ、配線などの電気部品
- セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分

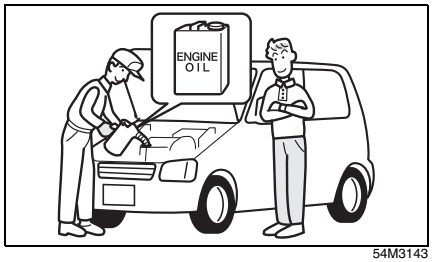
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- ジムニーの場合、標準的な使用方法では、エンジンオイルは **5,000 km** ごと、または**6か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**10,000 km**ごとに交換してください。
- ジムニーシエラの場合、標準的な使用方法では、エンジンオイルは **15,000 km** ごと、または **12 か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**15,000 km**ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
  → **メンテナンスノート**

注 記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表 1、表 2 をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、スズキ純正オイルのご使用をおすすめします。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**

表1

規格		オイル性能
API(※1)/ ILSAC(※2)	SN/GF-5	高
	SM/GF-4	
	SL/GF-3	

表2

規格	ジムニーシエラ	ジムニー
SAE粘度 (※3)	0W-20	5W-30
	5W-30	

※1 API 規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 ILSAC 規格とは、国際潤滑油標準化認証委員会が定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API 規格をベースに省燃費・耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字(Wの付く数字)は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

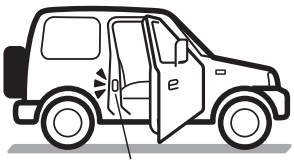
アドバイス

0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。
（ジムニーシエラ）

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認のうえ、調整してください。



76J20050

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（－10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

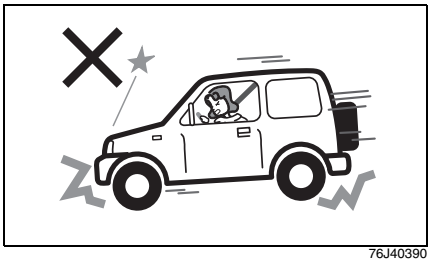
注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

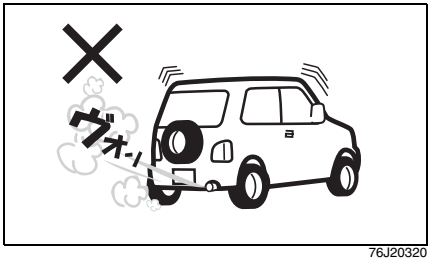
状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5分間で160mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



76J40390

空ぶかしをしない



76J20320

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

MEMO

3. 運転する前に

● **ドアの開閉**
キー ····· 3-2
ドア ····· 3-3
キーレスエントリー ····· 3-6

● **ウインドーの開閉**
パワーウインドー ····· 3-7

● **各部の調節**
ルームミラー ····· 3-10
ドアミラー ····· 3-10
サイドアンダーミラー ····· 3-13

● **シートの調節**
前席シート ····· 3-13
後席シート ····· 3-17
フルフラットシート ····· 3-22

● **シートベルト**
シートベルトについて ····· 3-23
シートベルトの着用のしかた ····· 3-25
シートベルトの取扱いとお手入れ ····· 3-26
シートベルトプリテンショナー（前席のみ） ··· 3-27
シートベルトフォースリミッター
（前席のみ） ····· 3-28
お子さま用シートのシートベルトによる固定 ··· 3-28
お子さま用シートの選択について ····· 3-30

● **SRSエアバッグ**
SRSエアバッグ車を運転するときは ····· 3-36
SRSエアバッグシステムの取扱い ····· 3-38
SRSエアバッグシステムの作動 ····· 3-39
SRSエアバッグ警告灯 ····· 3-42
廃棄と廃車 ····· 3-43
イベントデータレコーダー（EDR)とは ····· 3-43

● **メーター**
メーターの見かた ····· 3-44
警告灯・表示灯の見かた ····· 3-47

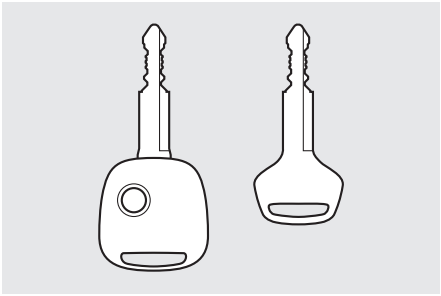
● **スイッチの使いかた**
ライトスイッチ ····· 3-53
フォグランプスイッチ ····· 3-54
光軸調整ダイヤル ····· 3-54
方向指示器スイッチ ····· 3-55
非常点滅表示灯スイッチ ····· 3-56
ワイパー／ウォッシャースイッチ ····· 3-56
ホーンスイッチ ····· 3-58
リヤデフォッガースイッチ ····· 3-58
デアイサースイッチ ····· 3-59

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

- キーが2本ついています。
- キーは、エンジンの始動・停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使用します。
- キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。



76J30010

⚠警告

リモコンキーを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

※リモコンキーは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

⚠注意

キーホルダーのアクセサリーなどは必要最小限にしてください。アクセサリーを多数付けたり、重い物を付けたりすると、走行中の振動などでエンジンスイッチに差したキーがまわるおそれがあります。

また、大きなアクセサリーを付けていると、膝や手などがあたってキーをまわしてしまうおそれがあります。

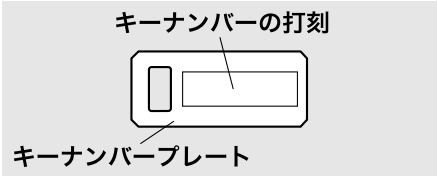
→ 4-2 ページ（エンジンスイッチの各位置のはたらき）

アドバイス

- 盗難などを防ぐため、キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーのご購入については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

キーナンバープレート

キーナンバープレートには、キー作成時に必要なキーナンバーが打刻されています。



68H30020

アドバイス

- お客様以外の方にキーナンバーを知られないよう、キーナンバープレートは車両以外の場所に、大切に保管してください。万一、キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のために、キーナンバープレートをお車のキーとともにお渡しください。

ドア

⚠ 警告

- ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

⚠ 注意

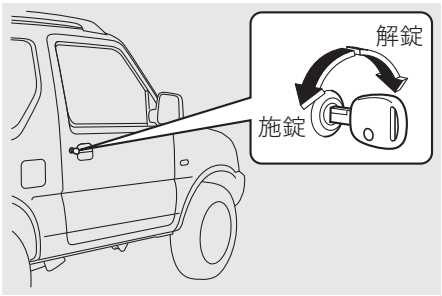
- ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。
- ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。
- バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。

キー操作による車外からの施錠・解錠

→ 3-6ページ（キーレスエントリー）

■ 前席ドア

キーを差し込んで車の前方向にまわすと解錠、後ろ方向にまわすと施錠できます。



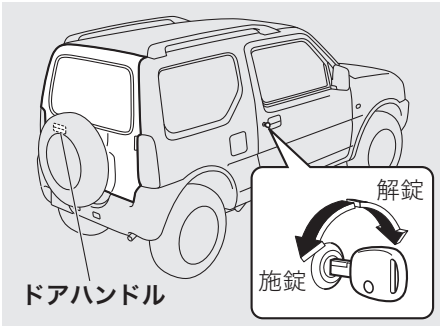
76J30020

■ バックドア

パワードアロック装備車

運転席ドアにキーを差し込んで車の前方向にまわすと解錠、後ろ方向にまわすと施錠できます。

- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドルを手前に引きます。

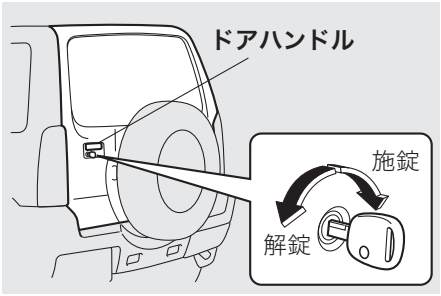


76J30750

パワードアロック非装備車

バックドアにキーを差し込んで、時計方向にまわすと施錠、反時計方向にまわすと解錠できます。

- バックドアを開けるときは、解錠後、ドアハンドルを手前に引きます。



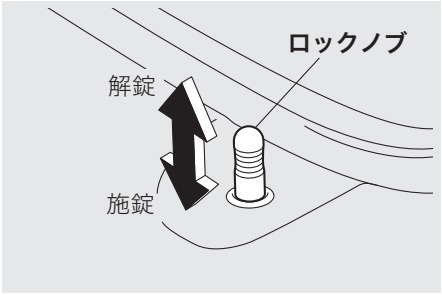
76J30030

⚠警告

車を路肩などに止めて、バックドアを開けたままにしないでください。やむをえずバックドアを開けたままにするときは、安全のため、停止表示板（別売り）などを後方から見やすいところに設置してください。バックドアを開けた状態では、運転席側の灯火類（尾灯、方向指示器／非常点滅表示灯、後部反射器）が後方から見えなくなる場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内からの施錠・解錠

ドアを閉めてロックノブを押し下げると施錠、引き上げると解錠できます。

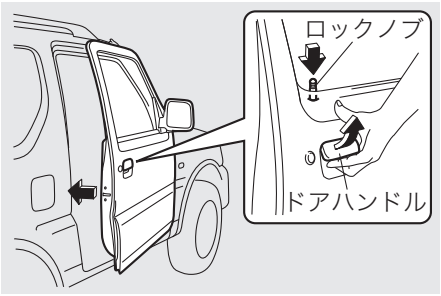


76J30050

キーを使わない施錠

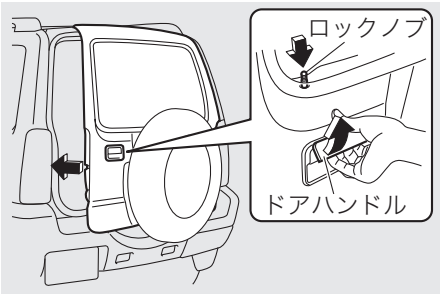
ロックノブを押し下げ、ドアハンドルを引いたままドアを閉めると施錠できます。

前席ドア



76J30060

バックドア



76J30070

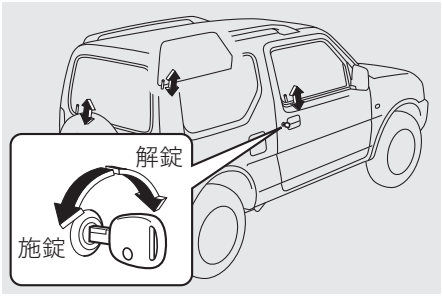
アドバイス

「**キーを使わない施錠**」をするときは、キーが手元にあるか確認してください。キーを閉じ込むおそれがあります。

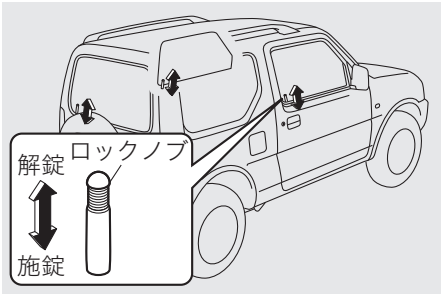
キーまたはロックノブ操作によるパワードアロック

→ **3-6ページ（キーレスエントリー）**

運転席ドアをキーまたはロックノブ操作で施錠・解錠すると、助手席／バックドアも同時に施錠・解錠します。



76J30090

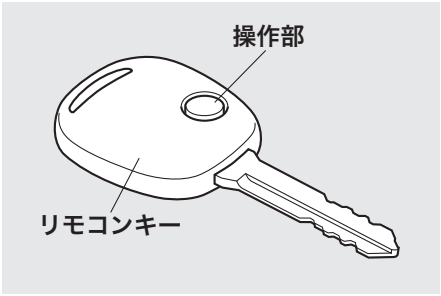


76J30100

キーレスエントリー

車から約 2 m 以内の範囲で、リモコンキーの操作部を押すと、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



76J30080

⚠ 警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めてドアを施錠してください。

注 記

リモコンキーには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**

アドバイス

- 次のようなときは、キーレスエントリーが作動しません。
  - いずれかのドアが開いている
  - エンジンスイッチにキーを差し込んでいる
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 1 台の車両で、2 個のリモコンキーまで登録できます。
- リモコンキーでドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- キーレスエントリーが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
  → **6-7ページ（リモコンキーの電池交換）**
- リモコンキーを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。
- リモコンキーのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

アンサーバック機能

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅		
前席室内灯（スイッチがDOOR位置）		約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に前席室内灯を点灯または点滅させたい場合は、前席室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 前席室内灯が点灯中であっても、次のような操作をすると消灯します。
  - エンジンスイッチにキーを差し込む
  - 運転席ドアのキーまたはロックノブによる施錠
  - キーレスエントリーによる施錠

→ **5-13ページ（室内灯）**

アドバイス

アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

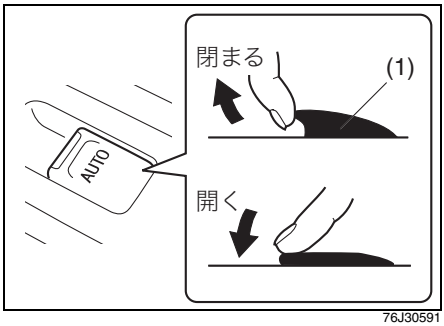
タイマーロック機能

盗難防止のため、自動的にドアを施錠する機能です。

- キーレスエントリーで解錠したあと、約 30 秒以内にいずれのドアも開けなかったときに自動的にドアを施錠します。

パワーウインドー

エンジンスイッチが ON のときに、パワーウインドースイッチ（1）を操作すると、ウインドーの開閉ができます。



76J30591

⚠警告

●パワーウインドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないように注意してください。
●窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスにふれないでください。巻き込まれるおそれがあります。

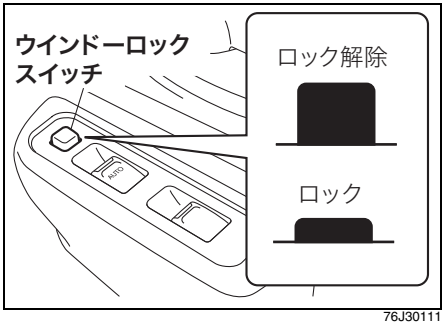
注 記

バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチを押し込むと、助手席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



76J30111

⚠ 警告

お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを [ロック] 位置にしてください。

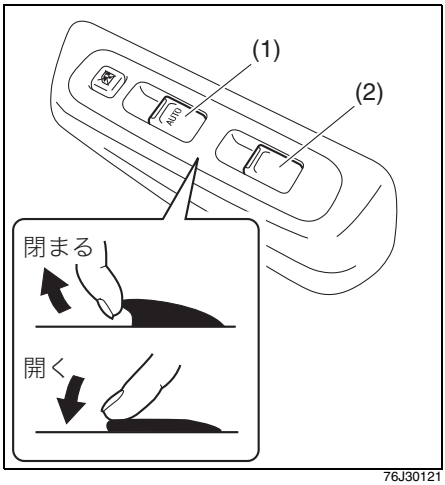
アドバイス

ウインドーロックスイッチが [ロック] 位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

運転席での開閉

運転席および助手席のウインドーが開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。（運転席ウインドーのオート機構を除く）



76J30121

(1) 運転席ウインドースイッチ
（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ

■ 運転席ウインドーのオート機構

運転席ウインドースイッチを強く操作すると、オート機構が作動してスイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。
途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

■ はさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

閉まり切る直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ オート機構の初期設定のしかた

故障などで、運転席ウインドーの自動開閉ができないときは、次の手順でオート機構の初期設定を行なってください。

1 エンジンを始動します。

2 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

3 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

4 そのままスイッチを2秒以上引き上げ続けます。

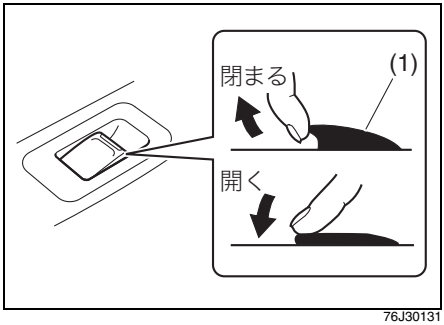
5 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順1～4を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

助手席での開閉

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチ（1）を操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを ロック 位置にしてください。
  → 3-8ページ
  （ウインドーロックスイッチ）



76J30131

アドバイス

ウインドーロックスイッチが ロック 位置のときは、助手席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

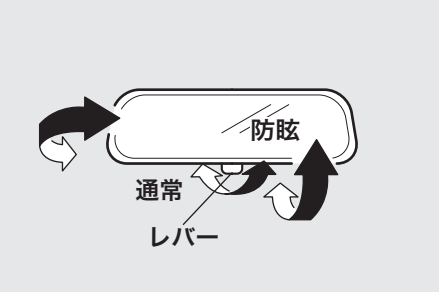
ミラー全体を動かして角度を調節します。

⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

防眩式ルームミラー

通常はレバーを車の前方向に押した状態で使用し、角度の調節もこの位置で行ないます。後続車のライトがまぶしいときは、レバーを手前に引くとライトの反射が弱まります。



76J30600

ドアミラー

角度の調節

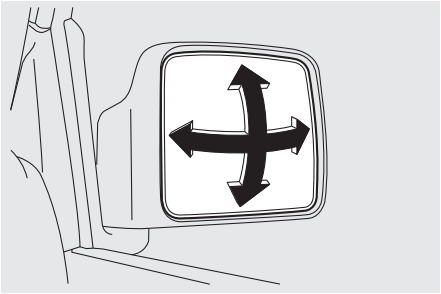
⚠警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 標準ドアミラー

タイプ別装備

ミラー鏡面を指で押して調節します。



76J30350

■ 電動リモコンドアミラー

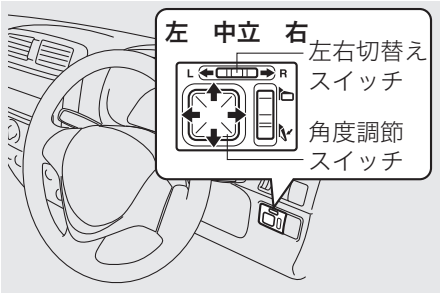
タイプ別装備

ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

1 左右切替えスイッチを、調節したいミラーの側へ動かします。

2 角度調節スイッチを押して、上下左右にミラーを動かします。



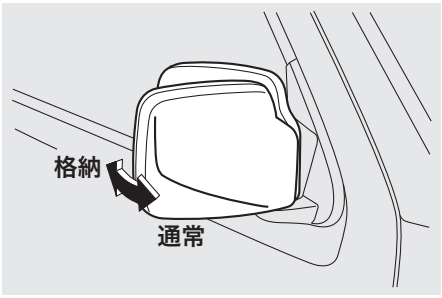
76J30361

アドバイス

調節後は、左右切替えスイッチを中立の位置へもどしてください。

格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に倒すことができます。



76J30320

⚠注意

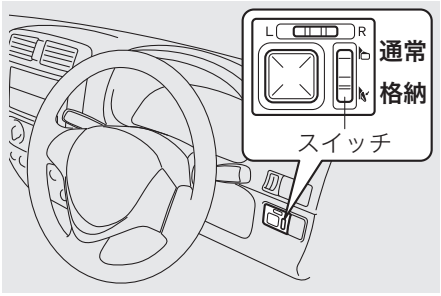
●ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
●ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人や物にあてないように気をつけてください。

■ ドアミラー格納スイッチ

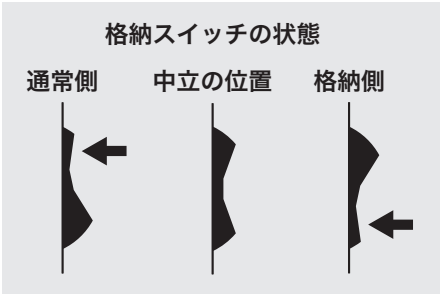
タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- スイッチの格納側を押すと格納され、通常側を押すと通常の位置にもどります。
- スイッチでドアミラーを操作したあとは、スイッチを中立の位置にもどします。



76J30331



76J30340

⚠注意

●動いているドアミラーに触れないでください。手などをはさんでけがのおそれがあります。また、ドアミラー故障の原因となります。

●格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。
その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注 記

エンジンスイッチが ACC または ON の位置にあるときは、手でドアミラーを操作しないでください。ドアミラー故障の原因となります。

アドバイス

- ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。
- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを ACC または ON にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

ドアミラーヒータースイッチ

タイプ別装備

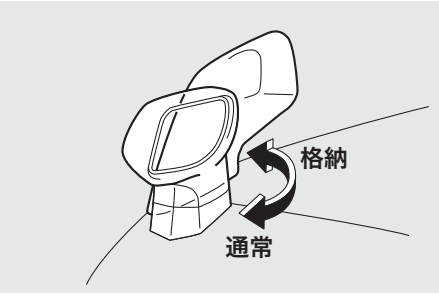
ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。

→ 3-58ページ
（リヤデフォッガースイッチ）

サイドアンダーミラー

停車時およびごく低速時に、車両左側助手席付近を確認するときに使用します。

- 狭い場所で駐車するときなどに、サイドアンダーミラーを手でまわすと、格納することができます。



76J30380

⚠注意

- **サイドアンダーミラーを格納したまま走行しないでください。安全確認ができず、事故を起こすおそれがあります。**
- **サイドアンダーミラーを車外の人や物にあてないように気をつけてください。ジムニーの場合、サイドアンダーミラーは車体より張り出しています。**
- **後方の確認は、ドアミラーまたはルームミラーで行なってください。**
- **ミラーだけにたよらず車からおりて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。**

注記

サイドアンダーミラーを格納したときは、ボンネットを開閉しないでください。サイドアンダーミラーおよびボンネットが破損するおそれがあります。

アドバイス

サイドアンダーミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

前席シート

⚠注意

- **シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体にあてたりしないように気をつけてください。**
  → 2-8ページ（シート、ミラーの調節は走行前に）
- **シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。**

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすき間のないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。



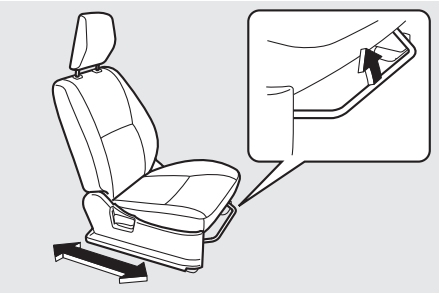
68H30660

⚠ 警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

前後位置の調節

スライドレバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。



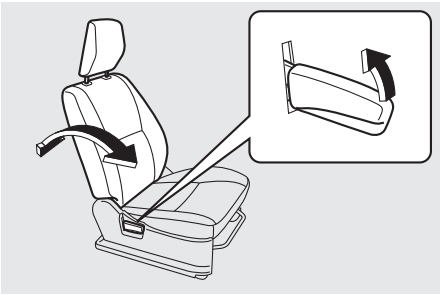
76J30201

⚠ 警告

シートの下に物を置かないでください。物がはさまって、シートが固定されないおそれがあります。（シートアンダートレー（タイプ別装備）内を除く）

背もたれの角度調節

- 後方へ倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方へ起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



76J30211

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトや SRS エアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。

⚠注意

背もたれから離れてリクライニングレバーを操作すると、背もたれが急に起きあがって前方に倒れることがあります。手などをそえて操作してください。

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

■ 高さの調節

走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを押し下げます。

■ 取外しかた

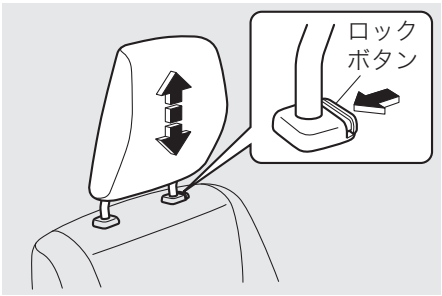
ロックボタンを押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。



76J30221

⚠警告

ヘッドレストは、しっかりと固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

後席シートへの乗り降り（助手席ウォークイン）

助手席シート全体を車の前方向へ動かすと、後席シートへの乗り降りをするためのスペースができます。

■ 乗り降りをするときは

1 助手席のリクライニングレバーをいっぱいに引き上げるか、ウォークインペダルを押し下げて、背もたれを前方へいっぱいまで倒します。

2 そのままシート全体を車の前方向へいっぱいまでスライドさせます。



76J30231

■ もとにもどすときは

助手席の背もたれを起こし、固定される位置までシートを車の後ろ方向へスライドさせます。

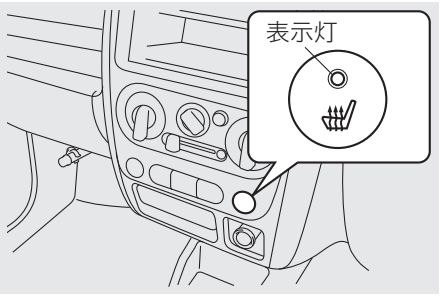
- シートを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

運転席・助手席シートヒータースイッチ

ジムニーは限定車特別装備

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

- エンジンスイッチが ON のときにスイッチを押すと、運転席および助手席のヒーターが作動して、スイッチ内の表示灯が点灯します。もう一度押すと、ヒーターが止まります。
- シートがお好みの温度になったら、ヒーターを止めてください。



76J30240

⚠注意

●長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。
●毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。

注 記

●シートの上に重い荷物を置いたり、針やくぎなどをシートに刺したりしないでください。

●シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。
→ 6-4ページ（内装のお手入れ）

●水やジュースなどをこぼしたときは、柔らかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。
●バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。

アドバイス
●運転席のシートヒーターのみ、または助手席のシートヒーターのみを作動させることはできません。
●ヒーターは自動停止しません。スイッチを切らないと、作動し続けます。

後席シート

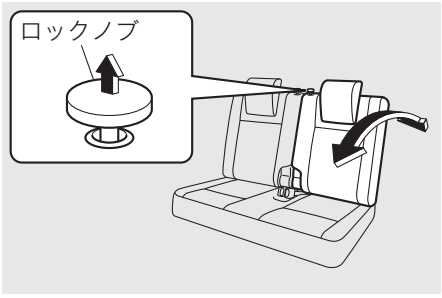
⚠注意

●シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体にあてたりしないよう気をつけてください。
●シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。

背もたれの角度調節

1 片方の手を背もたれにそえ、もう一方の手で背もたれ上面にあるロックノブを引き上げます。
- シートからおりて操作してください。シートにすわったままロックノブを引き上げると、背もたれが急に最大角度まで倒れこむことがあります。

2 ロックノブを引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで倒します。



76J30250

3 ロックノブから手を離し、固定される位置まで背もたれを倒します。

⚠警告

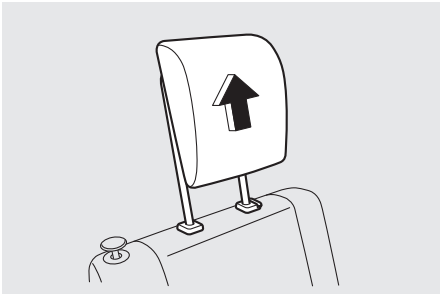
背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。

ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

タイプ別装備

■ 使用時の位置

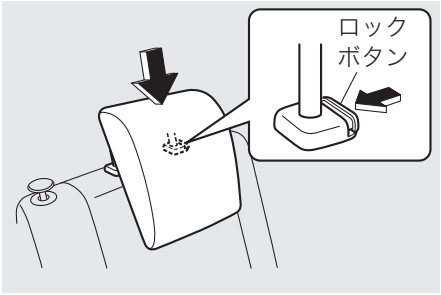
使用するときは、ヘッドレストを手で持ち上げ、しっかりと固定します。



76J30760

■ 収納時の位置

収納するときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを一番下まで押し下げます。



76J30770

■ 取外しかた

ロックボタンを押したまま引き抜きます。

⚠注意

取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 取付けかた

ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

⚠警告

- **ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。**
  ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。
- **お子さま用シートを取り付けるときは、お子さま用シートがヘッドレストに当たるのを防ぐため、ヘッドレストを固定できる範囲で一番高い位置に調節するか取り外してください。ヘッドレストが当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

背もたれの倒しかた

背もたれを前方へ倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されてけがのおそれがあります。

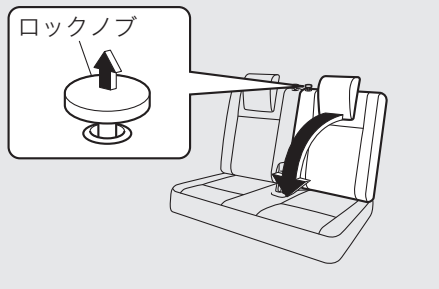
⚠注意

背もたれを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

■ 倒しかた

1 ヘッドレスト（タイプ別装備）を一番低い位置へ調節します。

2 背もたれ上面のロックノブを引き上げたまま、背もたれを前方へ倒します。

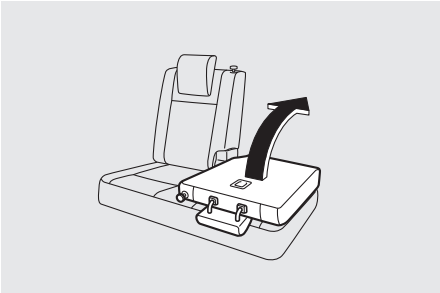


76J30270

- 後席のヘッドレスト（タイプ別装備）が前席に当たる場合は、前席を前方へ動かしてください。

■ 起こしかた

背もたれを起こし、固定される位置まで車の後ろ方向へ押し付けます。



76J30280

- 背もたれを前後にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用金具

後席には、ECE R44（※1）の基準に適合したISOFIX（※ 2）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれの間にある金具が、ISOFIX対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれ裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ECE R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※3）】の規格です。
※3 ISO とは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

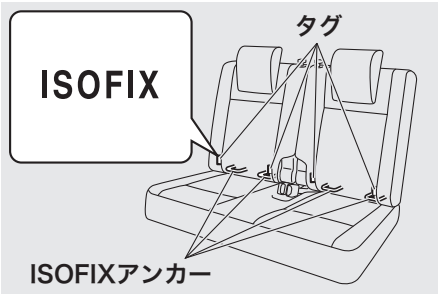
＜スズキ純正用品の場合＞

	ISOFIX アンカー	テザーアンカー
ISOFIXタイプのベビーシート（後ろ向きに固定）	○（使用）	○（使用）
ISOFIXタイプのチャイルドシート（前向きに固定）	○（使用）	○（使用）

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-30 ページ（お子さま用シートの選択について）**
- ISOFIXタイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、**3-28ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

■ 固定のしかた

1 ISOFIX アンカーの位置を確認します。
- 座面と背もたれのすき間にあります。

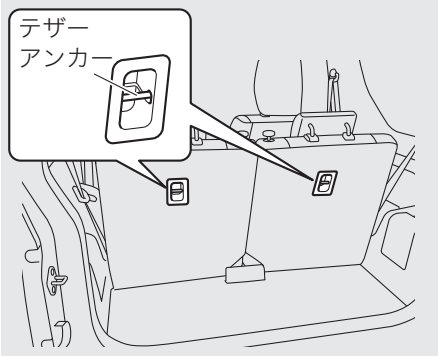


76J30610

- 上図の後席は代表例です。お車のタイプにより異なります。

アドバイス
ISOFIX アンカーがある付近には、前図のようなタグがついています。

2 テザーアンカーの位置を確認します。
- 背もたれ裏側にあります。

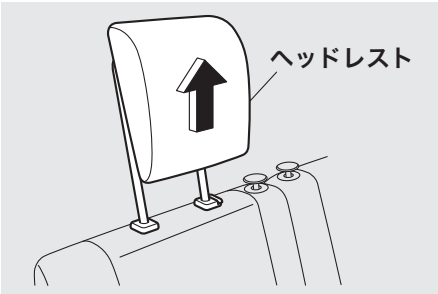


76J30620

- 上図の後席は代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 後席のヘッドレスト（タイプ別装備）は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。

→ **3-18 ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**



76J30400

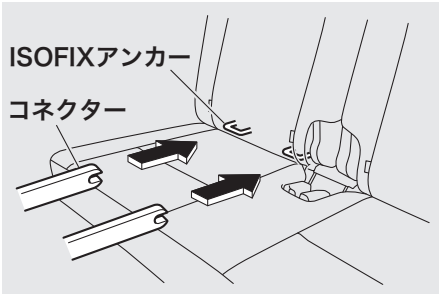
⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

4 お子さま用シートを後ろ向きに取り付けるときは、お子さま用シートと前席が干渉しないように、前席を前方へスライドさせます。（**3-34 ページ**参照）

5 座席が確実に固定されているか確認します。

6 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクターを ISOFIX アンカーへ差し込みます。

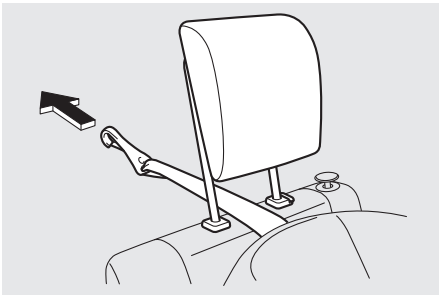


76J30630

7 テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。

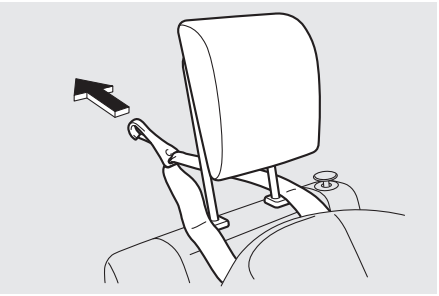
- ヘッドレスト（タイプ別装備）を取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

テザーベルト1本の場合



76J30640

テザーベルト2本の場合



76J30650

8 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

⚠警告

●お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIXアンカーやテザーアンカー周辺にシートベルトや異物などがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

●荷物の固定などに、ISOFIXアンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

フルフラットシート

前席と後席の背もたれを後方へ倒すと、室内に連続的な空間が作れます。

⚠警告

フルフラットにしたシートに、人や荷物をのせて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに投げ出されたり、荷物が身体にあたったりして重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

●フルフラットにしたシートの上を歩きまわらないでください。シートから足を踏み外すと、けがのおそれがあります。

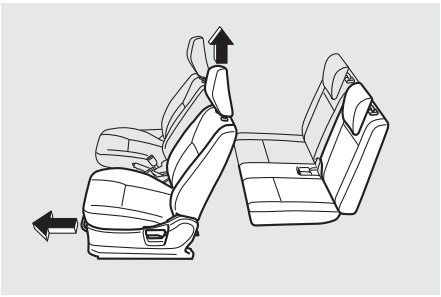
●シートをもとにもどしたときは、クッションや背もたれをゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。シート自体の固定が不確実な場合、走行中に突然シートが動いたり、背もたれが前に倒れたりして、思わぬけがをするおそれがあります。

注 記

シートに強い衝撃をあたえないでください。シートが損傷することがあります。

フルフラットにするときは

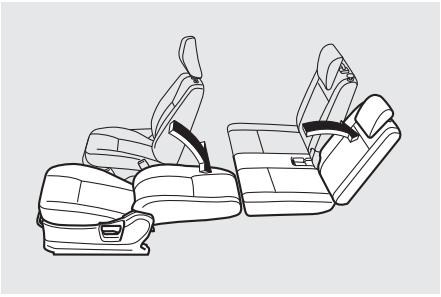
1 前席のヘッドレストを外し、前席を前方へいっぱいまでスライドさせます。



76J30291

- 上図の後席は代表例です。お車のタイプにより異なります。

2 前席と後席の背もたれを、後方へいっぱいまで倒します。後席はフラットになりません。



76J30301

もとにもどすとき

「**フルフラットにするときは**」と逆の手順で操作します。

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトを着用するときは、次のことに注意してください。

- シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。
- ベルトがねじれないように着用します。
- 腰ベルトは、腰のできるだけ低い位置にかけます。
- 肩ベルトは、首と肩先の中央にかけます。
- ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。
  → **3-14ページ（正しい運転姿勢）**



70K216

⚠警告

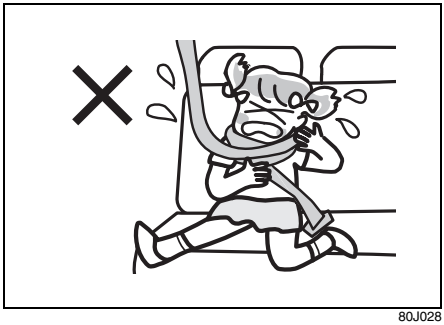
●走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
●背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。
●助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

お子さまもシートベルトを着用

→ 2-4ページ(お子さまを乗せるときは)

⚠ 警告

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合はハサミでベルトを切断してください。



80J028

妊娠中や疾患のある方は

⚠ 警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**



80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。

→ 3-48ページ(シートベルト警告灯)

アドバイス

- 運転者がベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がベルトを着用しなくても、約95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK にするまで消灯しません。

シートベルトの長さ調節

シートベルトは、長さ調節が必要ありません。身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

シートベルトの着用のしかた

■ 着用のしかた

1 タングプレートとシートベルトをつかみ、ベルトをゆっくりと引き出します。
ベルトのねじれを取ります。



68H40040

アドバイス

ベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2 タングプレートをバックルの差し込み口にまっすぐになるように合わせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



68H40050

3 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

4 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

5 ベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

■ 外すときは

バックルのボタンを押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、ベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



68H40060

アドバイス

ベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

シートベルトを正しく着用する

⚠ 警告

- **シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。**
- **ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。**

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

⚠ 警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、ベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。ベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがありますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **ベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、ベルトがたるみなく巻きもどされているか確認してください。**
- **ベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。

→ **6-4ページ（布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ）**

⚠警告

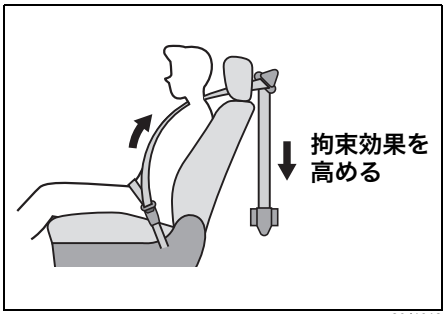
漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

シートベルトプリテンショナーとは

エンジンスイッチが ON のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。

- 車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。
  → **3-39ページ（SRSエアバッグシステムの作動）**



80J1018

アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの機能に影響をあたえる部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。

→ **2-27 ページ（部品の取付け、取外し、修理をするときは）**

SRSエアバッグ警告灯



67H30180

メーターパネル内にあります。

- シートベルトプリテンショナー、SRSエアバッグが作動した、または電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

廃棄や廃車

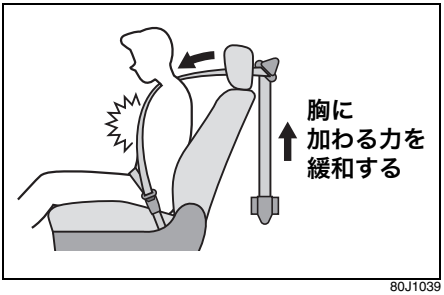
作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

⚠注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

シートベルトフォースリミッター（前席のみ）

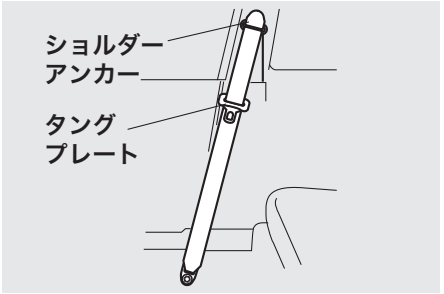
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルトフォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠ 警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部およびタングプレート部の樹脂が強いまさつで溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。スズキサービス工場で交換してください。



76J30390

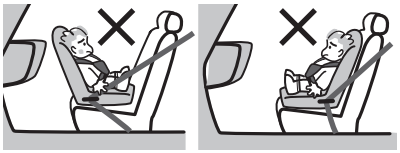
お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。
  → **3-30 ページ（お子さま用シートの選択について）**

- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、**3-20ページ**の「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具**」をお読みください。

⚠ 警告

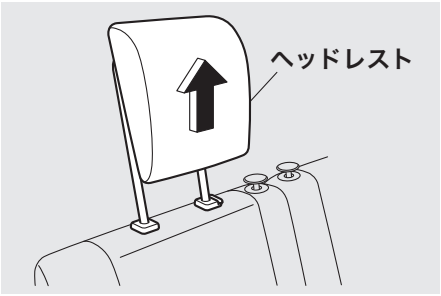
助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。



67H20440

固定のしかた

1 ヘッドレスト（タイプ別装備）は、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ **3-18ページ(ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け)**



76J30400

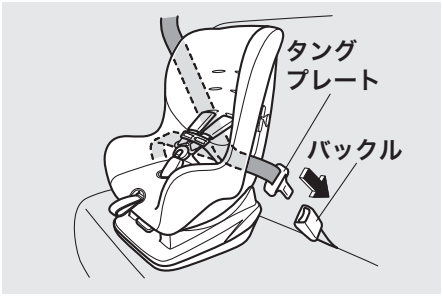
⚠ 警告

ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

2 お子さま用シートと背もたれの間にすき間ができないように背もたれの角度を調節し、座席が確実に固定されているか確認します。

3 お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、所定の部位にシートベルトを通します。

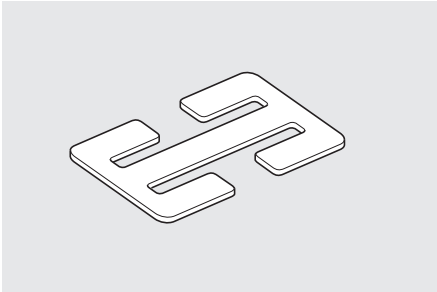
4 カチッと音がするまで、タングプレートをバックルにしっかりと差し込みます。



76J30660

- 上図のお子さま用シートは代表例です。

5 お子さま用シートにシートベルト固定機構もロッキングクリップもそなわっていない場合は、別売りのロッキングクリップを使用してしっかりと固定します。



68H40431

- 上図のロッキングクリップ（別売り）は代表例です。

⚠ 警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

6 お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

- 確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠ 警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

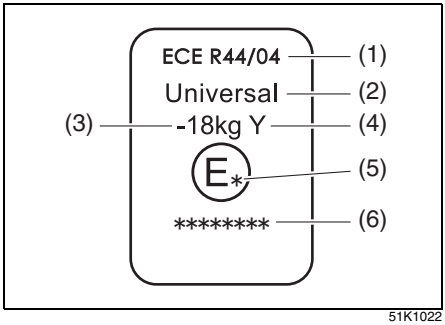
お子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格に合った適切なものを選んでください。

- **2-4 ページ**の「**お子さまを乗せるときは**」もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具（ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー）を装備しています。
  → **3-20ページ（ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具）**

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

ECE R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。



51K1022

(1) 法規番号
(2) お子さま用シートのカテゴリー（※2）
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 装置の仕様
(5) お子さま用シートを認可した国番号
(6) お子さま用シートの認可番号

- 上図の認証マークは代表例です。

※1 ECE R44とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 前図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、ECE R44の基準に適合しています。

ECE R44 の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→ **3-33ページ（ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表）**

■ 質量グループについて

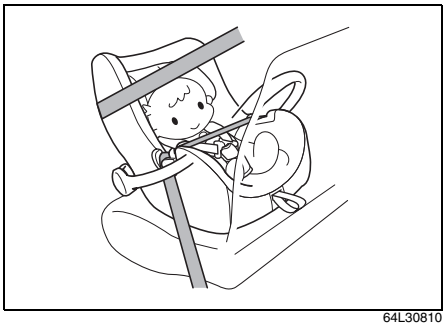
- ECE R44 の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループ I	9～18kg
グループ II	15～25kg
グループ III	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

ベビーシート

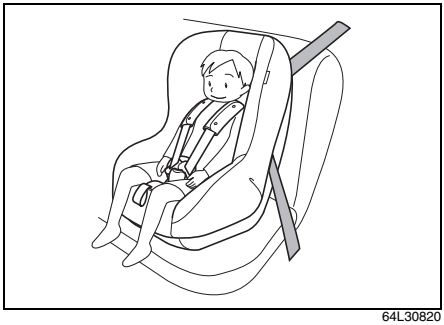
後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ**0**、**0+**に相当します。



64L30810

チャイルドシート

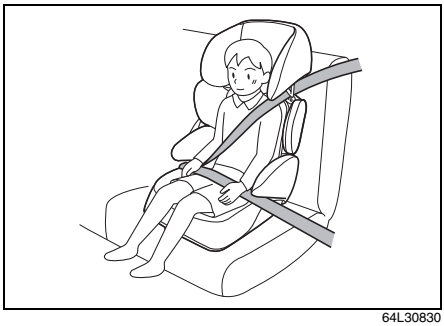
前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ **I** に相当します。



64L30820

ジュニアシート

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。ECE R44 基準のグループ **II**、**III** に相当します。



64L30830

■ ISOFIXタイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (ISO/F2とは別形状)
C	ISO/R3	大型後ろ向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後ろ向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後ろ向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

ECE R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置	
	助手席	後席
グループ0 （10kgまで）	X	U
グループ0+ （13kgまで）	X	U
グループⅠ （9～18kg）	X	U
グループⅡ （15～25kg）	X	UF
グループⅢ （22～36kg）	X	UF

＜上表に記入する文字の説明＞

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

UF　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きお子さま用シートに適しています。

X　：お子さま用シートの取付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-28 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。
- ISOFIXタイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次ページの「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定**」をお読みください。

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置	
			助手席	後席
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X
	G	ISO/L2	N.A.	X
グループ0（10kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL 注1)、注2)
グループ0+（13kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL 注1)、注2)
	D	ISO/R2	N.A.	IL 注1)、注3)
	C	ISO/R3	N.A.	IL 注1)、注4)
グループⅠ（9～18kg）	D	ISO/R2	N.A.	IL 注1)、注3)
	C	ISO/R3	N.A.	IL 注1)、注4)
	B	ISO/F2	N.A.	IUF 注1)
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF 注1)
	A	ISO/F3	N.A.	IUF 注1)
グループⅡ（15～25kg）			N.A.	X
グループⅢ（22～36kg)			N.A.	X

＜上表に記入する文字の説明＞

IUF ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。

IL ：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「スズキ純正ベビーシート」に適しています。

X ：ISOFIX 対応お子さま用シートの取り付けには適していません。固定専用金具を使わずにシートベルトを使用して固定してください。**3-28 ページ**の「**お子さま用シートのシートベルトによる固定**」をお読みください。

N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIXタイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

注1） お子さま用シートを取り付ける座席のヘッドレストを使用時の位置に調節します。

注2） お子さま用シートと前席が干渉しないように、前席を前方（最前端から 4 ノッチ分の約60 mmまでの間）へスライドさせます。

注3） お子さま用シートと前席が干渉しないように、前席を前方（最前端から 3 ノッチ分の約45 mmまでの間）へスライドさせます。

注4） お子さま用シートと前席が干渉しないように、前席を前方（最前端から 1 ノッチ分の約15 mmまでの間）へスライドさせます。

→ **3-14ページ（前後位置の調節）**

→ **3-18ページ（ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け）**

- チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、**3-20ページ**の「**ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具**」をお読みください。

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

SRSエアバッグ車を運転するときは

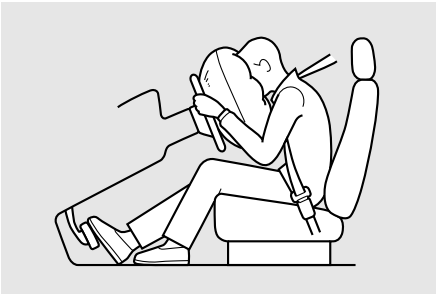
SRSエアバッグシステムとは

SRS とは Supplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席 SRS エアバッグシステム

エンジンスイッチが ON の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面があたるような強い衝突のときに、運転席・助手席 SRS エアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

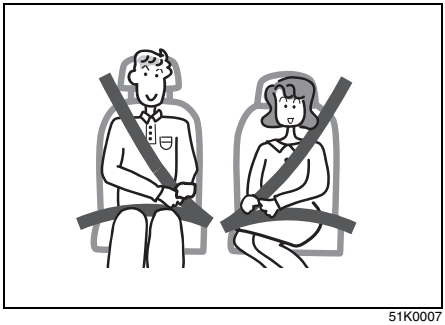
- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、シートベルトを着用した運転席・助手席乗員の主に顔面への衝撃を軽減する効果があります。シートベルトは必ず着用してください。
  → **3-25ページ（シートベルトの着用のしかた）**



68H40150

⚠警告

- **SRS エアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。**
- **シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRS エアバッグの効果が十分発揮できません。**



51K0007

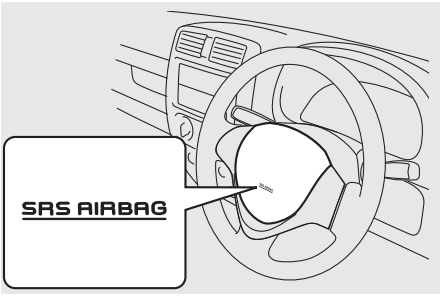
アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に同乗者がいなくても、運転席 SRS エアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

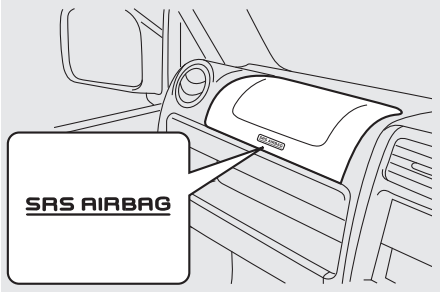
“SRS AIRBAG”の表示がある部分に収納されています。

■ 運転席SRSエアバッグ



76J30431

■ 助手席SRSエアバッグ



76J30440

⚠ 警告

- **エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。**
- **エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

着座姿勢

運転者および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してください。
とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。
→ **3-14ページ（正しい運転姿勢）**



68H30660

お子さま用シートの取付け

→ **2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）**
→ **3-28 ページ（お子さま用シートのシートベルトによる固定）**
→ **3-30 ページ（お子さま用シートの選択について）**

SRSエアバッグシステムの取扱い

SRS エアバッグシステムを正常に機能させるために

SRSエアバッグがふくらむ範囲に物があると、物が飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

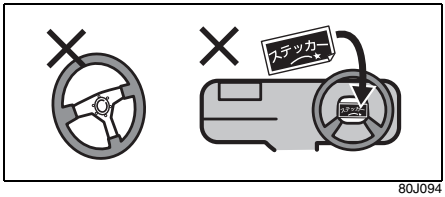
⚠ 警告

- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRS エアバッグの誤作動の原因になります。
- 車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRS エアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。
- SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても､事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください｡システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRS エアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  - ハンドルの取外し、ハンドルまわりの修理など
  - インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
  - オーディオ用品などの取付け
  - ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
  - センターピラーまわりの修理

■ 運転席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどして、SRS エアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルを交換する、ハンドルのパッド部にステッカーを貼る、色をぬる、カバーでおおうなどの改造をしないでください。万一のときにSRSエアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。



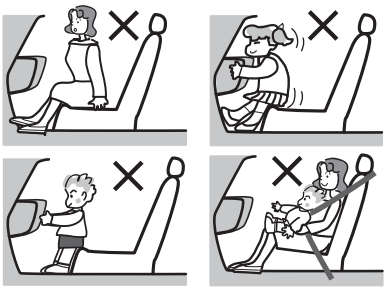
80J094

■ 助手席SRSエアバッグについて

⚠ 警告

- 助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは､必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で､重大な傷害を受けるおそれがあります。

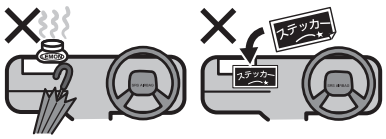
- インパネのSRSエアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



80J095

- シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。
  → 2-6 ページ（お子さま用シートの使用について）
  → 3-30ページ（お子さま用シートの選択について）

●インパネ上面には、ステッカーを貼ったり色をぬったりしないでください。また、アクセサリーや芳香剤、ETC車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



80J096

●フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正用品を除く）などを取り付けないでください。

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠ 警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

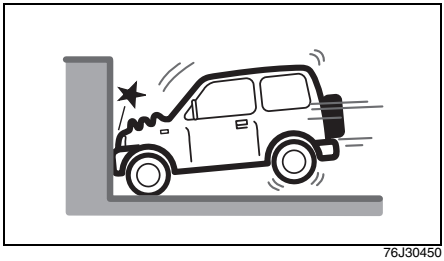
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

こんなとき作動します

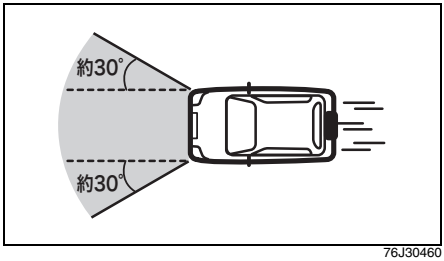
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約 25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



76J30450

- 車両の前方約　30°以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



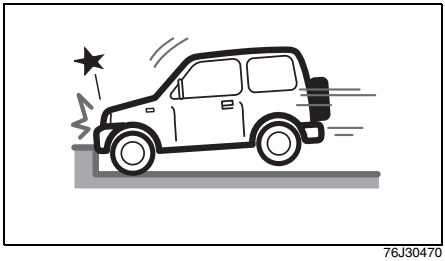
76J30460

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

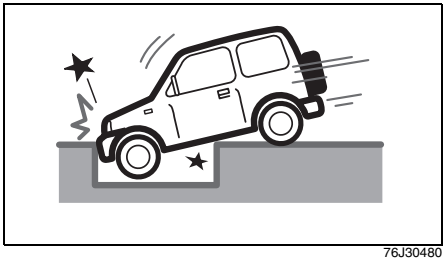
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



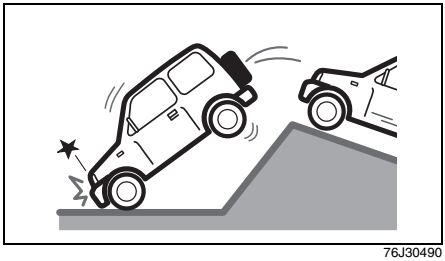
76J30470

- 深い穴や溝などに落ちたとき



76J30480

- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



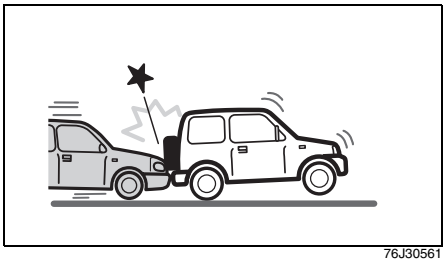
76J30490

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

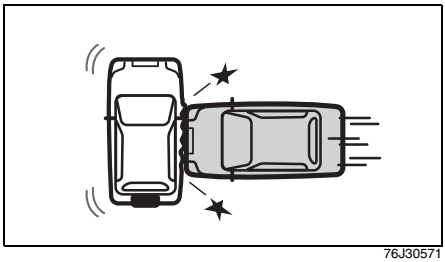
後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



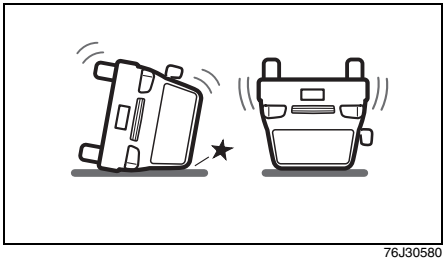
76J30561

● 横方向からの衝突



76J30571

● 横転や転覆をしたとき



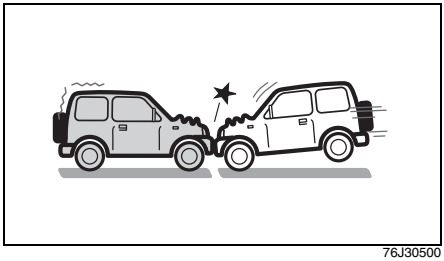
76J30580

こんなとき作動しないことがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

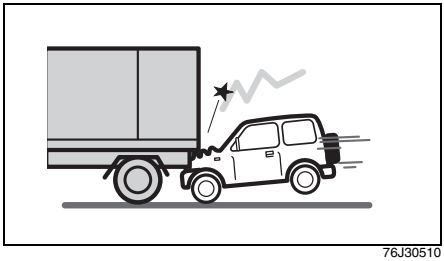
衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

● 停車している同程度の重さの車に、50 km/h程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



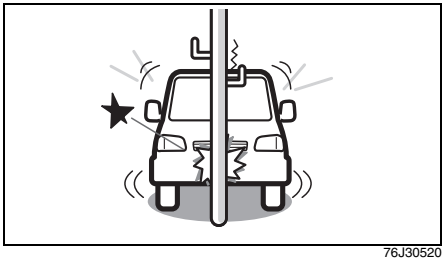
76J30500

● トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



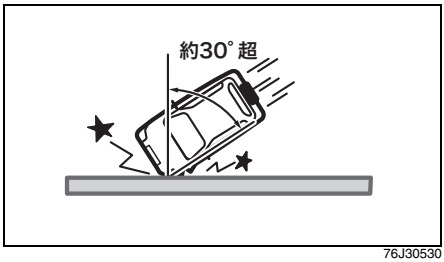
76J30510

● 電柱や立木などに衝突したとき



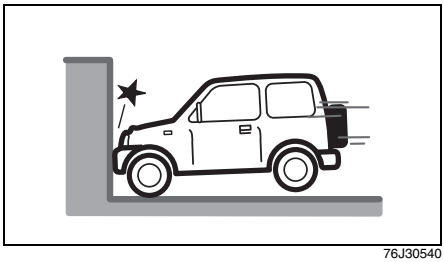
76J30520

● 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



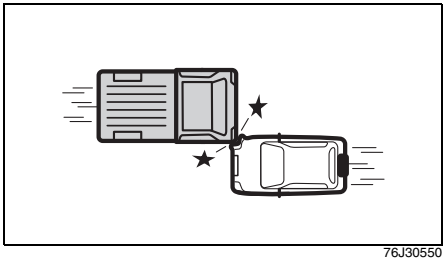
76J30530

● 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25 km/h以下のとき



76J30540

● 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



76J30550

SRSエアバッグ警告灯



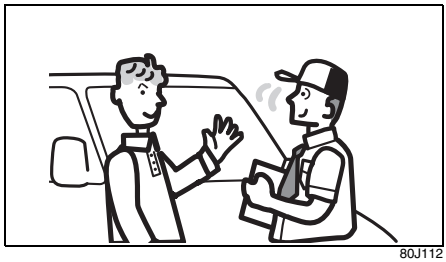
67H30180

メーターパネル内にあります。

● SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動した、または電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

廃棄と廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。


80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがをすることがあります。

イベントデータレコーダー(EDR)とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRSエアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー(EDR) システムを備えています。

EDRに記録するデータ

- SRS エアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

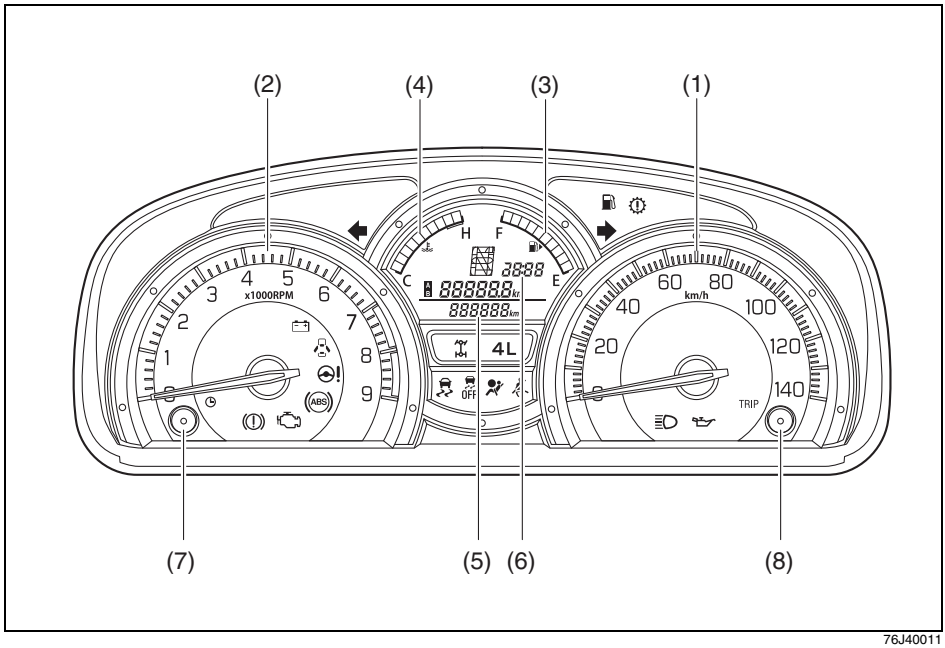
EDRデータの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



76J40011

(1) スピードメーター(速度計)
(2) タコメーター(エンジン回転計)
(3) 燃料計
(4) 水温計
(5) オドメーター／トリップメーター
(6) 時計
(7) 時刻あわせノブ
(8) 表示切替えノブ

(1) スピードメーター(速度計)

走行速度がkm/hで示されます。

(2) タコメーター (エンジン回転計)

1分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

注記

- **エンジン保護のため、指針がレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。**
  ※エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲
- **シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。**
  → 4-7ページ (シフトダウンの上限速度)

(3) 燃料計

エンジンスイッチが ON のとき、燃料残量の目安が表示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。また、燃料計の目盛り（一つ）が点滅したときは、燃料がほとんどないことをお知らせしています。
  → **3-49ページ（燃料残量警告灯）**

アドバイス

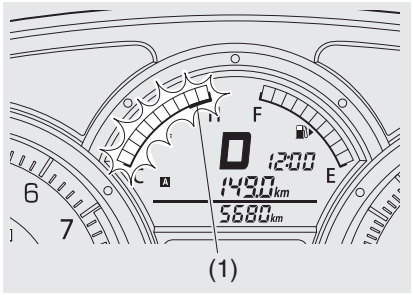
- 給油後は、エンジンスイッチを ON にしてから表示が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の右にある ▶ 印は、給油口（フューエルリッド）が運転席側の車両後方にあることを示します。

(4) 水温計

エンジンスイッチが ON のとき、エンジン冷却水の温度の目安が表示されます。

注 記

オーバーヒート範囲 (1) になると目盛り全体が点滅します。点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
→ 7-28ページ（オーバーヒートしたときは）

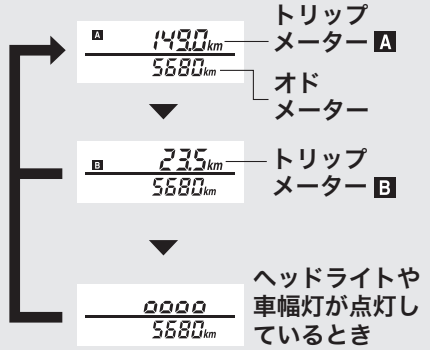


76J30780

(5) オドメーター／トリップメーター

エンジンスイッチを ON にすると、オドメーターとトリップメーター A または B が表示されます。
メーター内の表示切替えノブを短押しすると、次の図のように表示が切り替わります。

図の値は表示例です



照明コントロール表示

76J40021

⚠ 警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

表示は、ノブを離したときに切り替わります。

オドメーター（積算距離計）
新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計が km 単位で表示されます。（リセットはできません）

トリップメーター（区間距離計）
リセット後の走行距離が km 単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- A および B の2種類の走行距離を同時に計測できます。

＜使いかたの例＞
A ：出発時にリセットして、出発後の距離を計測
B ：給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまで表示切替えノブを長押しします。

アドバイス
トリップメーターの最大値は 9999.9 で、そのあと 0.0 にもどります。（距離計測は継続されます）

(6)時計

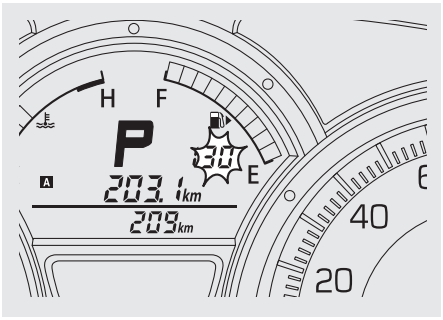
エンジンスイッチを ON にすると、表示されます。

時刻あわせ

警告
走行中は、時刻あわせをしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

1 エンジンスイッチを ON にします。

2 時刻あわせノブを長押しすると「分」が点滅します。



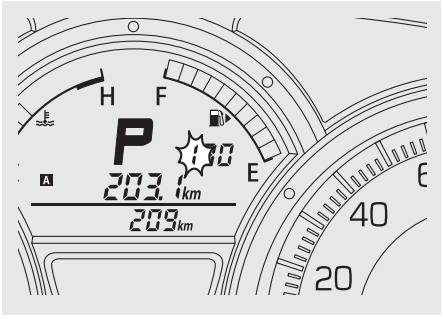
76J30790

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

3 時刻あわせノブを押して「分」をあわせます。

4 時刻あわせノブを離してから約5秒後に、「時」が点滅します。同じ手順で「時」をあわせます。

アドバイス
値をあわせるとき、時刻あわせノブを短押しすると値が1ずつ進み、長押しすると早送りされます。



76J30800

5 時刻あわせノブを離してから約5秒後に、時刻が点灯に変わり、確定します。

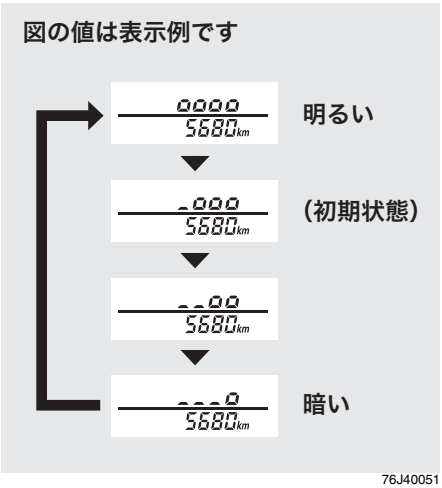
メーターの照明

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

■ メーターの明るさ調節

4段階に調節できます。

- ヘッドライトや車幅灯を点灯し、照明コントロール表示（**3-45ページ**参照）にしたうえで、表示切替えノブを長押しします。明るさが１段階ずつ変化します。



76J40051

⚠ 警告

走行中は明るさ調節をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを短押しするか5秒以上押さないでいると、オドメーター/トリップメーターの表示に切り替わります。
- バッテリーを外すと記憶が消去され、初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。

警告灯・表示灯の見かた

次に示す警告灯・表示灯のメーター内の位置については、**1-10 ページ**をご覧ください。

(1) ブレーキ警告灯



67H30410

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  - ブレーキ液が不足している
  - パーキングブレーキをかけている
  - ブレーキシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを ON にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ正常です。

⚠ 警告

●次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
・ブレーキ警告灯がパーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

ジムニーシエラ
・ブレーキ警告灯がABS警告灯と同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

⚠警告

●パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

(2) シートベルト警告灯



67H30420

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約95秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを ACC または LOCK にするまで消灯しません。

(3) SRSエアバッグ警告灯



67H30180

- 次のような場合、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯します。
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
  - SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約6秒間点滅したあと消灯します。

⚠警告

次のような場合、ただちに使用を止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。万一、衝突したとき SRS エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **エンジンスイッチを ON にしても点滅しない**
- **エンジンスイッチを ON にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**
- **運転中に点灯**

(4) 燃料残量警告灯



67H30440

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。すみやかに給油してください。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  → **3-45ページ（燃料計）**

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

(5) ABS警告灯



67H30450

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

ジムニーシエラ

ABS 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

(6) エンジン警告灯



67H30470

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。

- **枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する**
- **やむをえず走行する場合はアクセルペダルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する**

(7) パワーステアリング警告灯

ジムニー



67H30480

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

(8) 油圧警告灯



68H31180

エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

(9) 充電警告灯



67H30490

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

(10) トランスミッション警告灯

オートマチック車



76J30680

AT（オートマチックトランスミッション）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを ON にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。

(11) 半ドア警告灯

ジムニーシエラ



76J30690

いずれかのドアが完全に閉まっていないと点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

⚠ 警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

(12) セレクトレバー位置表示

オートマチック車

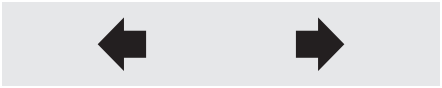


76J40081

エンジンスイッチが ON のときに、セレクトレバーの位置を示します。

→ **4-8 ページ（セレクトレバーの各位置のはたらき）**

(13) 方向指示器表示灯



76J40071

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

(14) ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯



67H30530

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

(15) 4WD表示灯



76J40090

→ **4-16ページ**
(2WD⇆4WDの切替え操作)

(16) 4L表示灯



76J40101

→ **4-16ページ**
(2WD⇆4WDの切替え操作)

(17) 横滑り防止装置OFF表示灯

ジムニーシエラ



76J30810

横滑り防止装置OFFスイッチを長押しすると点灯します。

→ **4-24ページ**
(横滑り防止装置装備車の取扱い)

(18) 横滑り防止装置作動表示灯

ジムニーシエラ



76J30820

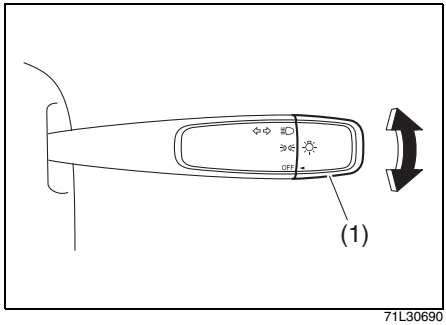
- 横滑り防止装置およびトラクションコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。
- 横滑り防止装置のシステムに異常があると点灯します。

→ **4-24ページ**
(横滑り防止装置装備車の取扱い)

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミ（1）をまわすと次のように点灯・消灯します。



71L30690

ライトスイッチの位置	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯、計器照明灯
≡D	点灯	
●	消灯	点灯
OFF	消灯	

注記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

- キーを抜いたあとも、ライトや車幅灯が点灯している。

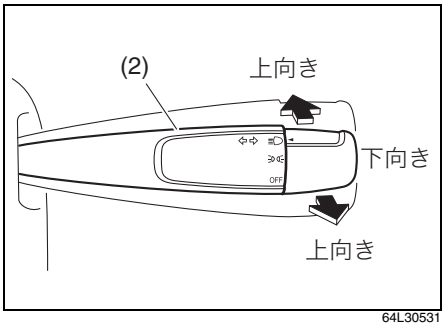
ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバー（2）を車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

→ **3-52ページ（ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯）**



64L30531

アドバイス

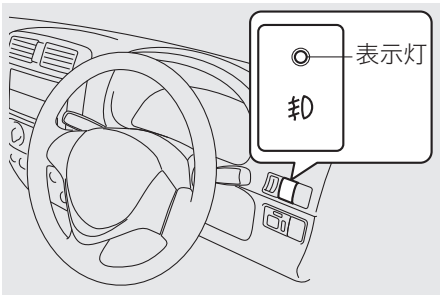
対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

タイプ別装備

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯が点灯します。
  もう一度押すと消灯します。



76J40211

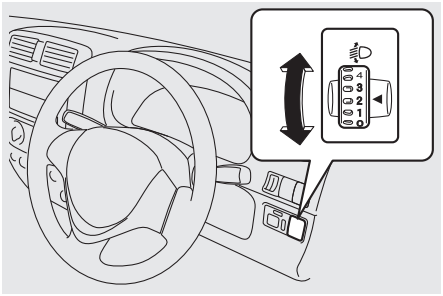
注 記

バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

光軸調整ダイヤル

エンジンスイッチを ON にして光軸調整ダイヤルをまわすと、ライトの光軸が調整できます。
荷物や同乗者を乗せてライトの光軸が上向きになると、対向車や先行車の迷惑となります。ダイヤルを操作して、光軸を下向きに調整してください。

- ダイヤル操作は、ライトが下向き（ロービーム）に点灯しているときに行なってください。ライトが上向き（ハイビーム）に点灯している、または点灯していないときは、光軸が適切に調整できているか判断できません。
- ダイヤルの目盛りは **0** ～ **4** まであり、光軸が9段階（0.5きざみ）に調整できます。
- ダイヤルの目盛りを大きくすると、光軸が下向きになります。



76J40131

- 荷物や同乗者ののせかたによって変わりますが、次表の数値を参考に適切な位置に調整してください。

〈ダイヤル位置の目安〉

条件	ダイヤル位置
運転席のみ乗車	0
運転席および助手席に乗車	
4名乗車	1.5
4名乗車で荷室満載	2～2.5
運転席のみ乗車で荷室満載	3

⚠警告

走行中はダイヤル操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

車検などで基本の光軸を調整するときは、ダイヤルを0の位置にしてください。0以外の位置で基本光軸を調整すると、ライトの光軸が基準より上向きになるなど、安全上問題となるおそれがあります。

アドバイス

ダイヤルを操作すると、ライトの下向き（ロービーム）と上向き（ハイビーム）の光軸が同時に調整されます。

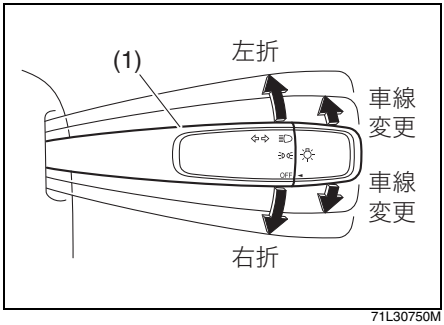
方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバー（1）を押し上げます。
右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



71L30750M

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

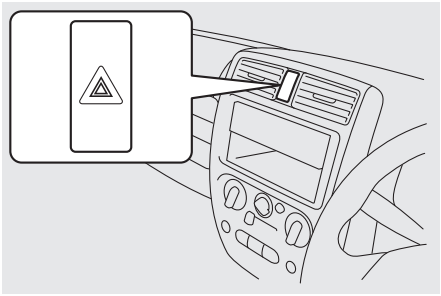
レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



76J40150

注 記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用できます。

⚠注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。
→ 5-2ページ（デフロスター）

注 記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを ACC または LOCK（OFF）にします。

2 ワイパースイッチをOFFにします。

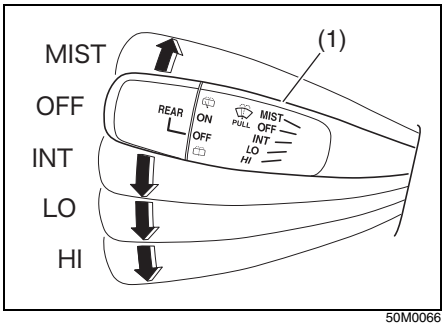
3 ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。

4 しばらくしてワイパーモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。

- しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

フロントワイパースイッチ

レバー（1）を上下に操作します。

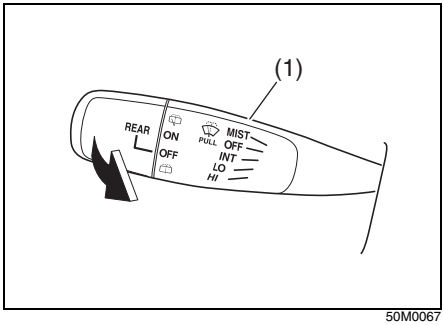


50M0066

MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

フロントウォッシャースイッチ

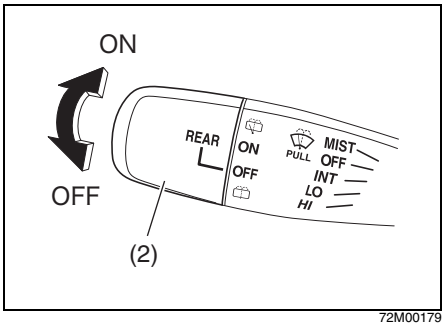
レバー(1)を手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。



50M0067

リヤワイパースイッチ

ツマミ（2）をまわします。

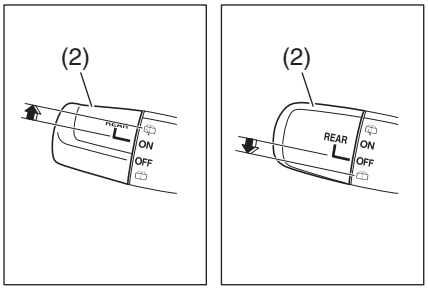


72M00179

ON	作動
OFF	停止

リヤウォッシャースイッチ

- 図の ⬆ 方向にツマミ（2）をまわし、ON の上にある 🚿（ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射し、同時にリヤワイパーも連動して動きます。ツマミから手を離すと ON にもどります。
- 図の⬇方向にツマミ(2)をまわし、OFF の下にある 🚿(ウォッシャー）にあわせるとウォッシャー液が噴射します。ツマミから手を離すとOFFにもどります。



64L30910

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。



68H31391

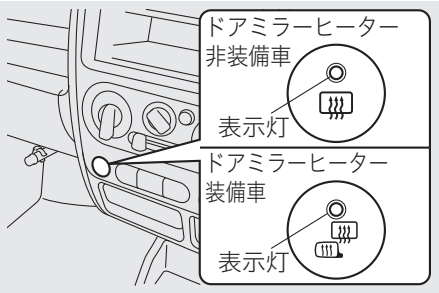
リヤデフォッガースイッチ

エンジンスイッチが ON のときに使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められ、スイッチ内の表示灯が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。

- ジムニーシエラの場合、約 17 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。また、使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。
- ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。

→ **3-13ページ**
（ドアミラーヒータースイッチ）



76J40201

注記

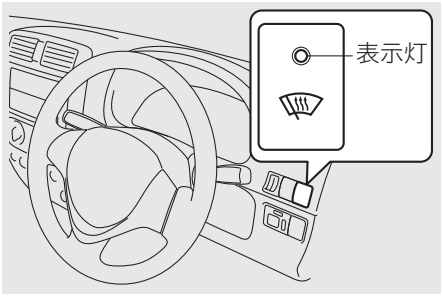
●バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。
●バックウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

デアイサースイッチ

ジムニーシエラ

エンジンスイッチが ON のときに使用でき、フロントウインドーガラスの下側にたまった雪を取り除きやすくします。

- スイッチを押すと、フロントウインドーガラスが暖められ、スイッチ内の表示灯が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約 17 分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを ACC または LOCK にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。



76J30741

注記

バッテリー保護のため、雪が取れたらすみやかにスイッチを切ってください。

MEMO

4. 運転するときは

● **エンジン始動・停止**
エンジンスイッチの各位置のはたらき ····· 4-2
エンジンのかけかた ····· 4-3
エンジンの止めかた ····· 4-5

● **パーキングブレーキ**
パーキングブレーキの操作 ····· 4-6

● **チェンジレバー**
チェンジレバーの操作 ····· 4-6

● **オートマチック車**
セレクトレバーの操作 ····· 4-8
オートマチック車の特性 ····· 4-10
オートマチック車を運転するとき ····· 4-11
オートマチック車の運転のしかた ····· 4-13

● **4WD車**
2WD⇆4WDの切替え操作 ····· 4-16

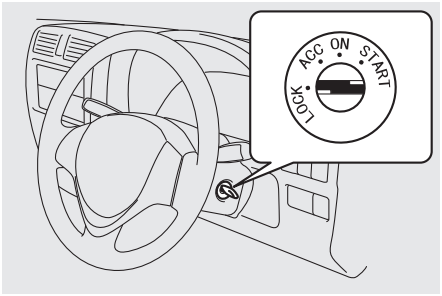
● **ABS**
ABS装備車の取扱い ····· 4-21

● **横滑り防止装置装備車**
横滑り防止装置装備車の取扱い ····· 4-24

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチの各位置のはたらき



76J40231

位置	エンジンの状態	はたらき
LOCK	停止	駐車するとき、キーを抜き差しするときの位置です。キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。
ACC	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、シガーライターなどの電装品（タイプ別装備）を使用するときの位置です。
ON	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンをかけるときの位置です。始動したら、キーから手を離してください。キーは自動的にON にもどります。

注 記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。バッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

ハンドルロックは、エンジンスイッチを LOCK から ACC にしたときに解除されます。

ハンドルロックが解除できないときは

キーが LOCK から ACC にまわせません。ハンドルを左右に軽く動かしながら、キーをまわしてください。

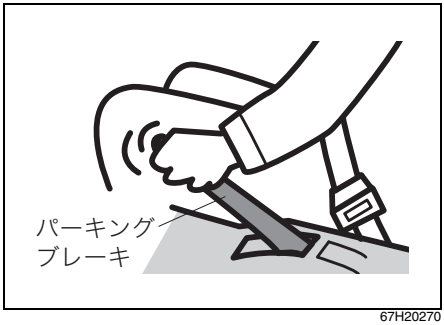


67H40020

エンジンのかけかた

2-10 ページの「**エンジンをかけるときは**」もあわせてお読みください。

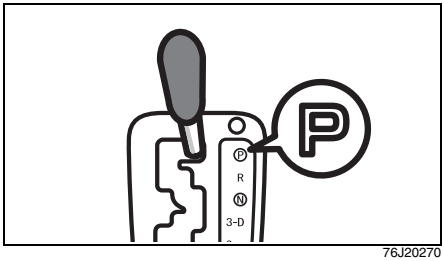
1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認します。



67H20270

2 マニュアル車 は、チェンジレバーがN（ニュートラル）になっていることを確認します。

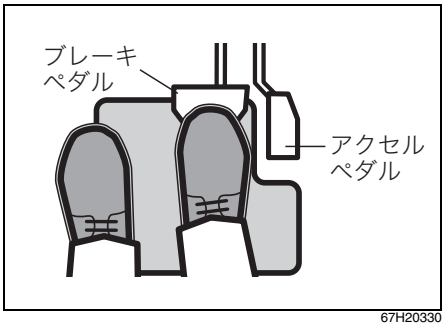
オートマチック車 は、セレクトレバーが P になっていることを確認します。



76J20270

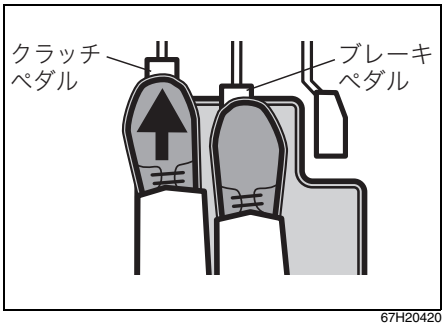
3 右足でブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

- アクセルペダルは踏まないでください。



67H20330

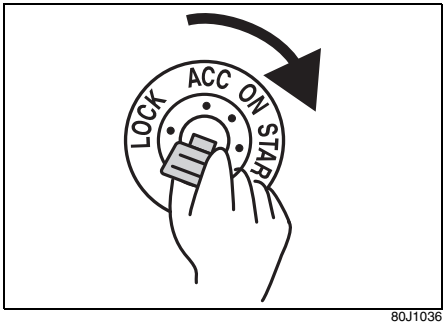
4 マニュアル車 は、左足でクラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。



67H20420

■クラッチスタートシステム
マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターがまわらず、エンジンを始動できません。

5 キーをエンジンスイッチに差し込み START までまわします。



80J1036

- エンジンがかかったら、すみやかにキーから手を離します。

※前記の手順を何度繰り返してもエンジンがかからないときは、バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注 記

バッテリー保護のため、キーを START にまわした状態を 8 秒以上続けないでください。エンジンがかからないときは、キーを一度 ACC にもどし、10 秒以上待ってから再びかけてください。

アドバイス

- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。

→ **4-3 ページ（ハンドルロックが解除できないときは）**

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

エンジンスイッチを ACC にもどします。

⚠警告

●緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **ABSが作動しません。**
- **ジムニーシエラ は、横滑り防止装置、トラクションコントロールおよびブレーキアシストが作動しません。**

●マニュアル車 は走行中、絶対にエンジンスイッチを LOCK にもどさないでください。キーが万一抜けると、ハンドルがロックされてまわせなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッション（タイプ別装備）が損傷するおそれがあります。

キーを抜くときは

キーを抜くと、ハンドルロックがかかります。

■ オートマチック車

1 セレクトレバーを P 位置に入れます。
→ **4-8ページ（セレクトレバーの操作）**

2 キーを LOCK にもどしてキーを抜きます。

- 誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。
  - セレクトレバーが P 位置
→ **4-11ページ（キーインターロック）**
→ **4-15ページ（駐車）**

■ マニュアル車

キーを LOCK にもどしてキーを抜きます。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

- キーを ACC または LOCK にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- キーを抜くと､室内ブザーが止まります。

パーキングブレーキの操作

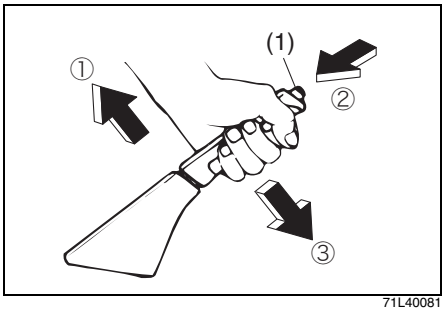
パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

駐車するときは

ボタン (1) を押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら（①）レバー先端のボタン(1)を押し込み(②)、そのまま下まで完全におろします(③)。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動きだす感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



71L40081

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

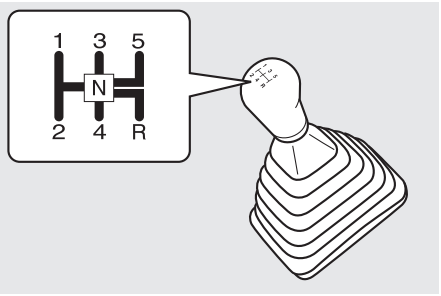
→ 3-47ページ （ブレーキ警告灯）

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏みます。

- 誤操作防止のため、5速からR（リバース）に直接入れることはできません。一度 N（ニュートラル）に入れてからRへ操作してください。



76J40250

注 記

チェンジレバーをR（リバース）に入れるときは、車を完全に停止させてから操作してください。完全に停止していない状態で操作すると、トランスミッションが破損する原因となります。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

ジムニー

（単位：km/h）

シフトダウン	2WD/4WD切替えスイッチの位置	
	2WD、4WD	4WD-L
2速→1速	20	10
3速→2速	35	15
4速→3速	60	30
5速→4速	90	45

ジムニーシエラ

（単位：km/h）

シフトダウン	2WD/4WD切替えスイッチの位置	
	2WD、4WD	4WD-L
2速→1速	25	15
3速→2速	55	25
4速→3速	75	35
5速→4速	110	55

※走行条件やお車のタイプにより、この上限速度に達しない場合があります。

注 記

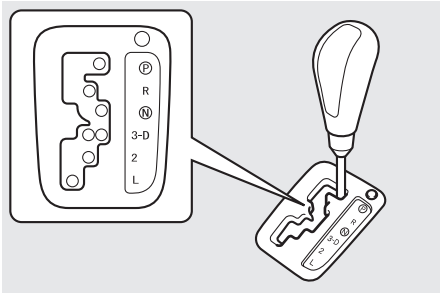
上限速度を超えた速度でシフトダウンしないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。

→ 3-44ページ（タコメーター）

セレクトレバーの操作

オートマチック車

セレクトレバーの各位置のはたらき

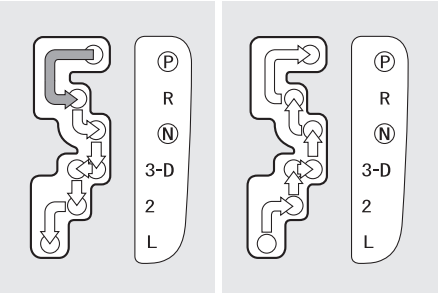


76J40260

P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動・停止するとき、キーを抜くときの位置 ●駆動輪（後輪）が固定されます。
R リバース	車を後退させるときの位置 ●室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置 ●エンジンを始動できますが、安全のため P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常走行の位置 ●車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
3 サード	軽いエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは１速から３速までの間で自動的に切り替わります。坂道や山間路を走行するときなどに使用します。
2 セカンド	エンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●ギヤは１速と２速の間で自動的に切り替わります。坂道を走行するときなどに使用します。
L ロー	強力なエンジンブレーキを効かせるときなどの位置 ●急な坂道を走行するときなどに使用します。

●次のようなときは、4速に入らない制御をしています。
- AT油温、エンジン水温が低いとき
- 駆動状態が〔4WD-L〕（4L、4WD低速）のとき

セレクトレバーの動かしかた



76J40270

⇩	ブレーキペダルを踏み、セレクトレバーをゲートにそって動かします。
⇧ ⇩	セレクトレバーをゲートにそって動かします。

⚠注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によっては膝などがあたって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注 記

完全に停車させてから、セレクトレバーを R に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約9 km/h以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを P から他の位置に動かせます。
- エンジンスイッチが ACC または LOCK のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを P から他の位置に動かせません。
- セレクトレバーを助手席側に倒してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを ON にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを P から他の位置へ動かせない場合、次の手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

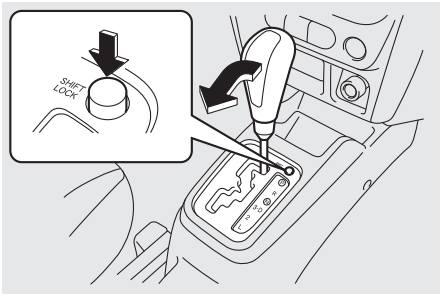
発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障やバッテリーあがりなどで、セレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1 安全のため、エンジンスイッチを ACC にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏んだ状態にします。

2 セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。



76J40280

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

⚠注意

●セレクトレバーを P N 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
●エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

キックダウン

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇して、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

● 追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして力強い加速が得られます。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速のおそれがあります。

登坂変速制御

ジムニー

セレクトレバーが D および 3 の位置で作動する制御です。

- 登坂中と判断するとシフトアップを制限し、エンジンの回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

キーインターロック

誤操作防止のため、次の条件をみたしているときだけキーが抜けます。これをキーインターロックといいます。

- セレクトレバーが P 位置
  → **4-5ページ（キーを抜くときは）**

オートマチック車を運転するとき

トランスミッション警告灯



76J30680

メーターパネル内にあります。

- AT（オートマチックトランスミッション）のシステムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
  → **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

R（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを R に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

R（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

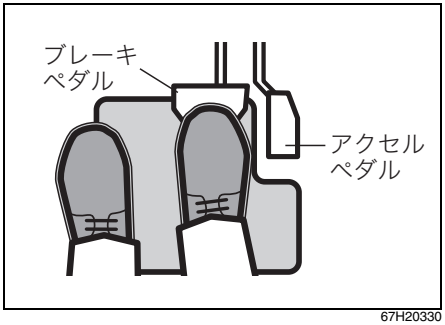
ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで、位置を確認してください。

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキペダルは右足で踏む



67H20330

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

セレクトレバーを操作するときは

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

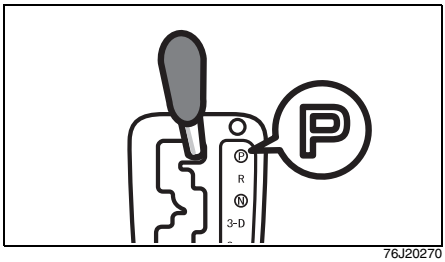
⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

セレクトレバーの位置は目で確認

始動時や降車時は P 、前進時は D 、後退時は R にあることを目で確認してください。

車から離れるときは



76J20270

⚠ 警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが P 以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

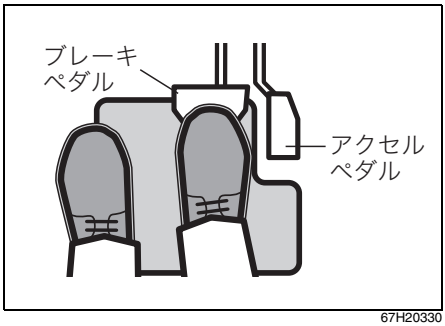
オートマチック車の運転のしかた

4-8 ページの「**セレクトレバーの操作**」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

運転席にすわって

1 ペダルが確実に踏めて、ハンドル操作が楽に行なえる位置にシートを調節します。
→ **3-13ページ（前席シート）**

2 アクセルペダルとブレーキペダルの位置を右足で確認します。



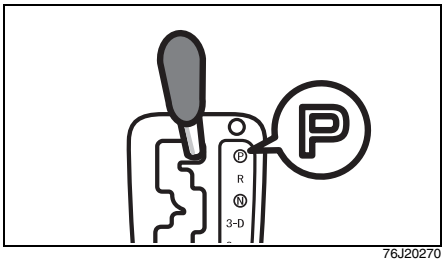
67H20330

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は、**4-3 ページ**の「**エンジンのかけかた**」をお読みください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

2 セレクトレバーが P にあるか確認します。



76J20270

アドバイス

セレクトレバーが N の位置でもエンジンがかかりますが、安全のため P でエンジンをかけてください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発進

■ 通常の発進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2 前進時は D 、後退時は R にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3 パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

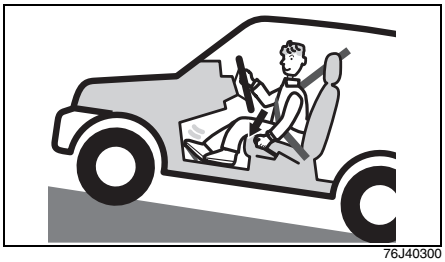
4 ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1、2は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3 ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4 車が動きだす感触を確認しながら、パーキングブレーキレバーを解除して発進します。



76J40300

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを D に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。

⚠警告

高速走行中はセレクトレバーを 2 や L に入れないでください。急激なエンジンブレーキがかかって、スリップ事故を起こすおそれがあります。また、エンジンの回転が上がりすぎて故障の原因となります。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどをしたいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。

■ 上り坂走行

上り坂を D で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめセレクトレバーを 3 または 2 に入れておくと、エンジン回転の変化が少ない、なめらかな走行ができます。
- 急な上り坂で、1速と2速の変速を繰り返すようなときには L に入れます。

■ 下り坂走行

下り坂を D のままで走行すると、エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

- 坂の勾配に応じて、あらかじめセレクトレバーを 3 または 2 に入れてエンジンブレーキを併用します。
- 急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには L に入れます。

⚠警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

一時停止

1 セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

- 急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N に入れます。

2 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

⚠警告

一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注 記

上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとしないでください。トランスミッションフルードが過熱し、故障の原因となります。

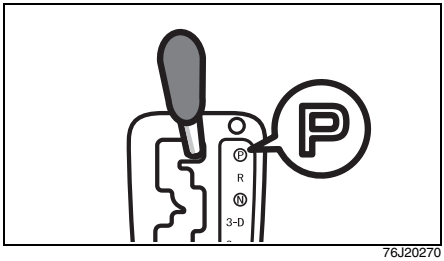
駐車

1 車を完全に止めます。

2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

- セレクトレバーが P の位置になっているか目で確かめます。



76J20270

⚠警告

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れてからエンジンを止めてください。P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 エンジンスイッチからキーを抜きます。

→ **4-5ページ**
（キーを抜くときは）

後退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

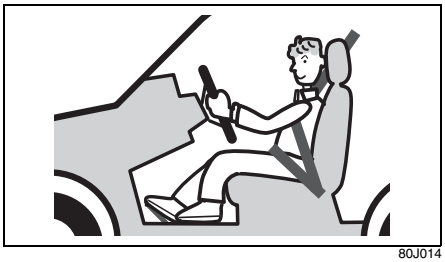
アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを R に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに R から N に入れる習慣をつけてください。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



80J014

⚠注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（ D 3 2 L ）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（ R ）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

■ 停車するとき

注 記

車が少しでも動いているときは、セレクトレバーを P に入れないでください。トランスミッションが故障する原因となります。

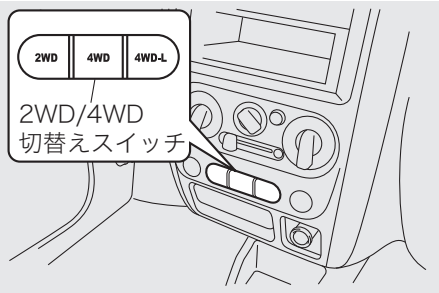
2WD⇆4WDの切替え操作

2-23ページの「**4WD車を運転するときは**」もあわせてお読みいただき、パートタイム 4WD 車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

- パートタイム 4WD とは、2WD/4WD 切替えスイッチの操作で、2WD（2輪駆動）または4WD（4輪駆動）に切り替えることができる 4WD システムです。

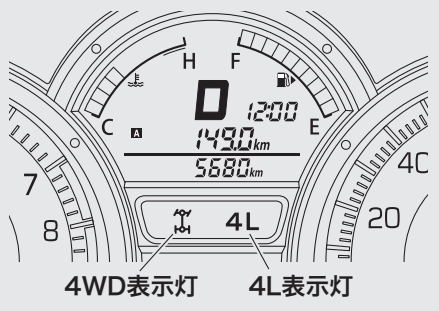
2WD/4WD切替えスイッチ

駆動状態の切替えに使用します。



76J40310

- 駆動状態は、メーター内の表示灯で確認できます。



76J40321

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

■ 各表示灯の点灯状態

操作スイッチおよび切替え後の駆動状態	メーター内の表示灯
〔2WD〕	消灯
〔4WD〕	
〔4WD-L〕	4L

■ 2WD/4WD　切替えスイッチの各位置のはたらき

〔2WD〕（2H）
一般道路、高速道路などを走行するときの位置です。通常はこの位置で走行します。

〔4WD〕（4H、4WD高速）
悪路、砂地、積雪路などの滑りやすい路面を走行するときの位置です。

〔4WD-L〕（4L、4WD低速）
急な坂路、砂地、ぬかるみなど特に大きな駆動力を必要とするときの位置です。

アドバイス

横滑り防止装置装備車の場合、駆動力補助のため、駆動状態を〔4WD-L〕に切り替えると、メーター内の横滑り防止装置OFF表示灯が点灯し、横滑り防止装置およびトラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。
ただし、ABS およびブレーキトラクションコントロール（※）は作動します。発進時や加速時にブレーキトラクションコントロールが作動すると、メーター内の横滑り防止装置作動表示灯が小刻みに点滅します。
なお、ブレーキトラクションコントロールが作動すると、ブレーキの作動により音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。
→ **4-24ページ**
（横滑り防止装置装備車の取扱い）

※ブレーキトラクションコントロールとは、滑りやすい路面で駆動輪の片側が空転した場合、その空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、反対側の駆動輪の駆動力を確保しようとする補助機能です。

2WD/4WD切替えスイッチの操作

→ 2-15ページ
（スタック（立ち往生）したときは）

駆動切替え中に切替えをキャンセルするときは、もとの駆動状態を示すスイッチを押してください。

⚠ 警告

4WD表示灯または4L表示灯が点滅している駆動切替え中は、絶対にエンジンを止めないでください。

- **オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れても、マニュアル車 はチェンジレバーを1速またはR（リバース）に入れても、車輪の固定ができなくなるおそれがあります。**
- **エンジンの再始動後、駆動状態が切り替わりにくくなるおそれがあります。**

万一、エンジンを止めてしまった場合は、エンジンを再始動し、4WD 表示灯または 4L 表示灯の点滅が終了して駆動状態が切り替わるのを待ってください。それでも駆動状態が切り替わらない場合は、ゆっくり車を前進または後退させてください。

注 記

タイヤの摩耗程度が 4 輪で著しく異なると、駆動装置に悪影響をあたえたり、駆動状態の切替えができなくなったりするおそれがあります。タイヤがかたよって摩耗するのを防ぐために、タイヤのローテーションを行なってください。

→ 6-5ページ
（タイヤのローテーション）

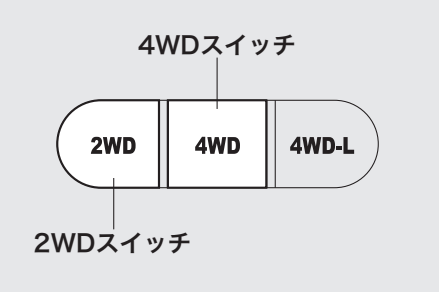
アドバイス

- 駆動切替え時に、ショックや音が出ることがあります。
- 低温時、駆動切替えシステムやトランスミッションが暖まっていないときは、スイッチ操作をしても駆動状態が切り替わらなかったり、ギヤ鳴りが発生したりすることがあります。
- 2WD でオフロード走行をしているとき、前輪へ大きな衝撃が加わると前輪から金属音が発生する場合がありますが、これは異常ではありません。音を消すためには、一度4WDへ切り替えてから、再度2WDへ戻してください。

■〔2WD〕⇆〔4WD〕

停車中でも走行中でも切替えが可能です。車速100 km/h以下でハンドルを直進状態にし、アクセルペダルをもどしてから次のように操作をします。

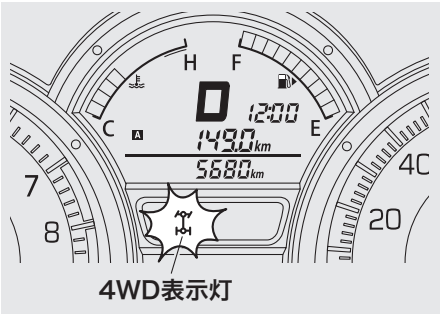
- 〔2WD〕→〔4WD〕の切替えは、4WDスイッチを長押しします。
- 〔4WD〕→〔2WD〕の切替えは、2WDスイッチを長押しします。



76J40340

- 切替え中は、4WD表示灯が点滅します。（室内ブザーは鳴りません）
- 駆動状態は、メーター内の表示灯で確認できます。

- 切替え操作後、4WD表示灯が点滅したままのときは、前後の車に十分注意しながら、加減速するか停車して車を後退させてください。



76J40351

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 駆動状態の切替えができないときは、しばらく走行してから再操作してください。

⚠警告

旋回走行中または雪道などで、タイヤを空転させたまま切替え操作をしないでください。車が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。また、駆動装置が損傷する原因となります。

⚠注意

走行中の切替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。

アドバイス

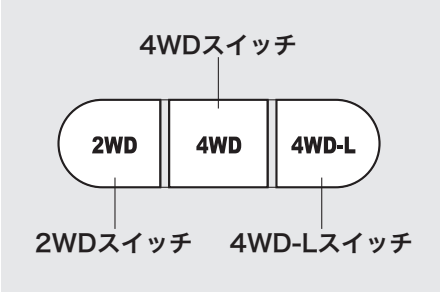
- ハンドルが切れた状態、またはアクセルペダルを踏んだ状態で操作をすると、切替えができない場合があります。
- 車速が100 km/h以上のときに、〔2WD〕→〔4WD〕の切替え操作をすると、室内ブザーが3回鳴って切替えがキャンセルされます。

■ 〔2WD〕⇆〔4WD-L〕 〔4WD〕⇆〔4WD-L〕

〔4WD-L〕への切替え、または〔4WD-L〕からの切替えは、停車中にのみ可能です。なお、スイッチ操作をするときは、次の条件をみたす必要があります。

①車を完全に停車させる
②オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れる
マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）にし、クラッチペダルを完全に踏み込む

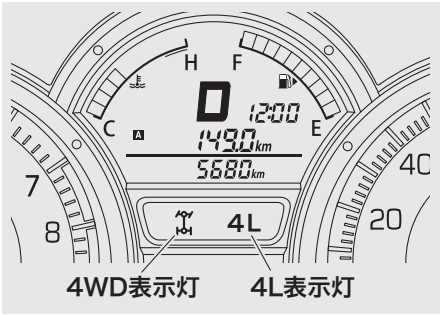
切替えたい駆動状態を示すスイッチを長押しします。



76J40360

- 切替え中は室内ブザーが断続的に鳴り、4WD 表示灯や 4L 表示灯が点滅します。
- 駆動状態は、メーター内の表示灯で確認できます。

- 切替え操作後、4L 表示灯または 4WD 表示灯が点滅したままのときは、ゆっくり車を前進または後退させてください。



76J40321

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。
- 低温時、駆動切替えシステムやトランスミッションが暖まっていないときは、〔4WD-L〕への切替え操作で車を前進させると、ギヤ鳴りが発生し、駆動状態が切り替わりにくい場合があります。その場合は、車を後退させてください。
- 駆動状態の切替えができないときは、しばらく走行してから再操作してください。

アドバイス

前記①、②の条件をみたさないで切替え操作をすると、室内ブザーが 3 回鳴って切替えがキャンセルされます。

4WD表示灯



76J40090

メーターパネル内にあります。

- 駆動状態が〔4WD〕および〔4WD-L〕のときに点灯します。
- 2WD⇆4WD の切替え操作をして、駆動状態が〔2WD〕⇆〔4WD〕の切替え中に点滅します。
- エンジンスイッチを ON にすると、約 2 秒間点灯し、そのあと駆動状態により点灯または消灯します。
- 4WD 表示灯が 4L 表示灯と同時に点滅したときは、システムの異常が考えられます。この場合、駆動状態の切替えができなくなり、現在の駆動状態を維持します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

駆動状態が〔4WD〕のときに、エンジンをかけずにエンジンスイッチを ON のままにしていると、4WD 表示灯は約 2 秒間点灯したあと点滅状態になります。この場合、エンジンをかけて点灯状態になれば、異常ではありません。

4L表示灯



76J40101

メーターパネル内にあります。

- 駆動状態が〔4WD-L〕のときに、4WD表示灯とともに点灯します。
- 2WD⇆4WDの切替え操作をして、駆動状態が〔4WD〕⇆〔4WD-L〕の切替え中に点滅します。
- エンジンスイッチを ON にすると、約2秒間点灯し、そのあと駆動状態により点灯または消灯します。
- 4L表示灯が4WD表示灯と同時に点滅したときは、システムの異常が考えられます。この場合、駆動状態の切替えができなくなり、現在の駆動状態を維持します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

駆動状態が〔4WD-L〕のときに、エンジンをかけずにエンジンスイッチを ON のままにしていると、4L表示灯は約2秒間点灯したあと点滅状態になります。この場合、エンジンをかけて点灯状態になれば、異常ではありません。

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠警告

●常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABSによる制御には限界があります。

●ABSは、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABSは制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

●急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。

●次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。

- **凸凹道や石だたみなどの悪路**
- **じゃり道、新雪路**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき**
- **マンホールなど鉄板の上を通過するとき**
- **タイヤチェーンの装着時**

●急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた

●路面の状況によりますが、約10 km/h以下ではABSが作動しません。

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

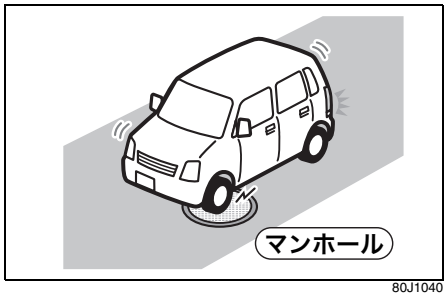
タイヤについて

⚠警告

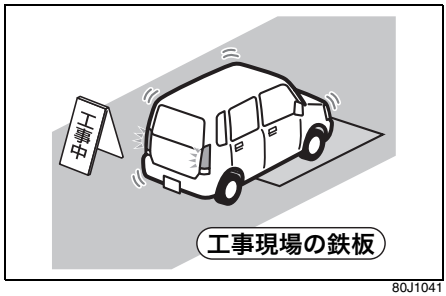
ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は指定のサイズで、4輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS は、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

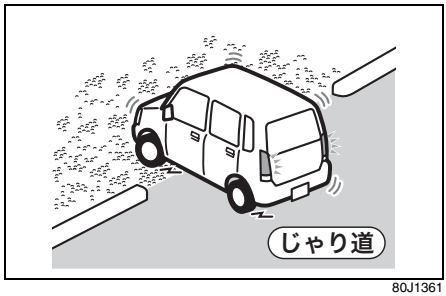
- 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

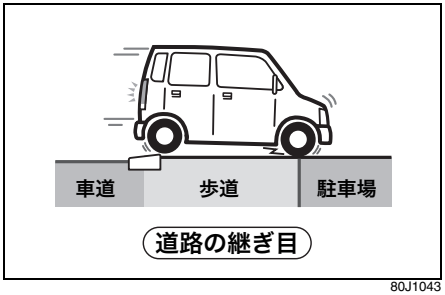


80J1041

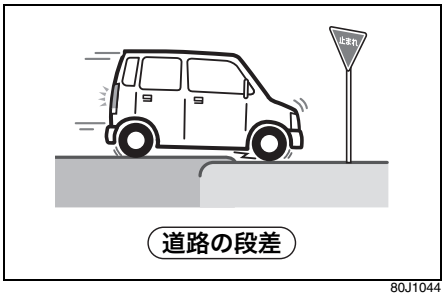


80J1361

- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき



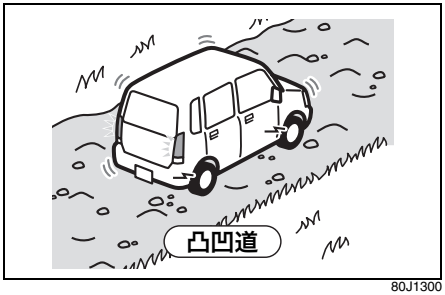
80J1043



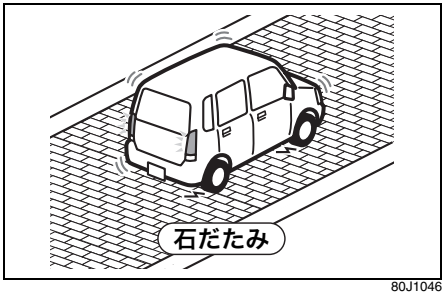
80J1044

4

● 悪路を走行しているとき



80J1300



80J1046

ABS警告灯



68H30450

メーターパネル内にあります。

● ABSの電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

横滑り防止装置装備車の取扱い

ジムニーシエラ

横滑り防止装置装備車は、横滑り防止装置のほかに、トラクションコントロール、ブレーキアシストを装備しています。

■ 横滑り防止装置（スタビリティコントロール）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする装置です。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助装置です。

■ ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

● しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
● ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。横滑り防止装置等による制御には限界があります。

⚠注意

●次のことをお守りください。
守らないと横滑り防止装置等が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
- **タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
  → 8-5ページ（タイヤの空気圧）
- **タイヤ交換時は指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
- **著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
- **サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
- **サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
- **エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
- **LSD（リミテッドスリップデフ）の装着などの改造をしない。（スズキ純正用品LSDを除く）**

●タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを装着したときなどには、横滑り防止装置等が正常に作動しない場合があります。

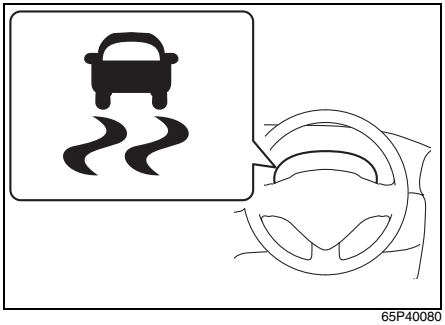
アドバイス

●次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
- エンジンスイッチを ON にしたとき
- ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを ON にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
- エンジンをかけたとき
- エンジンをかけ、最初の発進時

●エンジン回転が高いときに横滑り防止装置等が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

●駆動力補助のため、4WD の切替え操作をして駆動状態を〔4WD-L〕にすると、横滑り防止装置およびトラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。ただし、ABS およびブレーキトラクションコントロールは作動します。
→ **4-16ページ**
（2WD⇆4WDの切替え操作）

横滑り防止装置作動表示灯



65P40080

メーターパネル内にあります。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

- 横滑り防止装置等の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが ON のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - 次の機能が作動しません。
    ・横滑り防止装置
    ・トラクションコントロール
  - ABSは作動します。
  - ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。

- 次のような状況になると、0.2秒間隔で小刻みに点滅します。
  - 急ハンドル時や旋回時に横滑り防止装置が作動している
  - 発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

アドバイス

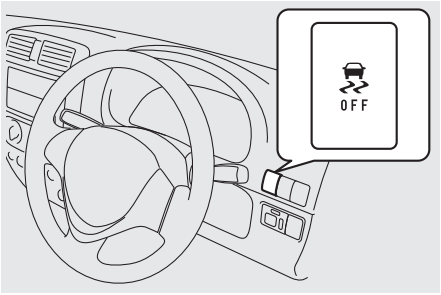
- 点灯中は横滑り防止装置およびトラクションコントロールは作動しませんが、ABS は使用することができます。
- 駆動力補助のため、4WD の切替え操作をして駆動状態を〔4WD-L〕にすると、メーター内の横滑り防止装置OFF表示灯が点灯し、横滑り防止装置およびトラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。ただし、ABSおよびブレーキトラクションコントロールは作動します。発進時や加速時にブレーキトラクションコントロールが作動すると、メーター内の横滑り防止装置表示灯が小刻みに点滅します。

→ **4-16ページ（2WD⇆4WDの切替え操作）**

横滑り防止装置OFFスイッチ

- 次のようなときは、メーター内の横滑り防止装置OFF表示灯が点灯するまで横滑り防止装置OFFスイッチを押し続けてください。横滑り防止装置およびトラクションコントロールが作動しなくなります。
  - スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。

- 次のような操作または状況になると、横滑り防止装置OFF表示灯が消灯し、横滑り防止装置およびトラクションコントロールが作動可能な状態にもどります。
  - もう一度横滑り防止装置OFFスイッチを押す
  - 車速が約30 km/hを超えたとき
  - 一度エンジンを止め、再始動する

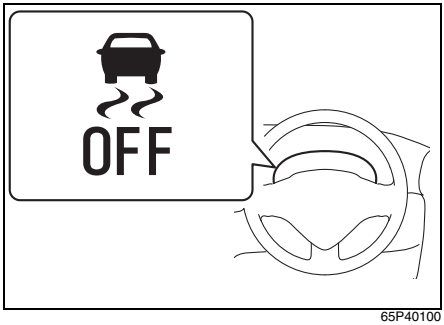


76J40400

アドバイス

- 安全のため、横滑り防止装置 OFF スイッチを操作しても、ABS およびブレーキアシストは作動停止の状態になりません。
- 車速が 30 km/h を超えると横滑り防止装置およびトラクションコントロールは作動可能な状態に自動復帰するため、スイッチを操作しても一時的な停止しかできません。

横滑り防止装置OFF表示灯



65P40100

メーターパネル内にあります。
→ **1-10ページ（警告灯・表示灯）**

- エンジンスイッチが ON のときに、次のような操作または状況になると点灯します。
  - 横滑り防止装置OFFスイッチを長押ししたとき。横滑り防止装置およびトラクションコントロールが作動しなくなります。
  - ブレーキ装置が過熱している状態で、タイヤがスリップしたとき。ブレーキ装置保護のため、トラクションコントロールのブレーキ制御が作動しません。しばらくして装置の温度が下がると、表示灯が消灯してブレーキ制御が作動可能な状態にもどります。
  - 駆動力補助のため、4WD の切替え操作をして、駆動状態を〔4WD-L〕にしたとき。横滑り防止装置およびトラクションコントロールのエンジン出力制御が作動しなくなります。ただし、ABSおよびブレーキトラクションコントロールは作動します。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを ON にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

MEMO

5. 装備の取扱い

● **エアコン、ヒーター**

吹出し口 ····· 5-2
マニュアルエアコン ····· 5-3
エアコンの上手な使いかた ····· 5-6

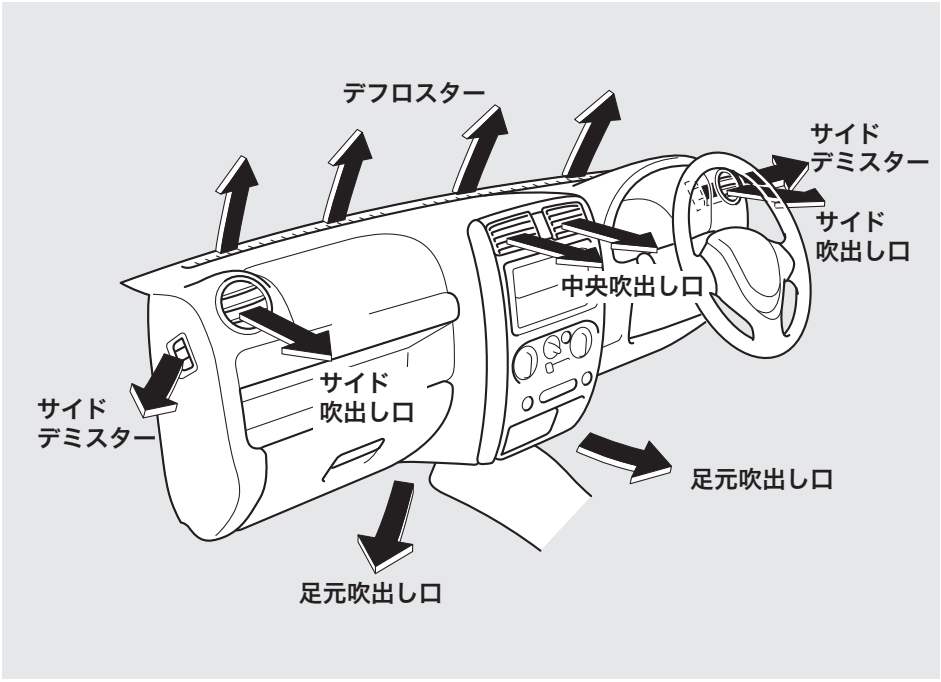
● **オーディオ**

オーディオ機能について ····· 5-7
ステアリングオーディオスイッチ ····· 5-7
アンテナ ····· 5-8

● **その他の装備**

燃料給油口 ····· 5-9
ボンネット ····· 5-10
サンバイザー ····· 5-12
室内灯 ····· 5-13
インパネトレー ····· 5-14
キー付グローブボックス ····· 5-14
インパネポケット ····· 5-15
シガーライター ····· 5-15
灰皿 ····· 5-16
フットレスト ····· 5-16
フロアコンソールトレー ····· 5-17
センターコンソールボックス
（ドリンクホルダー兼用） ····· 5-17
シートアンダートレー ····· 5-18
センターコンソールトレー ····· 5-18
フロアコンソールボックス
（ドリンクホルダー兼用） ····· 5-19
リヤクォータートレー
（ドリンクホルダー付） ····· 5-19
荷室サイドボックス ····· 5-20

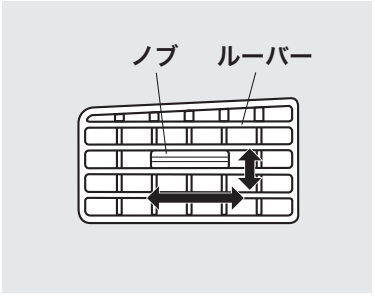
吹出し口



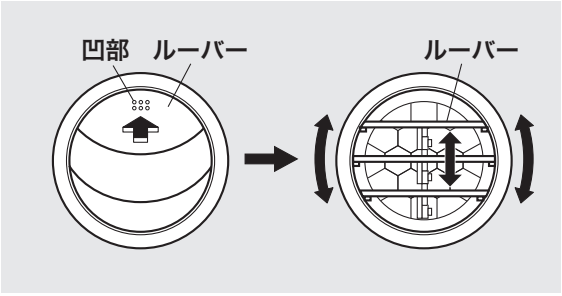
76J50011

- 中央吹出し口は、ルーバーを上下に、またはノブを左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口は、凹部を押して開いたルーバーを上下または回転させると、風の向きが調節できます。
- サイド吹出し口は、開閉ができます。

中央吹出し口



サイド吹出し口



76J50020

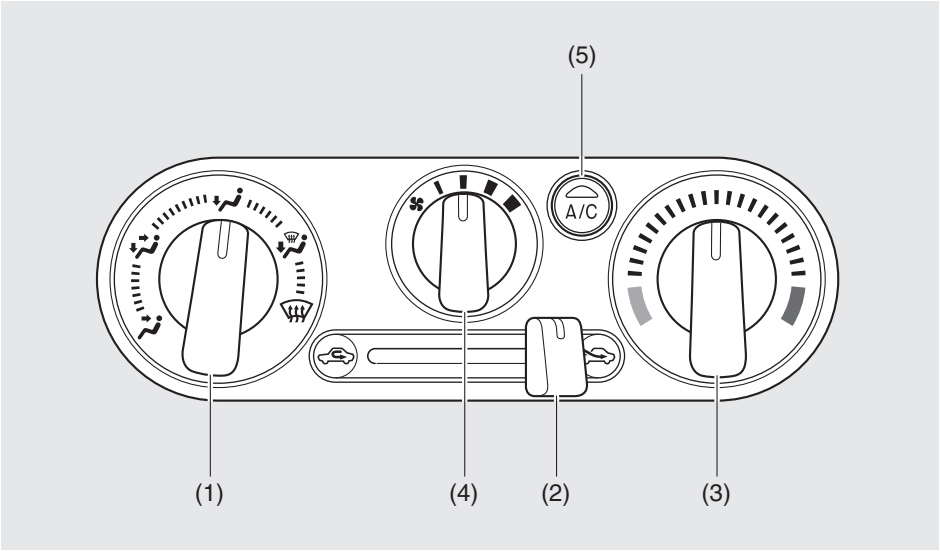
⚠注意

エアコンやヒーターからの温風に長時間さらされると、低温やけどのおそれがあります。とくに、お子さま、お年寄り、皮膚の弱い方が乗車される場合や、同乗者が仮眠される場合には、足元の吹出し口からの温風に長時間さらされないように注意してください。

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

マニュアルエアコン



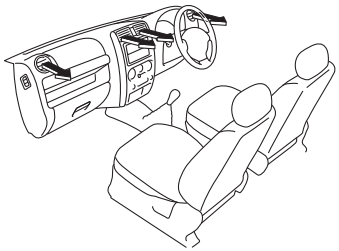
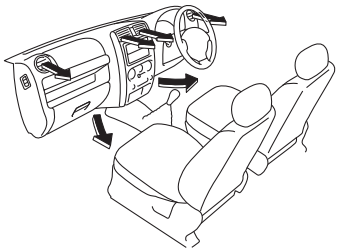
76J50031

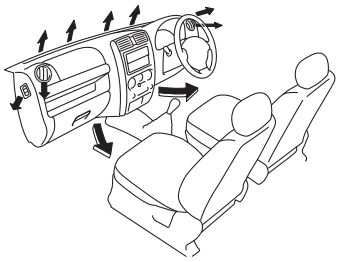
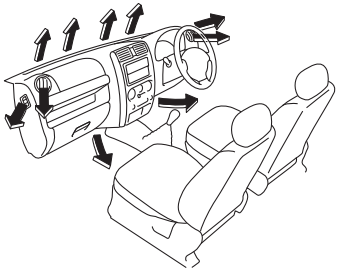
(1) 吹出し口切替えダイヤル
(2) 内外気切替えレバー
(3) 温度調節ダイヤル
(4) ファン(風量)調節ダイヤル
(5) エアコンスイッチ

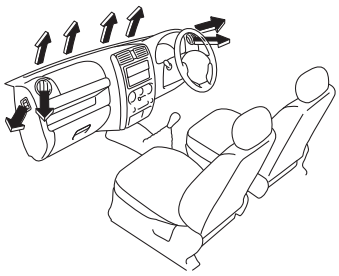
各ダイヤル、スイッチ、レバーの使いかた

(1) 吹出し口切替えダイヤル

使用目的にあわせて、吹き出し口切替えダイヤルを左右にまわして切り替えます。

目的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
ダイヤル		
吹出し口	 76J50041	 76J50051

目的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル		
吹出し口	 76J50061	 76J50071

目的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
ダイヤル	
吹出し口	 76J50081

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接あたるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりが取れます。

(2) 内外気切替えレバー

レバーを左に操作すると内気循環、右に操作すると外気導入になります。

位　置	状　態
 (外気導入)	外気を導入しています。 ● 通常はこの位置でお使いください。
 (内気循環)	外気をしゃ断しています。 ● トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

●長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。

●エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

(3) 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルを時計方向にまわすと、温度が高くなります。反時計方向にまわすと、温度が低くなります。

頭寒足熱暖房

吹出し口切替えダイヤルの位置が  のときに、温度調節ダイヤルを中間の位置に操作すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風が吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

(4) ファン(風量)調節ダイヤル

ファン（風量）調節ダイヤルをまわすと、風量が調節できます。

ダイヤル位置		
風量	停止	弱⟷強

注 記

長時間の停車や渋滞では、バッテリー保護のため風量を弱くしてください。

(5) エアコンスイッチ

エンジンをかけ、ファン（風量）調節ダイヤルを停止の位置から時計方向にまわし、エアコンスイッチを押します。除湿された風が吹き出すとともに、スイッチ内の表示灯が点灯します。
止めるときは、スイッチをもう一度押します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここちよい暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が0℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

エアコンの上手な使いかた

エアコンガスを充てんするときは

エアコンガスは、冷媒HFC134a(R134a)を使用してください。

- エアコンガスを充てんするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に 1 回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

- エアフィルターの清掃と交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 kmごと、または12か月ごと	車検ごと

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーション、またはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

走行中はナビゲーション、またはオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

注 記

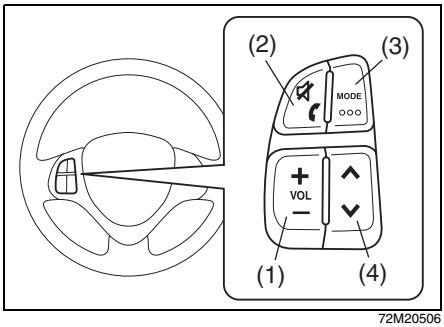
エンジンを停止したまま長時間ナビゲーション､またはオーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

ステアリング オーディオスイッチ

タイプ別装備

エンジンスイッチが ACC または ON のときに、手元でオーディオまたはナビゲーションの操作ができます。

- ご使用のオーディオまたはナビゲーション本体による操作については、付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、操作内容が異なる場合があります。



72M20506

(1) 音量調節スイッチ
(2) ミュート／ハンズフリースイッチ
(3) モードスイッチ
(4) 選局(選曲)スイッチ

音量調節スイッチ（1）

音量が調節できます。

- 大きくするときは、＋側を押します
- 小さくするときは、－側を押します
- 連続調節するときは、＋または－側を長押しします

ミュート／ハンズフリースイッチ（2）

ミュート／ハンズフリースイッチを押すと、ラジオを消音できたり、CD などの演奏を一時停止できたりします。

- もう一度押すと、消音が解除されたり、演奏が再開されたりします。
- ハンズフリー機能については、付属の取扱説明書をお読みください。

モードスイッチ（3）

モードスイッチを押すたびに、モード（ラジオやCDなど）が切り替わります。

- オーディオまたはナビゲーション本体の電源が切れているときにスイッチを押すと、電源が入ります。

選局（選曲）スイッチ（4）

次の表のように、各モードの操作ができます。

使用モード	スイッチの短押し	スイッチの長押し
ラジオ	プリセット選局(P.CH)（※1）	自動選局(SEEK)（※2）
CD	トラック(曲)の選択	早送り／早戻し（※3）

※1　プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、オーディオまたはナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。

※2　受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局スイッチをもう一度押してください。

※3　ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、長押ししても早送り／早戻しされないことがあります。

アンテナ

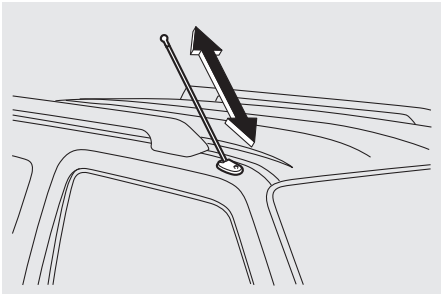
タイプ別装備

アドバイス

運転中にアンテナで受信できるラジオの電波は刻々と変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

ピラーアンテナ

ラジオを聞くときは、ピラーアンテナをいっぱいまで伸ばします。



76J50090

注 記

自動洗車機にかけるときや屋根の低い車庫に入るときなどは、アンテナを収納してください。アンテナが破損したり、曲がって収納できなくなったりします。

燃料給油口

2-18 ページの「**給油するときは**」もあわせてお読みください。

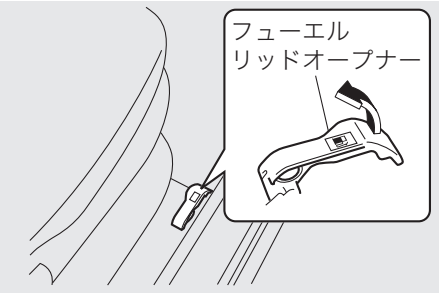
⚠警告

必ず次のことをお守りください。
- **エンジンを止めてください。**
- **給油中はドアや窓を閉めてください。**
- **ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。**

フューエルリッド

運転席側の車両後方にあります。

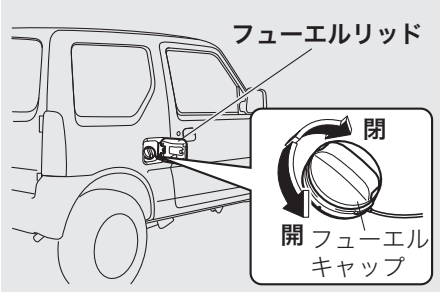
- 開けるときは、運転席足元のフューエルリッドオープナーを引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押し付けます。



76J30180

フューエルキャップ

- 開けるときは、ゆっくり反時計方向にまわします。
- 閉めるときは時計方向にまわし、カチッという音が２回以上するまで締めます。



76J30190

⚠警告

- **フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。**
- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちに柔らかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

ボンネット

⚠警告

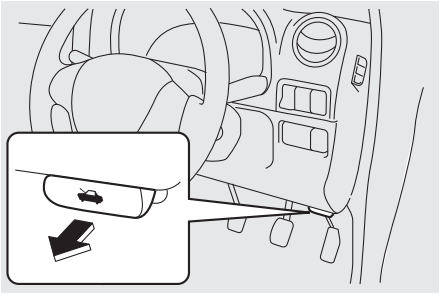
●お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。
●ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。
●点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。

⚠注意

動いているドライブベルトや冷却ファンに近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

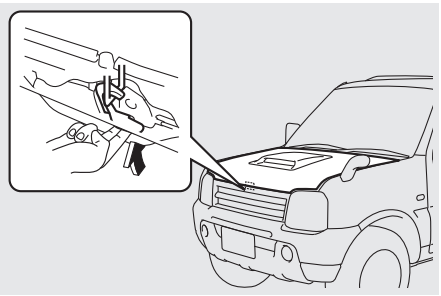
開けかた

1 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



76J30141

2 浮き上がったボンネットのすき間に手を入れ、ロックレバーを引き上げながら、ボンネットを持ち上げます。



76J30150

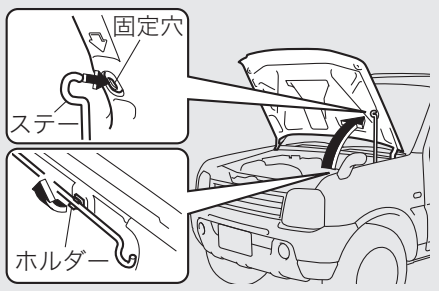
⚠注意

エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注 記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3 ボンネットを固定します。
- 車体側にあるステーをホルダーから外し、ボンネット側の固定穴に差し込みます。



76J30160

⚠注意

●エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。
●ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。
●ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。

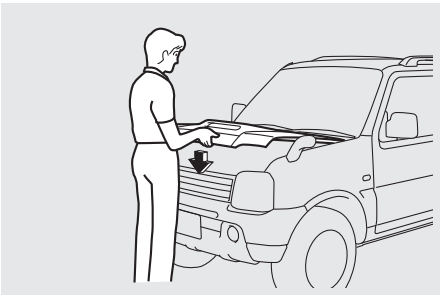
注 記

ボンネットを開閉するときは、サイドアンダーミラーを格納しないでください。ボンネットおよびサイドアンダーミラーが破損するおそれがあります。

閉めかた

1 ボンネットを片手でささえながら、ステーを外して、もとのホルダーに固定します。

2 ボンネットを閉めます。
- ボンネットを20 cmぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



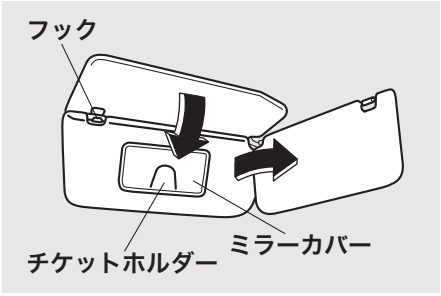
76J30170

⚠注意

●ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。
●ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。



76J50120

チケットホルダー

運転席サンバイザーの裏側（ミラーカバーの外側）にあります。有料道路の通行券などがはさめます。

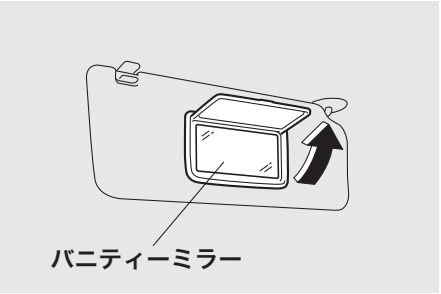
注 記

炎天下で駐車するときは、チケットホルダーなどにプラスチック素材のカードを放置しないでください。車内が高温になるため、カードの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

→ 2-18 ページ（ライターやメガネなどを放置しない）

バニティーミラー

運転席サンバイザーの裏側にあるミラーカバーを開けた場所にあります。



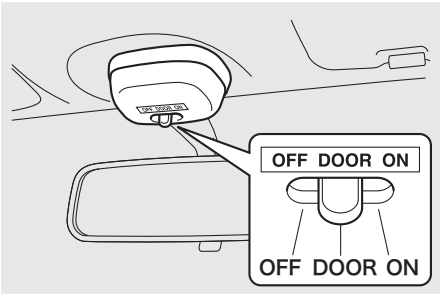
76J50130

⚠ 警告

走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

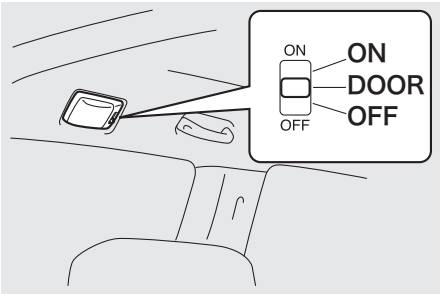
室内灯

前席室内灯



76J50100

荷室室内灯（タイプ別装備）



76J50110

ON

ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR

いずれかのドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

OFF

ドアの開閉に関係なく消灯します。

注 記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。バッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

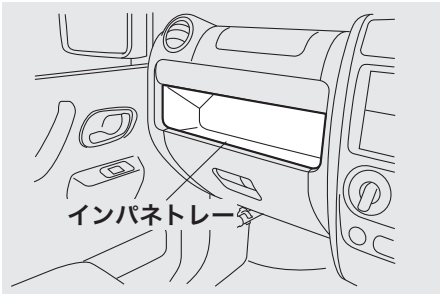
前席室内灯スイッチがDOOR位置のときに、キーレスエントリーを作動させると、前席室内灯が点灯または点滅します。

→ **3-7ページ（アンサーバック機能）**

インパネトレー

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

助手席



76J50140

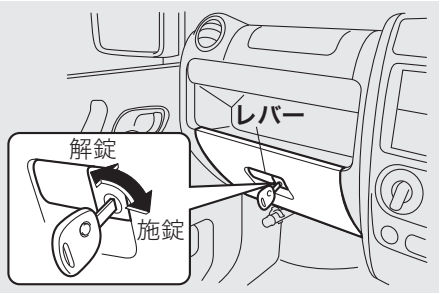
⚠ 警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

キー付グローブボックス

レバーを手前に引いてふたを開けます。

- 施錠するときは、キーを差し込んで時計方向にまわしたまま抜きます。



76J50150

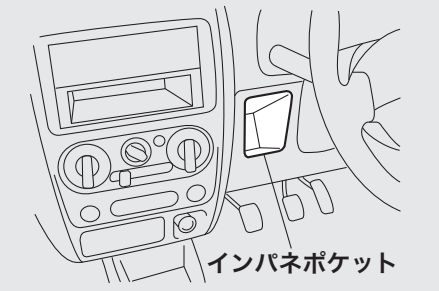
- 物を出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。

⚠ 注意

ふたを開けたまま走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたにあたったり、中の物が飛び出したりするおそれがあります。

インパネポケット

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



76J50160

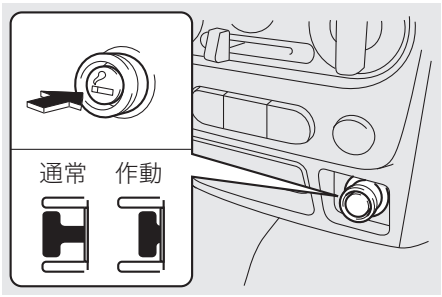
⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

シガーライター

エンジンスイッチが ACC または ON のときに使用できます。

- 押し込んで手を離します。ヒーター部が赤熱すると、自動的にもとの位置までもどります。
- 使用したあとは、ヒーター部に付着した灰を灰皿で落としてから、すみやかにもとにもどしてください。



76J50170

⚠警告

走行中はシガーライターを使わないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

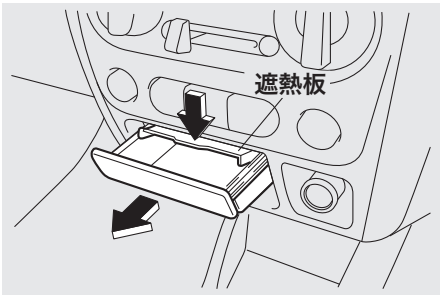
- **シガーライターの金属部分には触れないでください。やけどのおそれがあります。**
- **シガーライターを押し込み続けないでください。過熱して故障の原因となります。**
- **差し込み口を電源として使わないでください。そのあとにシガーライターを使うと、シガーライターがもどらなくなって過熱したり、飛び出したりするおそれがあります。**

注 記

- **押し込んで30秒以上たってももどらないときは、故障が考えられます。手で引き出して、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **他車のシガーライターを差し込まないでください。故障の原因となります。**

灰皿

- 使用するときは、手前に引き出します。
- 清掃するときは、遮熱板を下に押さえながら引き抜きます。



76J50180

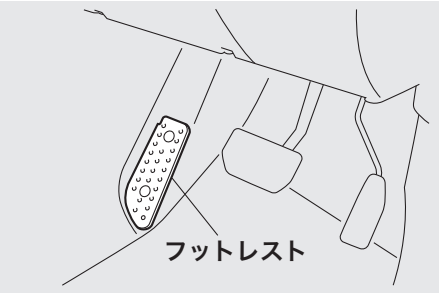
⚠ 警告

●タバコやマッチは確実に火を消してから灰皿に入れてください。
●使用後は、押し込んで格納してください。
●灰皿の中に吸いがらをためすぎたり、紙などの燃えやすい物を入れたりしないでください。出火のおそれがあります。

フットレスト

オートマチック車

左足のささえとして使用します。

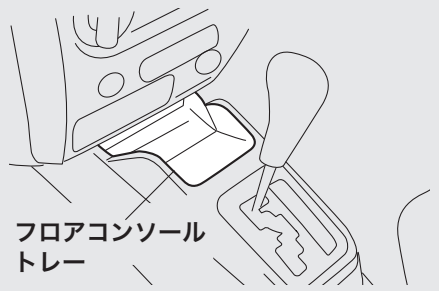


76J50190

フロアコンソールトレー

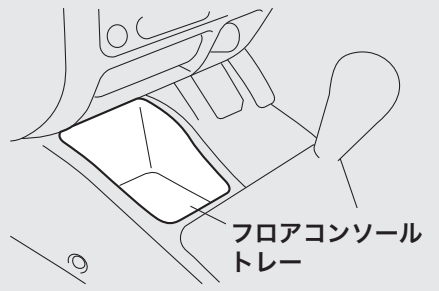
手回り品や小物などの収納にご使用ください。

オートマチック車



76J50200

マニュアル車



76J50210

⚠ 警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

センターコンソールボックス（ドリンクホルダー兼用）

オートマチック車

- ボックスとして使用するときは、手回り品や小物などの収納にご使用ください。
- ドリンクホルダーとして使用するときは、缶ジュースやカップが置けます。



76J50220

⚠ 警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

- **ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
- **フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部**

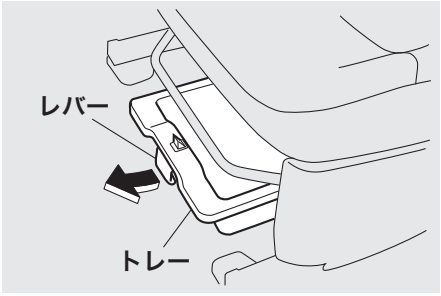
シートアンダートレー

タイプ別装備

シートの下側にあります。
靴などの収納にご使用ください。

助手席

レバーを手前に引くと、トレーが引き出せます。

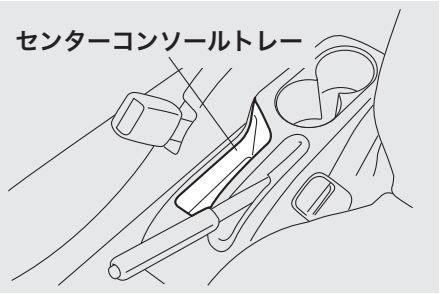


76J50230

- 物を出し入れしたあとは押し込んで格納し、トレーがしっかり固定されているか確認してください。

センターコンソールトレー

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



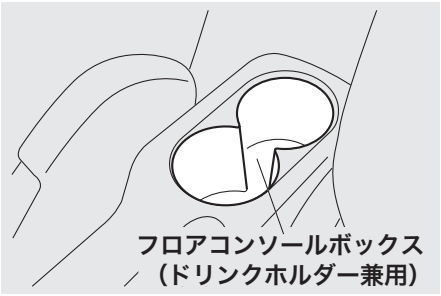
76J50240

⚠警告

走行中にころがり落ちるような物を入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

フロアコンソールボックス（ドリンクホルダー兼用）

- ボックスとして使用するときは、手回り品や小物などの収納にご使用ください。
- ドリンクホルダーとして使用するときは、缶ジュースやカップが置けます。



76J50260

⚠ 警告

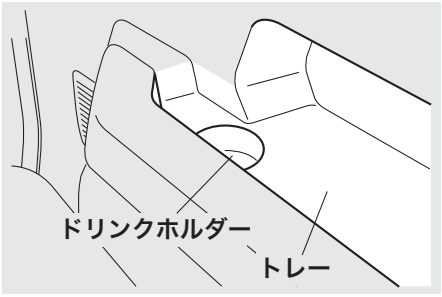
飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

- **ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
- **フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部**

リヤクォータートレー（ドリンクホルダー付）

手回り品や小物などの収納にご使用ください。

後席両側



76J50270

■ ドリンクホルダー

トレーの中にあります。

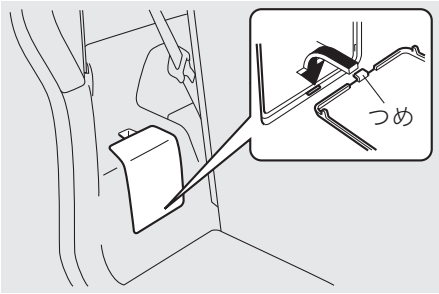
⚠ 警告

飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

- **ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
- **フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部**

荷室サイドボックス

荷室の左右にあります。



76J50280

- 閉めるときは、ふたのつめを溝にはめます。

6. お車との上手なつきあいかた

● **お手入れ**
外装のお手入れ ····· 6-2
内装のお手入れ ····· 6-4
タイヤの交換 ····· 6-5
リモコンキーの電池交換 ····· 6-7

● **寒冷時の取扱い**
冬期に入る前の準備 ····· 6-9
出発の前に ····· 6-10
雪道を走行するとき ····· 6-11
駐車するとき ····· 6-12
タイヤチェーンを装着するとき ····· 6-14

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

- 駐車、車の保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。
  - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。
  - ほこりや泥でひどく汚れたとき。
- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明に従ってください。



80J302

- 飛び石の傷や、引っかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注 記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  → 2-14ページ（水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認）

注 記

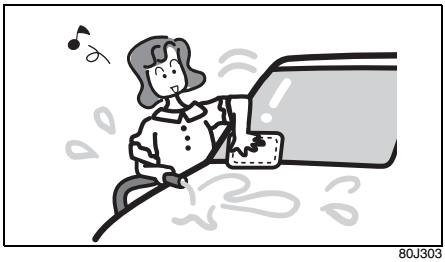
エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするときは

1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。

2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。

3 柔らかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注 記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを収納してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注 記

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。**

フロントウインドーガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

アルミホイール（タイプ別装備）の手入れ

6-3 ページの「**手洗い洗車をするときは**」をお読みください。

注 記

- **酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。**
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。**

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼった柔らかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーや柔らかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⚠警告

車内に水などをかけないでください。ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などにかかると、火災や故障につながったり、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

注 記

●次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。
- **ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
- **酸性、アルカリ性の洗剤**
- **漂白剤や染料**

●エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが付着した場合、故障の原因となるおそれがあります。

●色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。

2 真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をふき取ります。

3 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

本革ハンドルの手入れ

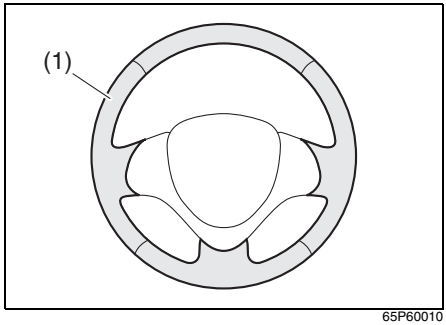
1 ウール用中性洗剤を次の比率でうすめたものをやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
ウール用中性洗剤：水＝1：20

2 真水を含ませたやわらかい布を固くしぼり、残った洗剤分をふき取ります。

注 記

洗剤のふき残しがあると、本革部分を傷めるおそれがあります。

3 乾いたやわらかい布で乾ぶきし、風通しの良い日陰で乾燥させます。



65P60010

(1)本革部分

注 記

化粧液やハンドクリームなどに含まれるオレイン酸は変色、しみの原因となります。万一、ハンドクリームなどがハンドルの本革部分に付着した際は、すみやかにティッシュペーパーや、やわらかい布でふき取り、前記手順でお手入れをしてください。

アドバイス

- 外観品質を長く保つため、年に2回程度は定期的にお手入れをしてください。
- 水が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。ぬれたままにしておくと、硬くなって縮むことがあります。
- 炎天下に駐車するときは、日よけなどを使用してください。直射日光に長時間さらすと、色あせや縮みの原因となります。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、皮革本来の傷などがあっても、皮革としての物性に影響はありません。

バックウインドーガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの交換

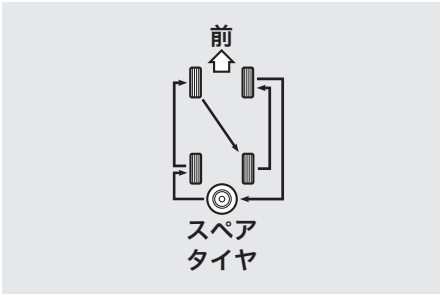
タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、スペアタイヤなどを使用して1輪ずつ交換します。
  → **7-11ページ（ジャッキアップ）**

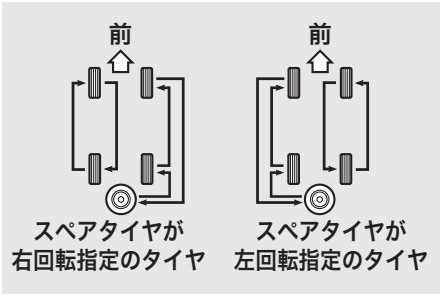
■ スペアタイヤをローテーションに入れるとき

回転方向指定のないタイヤ



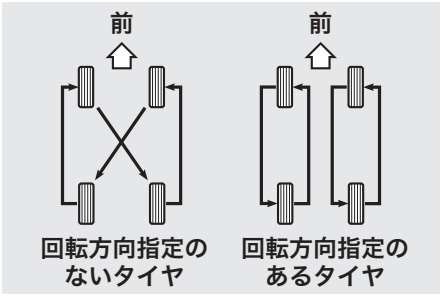
76J60020

回転方向指定のあるタイヤ



76J60030

■ スペアタイヤをローテーションに入れないとき



76J60220

⚠注意

- **アルミホイール装備のジムニーには応急用スペアタイヤが装備されています。応急用スペアタイヤは、通常の走行には使用しないでください。**
- **スペアタイヤのサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が他の４輪と異なる場合は、スペアタイヤをローテーションに入れないでください。この場合、スペアタイヤはパンクしたときに一時的に使用する応急タイプとなります。**
  → 6-6ページ（タイヤ交換するときは）
- **回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。**
- **応急用スペアタイヤのホイールに貼り付けてある速度制限ラベルを剥がさないでください。**
- **応急用スペアタイヤを使用する場合にはラベルが見えるようにしてください。**

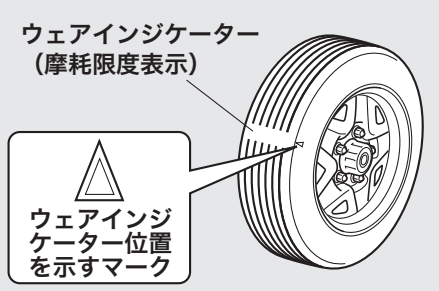
アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。

- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが 1.6 mm 浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、他のタイヤと交換してください。



76J60060

⚠ 警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。(冬用タイヤも同様です)

- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  - **ABS**
  - **横滑り防止装置（ジムニーシエラ）**
  - **トラクションコントロール（ジムニーシエラ）**
  - **ブレーキアシスト（ジムニーシエラ）**
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

リモコンキーの電池交換

⚠ 警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注 記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **濡れた手で電池交換をしない**
- **電池以外の端子や電子部品に触れない**
- **端子を曲げない**
- **油や異物を付着させない**

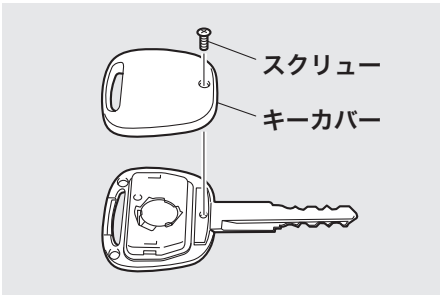
アドバイス

- 電池交換の際、リモコンキーを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

使用電池	リチウム電池CR1220

1 キーカバーを外します。

- スクリューは、サイズの合ったプラスドライバー（市販品）で外します。



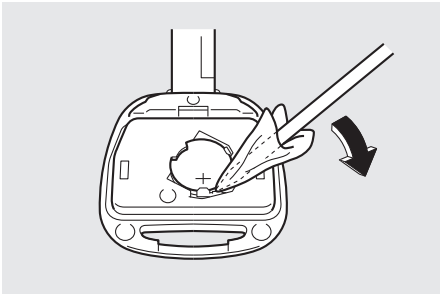
76J60070

注 記

スクリューのサイズ・形状に合わないドライバーを使用すると、スクリューの頭がつぶれるおそれがあります。

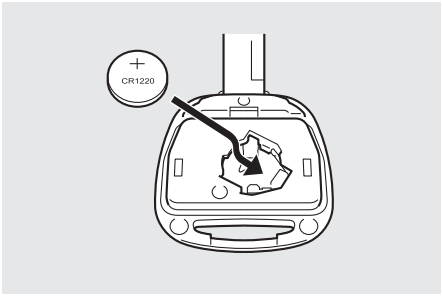
2 電池を交換します。

- 古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。



76J60080

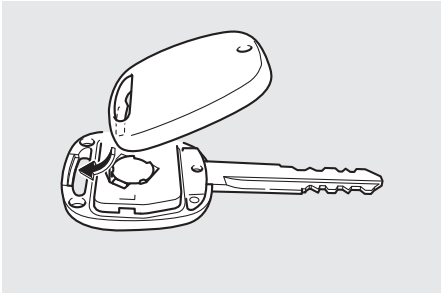
- 電池は、＋極を上にして取り付けます。



76J60090

3 キーカバーを組み付けます。

- 図のようにカバーの先端を合わせてから取り付けます。



76J60100

- スクリューを確実に締め付けます。

4 リモコンキーが正常に作動するか確認します。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〈スズキ純正ウォッシャー液の場合〉

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

バッテリー

バッテリーの液量や比重を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→ **2-3ページ**
（バッテリーの液面を点検する）

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→ **8-1ページ（サービスデータ）**
→ **メンテナンスノート（日常点検）**

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムでおおって雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

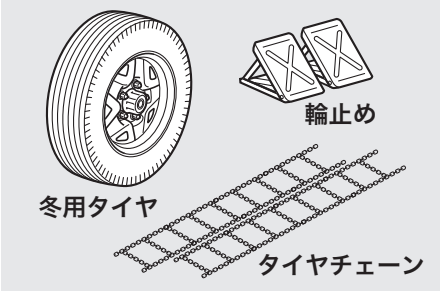
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

雪道や凍結路を走行するために必要です。



76J60210

出発の前に

屋根に積もった雪

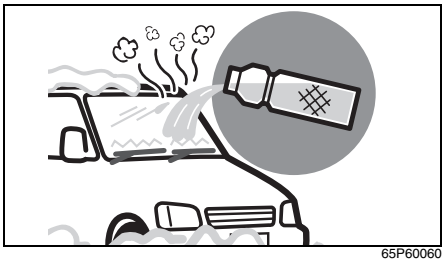
出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



76J60110

ワイパーの凍結

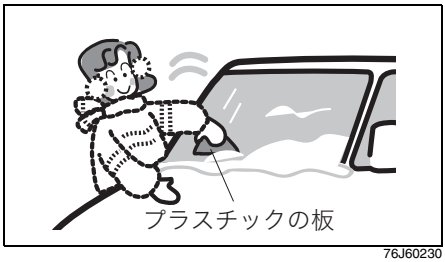
ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にワイパーを作動させると、ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。



65P60060

ガラス面の雪や霜

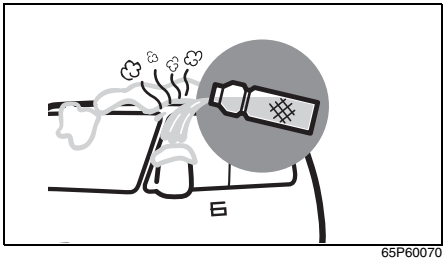
プラスチックの板を使うと、ガラスを傷つけずに落とせます。



76J60230

ドアミラーの凍結

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理にドアミラーを動かそうとすると、故障するおそれがあります。



65P60070

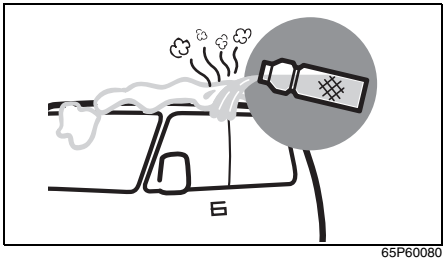
注 記

ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

→ 3-12ページ（ドアミラー格納スイッチ）

ドアの凍結

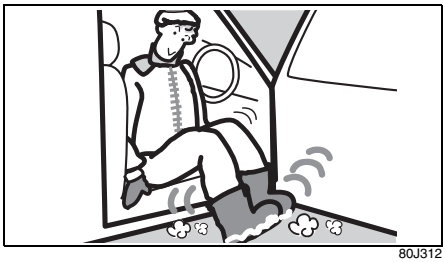
ぬるま湯をドアキーの穴を避けてかけます。ドアが開いたあとは水分をふき取ってください。凍結したまま無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、破損したりするおそれがあります。



65P60080

靴に付着した雪

乗車するときによく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。



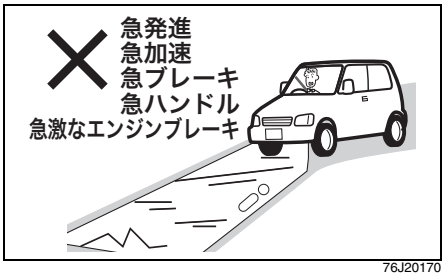
80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

⚠注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。



76J20170

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
  → **6-6ページ(タイヤ交換するときは)**
  → **6-14 ページ（タイヤチェーンを装着するとき)**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。



80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

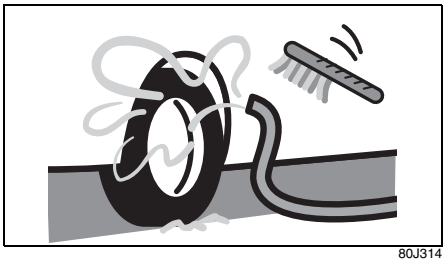
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

- 長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに輪止め（市販品）をしてください。
  - オートマチック車 は、セレクトレバーを P に入れます。
  - マニュアル車 は、チェンジレバーをRまたは1速に入れます。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。
凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。

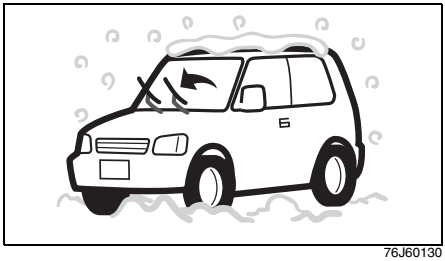


80J314

屋外に駐車するときは

注 記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。

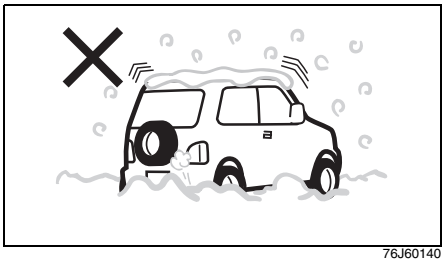


76J60130

排気管のまわりが雪でおおわれたときは

⚠警告

排気管のまわりが雪でおおわれたままエンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。



76J60140

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

●適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
●走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体にあたると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

⚠注意

●タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控え（30 km/h 以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。
●タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。
・ABS
・横滑り防止装置（ジムニーシエラ）
・トラクションコントロール（ジムニーシエラ）
・ブレーキアシスト（ジムニーシエラ）

注 記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは後輪に装着

この車は後輪が駆動輪ベースの 4WD です。前輪には装着しないでください。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

7-9 ページの「**タイヤ交換の準備**」の 1、2 をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注 記

アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

7. 万一のとき

● パンク ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2

● バッテリーあがり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-15

● ヒューズ切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-18

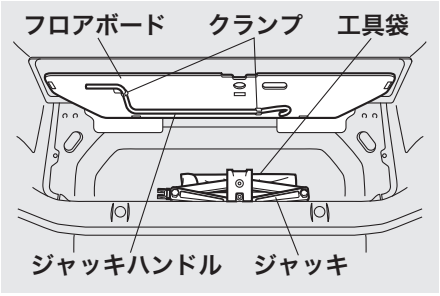
● 電球切れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-22

● オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28

● その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-29

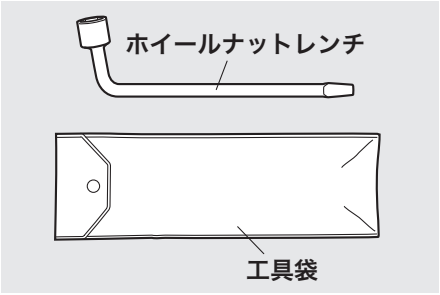
工具、ジャッキの収納場所

荷室のフロアボード下に収納されています。



76J70010

- ホイールナットレンチは、ジャッキ下に収納されている工具袋の中にあります。



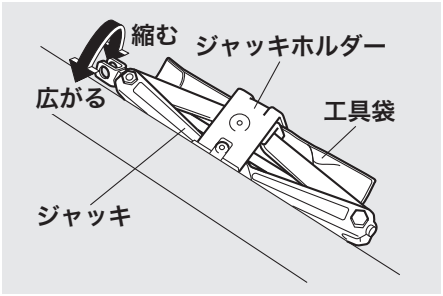
76J70020

- 使用後は所定の位置に収納し、しっかり固定してください。

工具袋、ジャッキの取り出しかた

ジャッキを縮めてから取り出します。

- ジャッキが縮めにくいときは、ジャッキハンドルを使ってください。



76J70030

注 記

収納するときに、ジャッキハンドルなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダーが変形するおそれがあります。

スペアタイヤ

タイプ別装備

バックドア外側に格納されています。

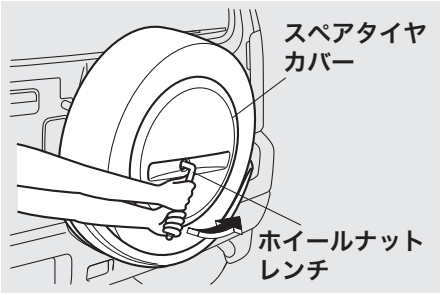
⚠注意

●スペアタイヤの空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●スペアタイヤのサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）およびホイールのサイズが他の4輪と異なる場合、スペアタイヤはパンクしたときに一時的に使用する応急タイプとなります。パンクしたタイヤをただちに修理または交換し、できるだけ早く4輪とも同じタイヤを装着してください。
→ 6-6ページ（タイヤ交換するときは）

ジムニー

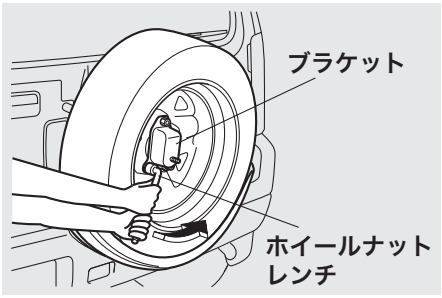
■ 外しかた

1 スペアタイヤカバーを外します。
- カバーを固定している袋ナット 1 個は、ホイールナットレンチで反時計方向にまわして外します。



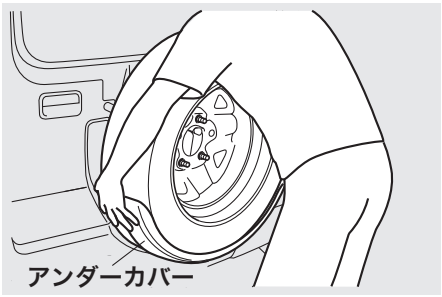
76J70040

2 ブラケットを外します。
- ブラケットを固定しているナット 3 個は、ホイールナットレンチで反時計方向にまわして外します。



76J70050

3 スペアタイヤとアンダーカバーを両手でしっかり持って外します。



76J70060

注記

スペアタイヤとアンダーカバーを地面に置くときは、慎重に降ろしてください。高い位置から落とすと、アンダーカバーなどが破損するおそれがあります。

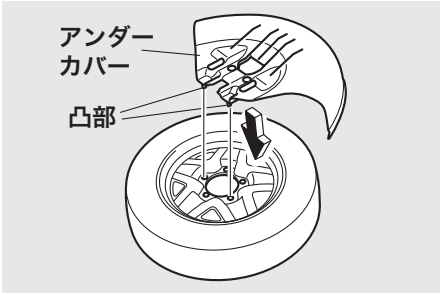
■ 取り付けかた

⚠注意

アルミホイール（タイプ別装備）装着のタイヤは、スペアタイヤの格納場所には取り付けないでください。破損や落下のおそれがあります。
パンクしたアルミホイール装着のタイヤは、荷室にて一時保管してください。

1 アンダーカバーをスペアタイヤへ取り付けます。

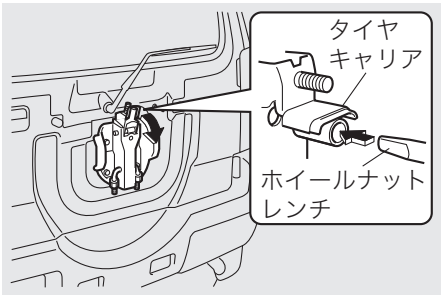
①スペアタイヤを、ホイール表面を上にして地面に置きます。
②アンダーカバーの凸部（2か所）を、図のようにホイール穴へはめ込みます。



76J70070

2 タイヤキャリア上部のボルトを手前に倒すため、ホイールナットレンチをタイヤキャリアに差し込みます。

- キャリア上部を手前に倒し、レンチ先端を図のように縦にしてソケット部を下向きにした状態で、パイプ穴およびその奥の穴に差し込みます。



76J70080

注 記

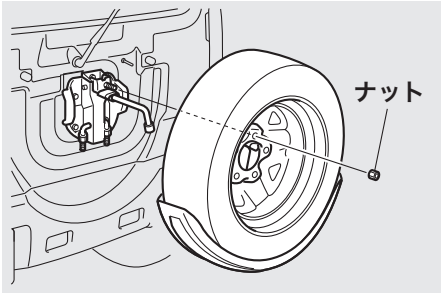
ホイールナットレンチを必要以上に奥まで差し込むと、車体を傷つけるおそれがあります。

アドバイス

ホイールナットレンチはソケット部を下向きにして差し込まないと、タイヤ取付け時のじゃまになります。

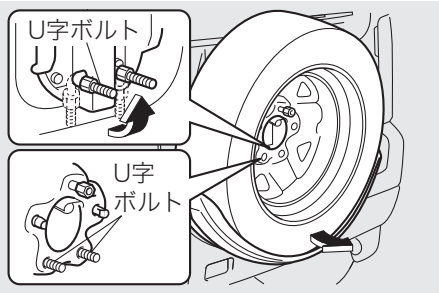
3 スペアタイヤとアンダーカバーを両手でしっかり持ち、図のようにタイヤキャリア上部のボルトとホイール穴（1か所）を合わせます。

- タイヤが抜け落ちないように、ナットを軽く仮締めします。仮締めしたら、ホイールナットレンチを抜き取ります。



76J70090

4 図のようにタイヤ下部を手前に引き上げながらU字ボルトを起こし、下側のホイール穴（2 か所）へ差し込みます。



76J70100

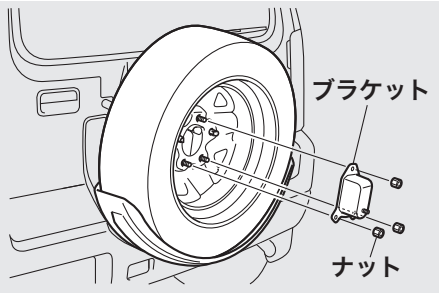
⚠注意

スペアタイヤと車体の間に、指などをはさまないよう気をつけてください。

5 ブラケットを取り付けます。

①手順3で仮締めしたナットを外し、ブラケットを図のように取り付けます。

②ナット3個は、ホイールナットレンチで均一に、しっかり締め付けます。



76J70110

③ナットが確実に締まっているか確認してください。

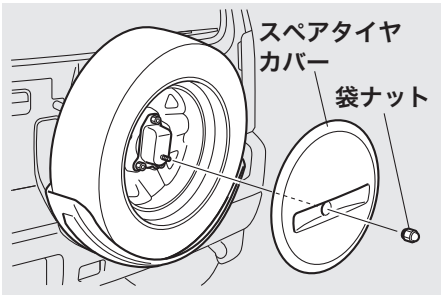
⚠注意

仮締めしたナットを外すときは、タイヤが落ちないように気をつけてください。

6 スペアタイヤカバーを取り付けます。

①図のようにカバーの穴とブラケットのボルトを合わせます。

②袋ナット1個は、ホイールナットレンチでしっかり締め付けます。



76J70120

注 記

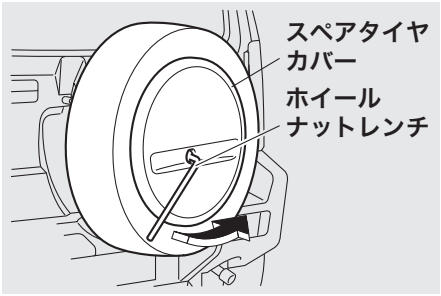
袋ナットを必要以上に締め付けないでください。スペアタイヤカバーが破損するおそれがあります。

ジムニーシエラ

■ 外しかた

1 スペアタイヤカバーを外します。

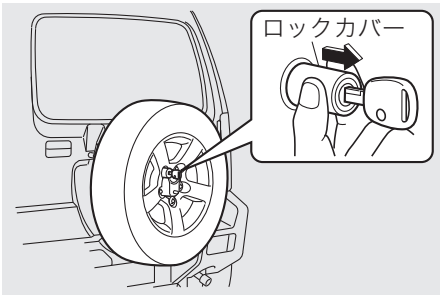
- カバーを固定している袋ナット 1 個は、ホイールナットレンチで反時計方向にまわして外します。



76J70400

2 ロックカバーを外します。

- ロックカバーのキー溝に、エンジンキーをいっぱいに差し込んだまま引き抜きます。



76J70410

3 ロックナット1個、袋ナット2個を外します。

- ホイールナットレンチを使用して、反時計方向にまわして外します。



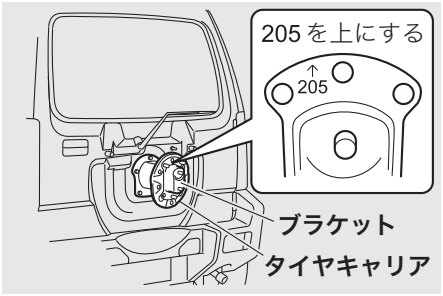
76J70420

4 スペアタイヤを両手でしっかり持って外します。

■ 取り付けかた

1 タイヤキャリアに取り付けられているブラケットの向きを確認します。

- 「205」の刻印がある側を上にします。



76J70430

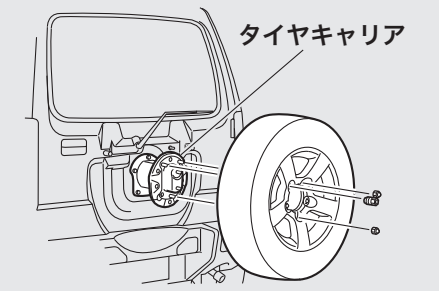
アドバイス

ブラケットを上下逆に取り付けると、スペアタイヤカバー固定用の袋ナットがしっかり締め付けられなくなります。

2 スペアタイヤをタイヤキャリアに取り付けます。

①タイヤを両手でしっかり持ち、キャリアのボルトとホイール穴（3か所）を合わせます。

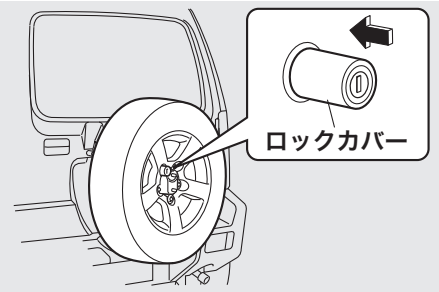
②ロックナット1個、袋ナット2個は、ホイールナットレンチで均一に、しっかり締め付けます。



76J70440

③ナットが確実に締まっているか確認してください。

3 ロックカバーをロックナットに取り付けます。



76J70450

- ロックカバーを引いて、確実に固定されているか確認してください。

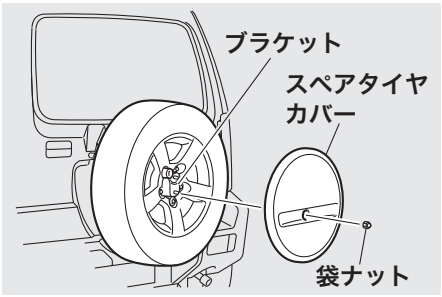
アドバイス

ロックカバーは、ロックカバーからエンジンキーを抜いた状態で取り付けることができます。

4 スペアタイヤカバーを取り付けます。

①図のようにカバーの穴とブラケットのボルト（下側）を合わせます。

②袋ナット1個は、ホイールナットレンチでしっかり締め付けます。



76J70460

注記

袋ナットを必要以上に締め付けないでください。スペアタイヤカバーが破損するおそれがあります。

アドバイス

ブラケットの上側にあるボルトに取り付けると、袋ナットがしっかり締め付けられなくなります。

応急用スペアタイヤ

タイプ別装備

アルミホイール装備のジムニーには応急用スペアタイヤが装備されています。

■ 外しかた

スペアタイヤの外しかたと同じ操作です。

→ 7-3ページ（スペアタイヤ）

■ 取り付けかた

スペアタイヤの取り付けかたと同じ操作です。

→ 7-3ページ（スペアタイヤ）

⚠注意

アルミホイール（タイプ別装備）装着のタイヤは、スペアタイヤの格納場所には取り付けないでください。破損や落下のおそれがあります。
パンクしたアルミホイール装着のタイヤは、荷室にて一時保管してください。

応急用スペアタイヤの取扱い

タイプ別装備

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するものです。パンクしたタイヤはただちに修理または交換し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。応急用スペアタイヤは、標準タイヤとホイールサイズが違うため、次の事項を守ってください。

■ 定期的に点検する

⚠警告

空気圧や摩耗状態を定期的に点検してください。空気圧不足やタイヤの摩耗した状態での使用は、思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用スペアタイヤの指定空気圧は前輪 160 kPa (1.6 kgf/cm^2)、後輪180 kPa (1.8 kgf/cm^2) です。

■ ほかの車のスペアタイヤを使わない

⚠警告

応急用スペアタイヤは、この車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用スペアタイヤをこの車に使用したりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 装着したときの走行は

⚠警告

応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。やむをえず走行する場合は、80km/h 以下の速度で走行し、できるだけ早く標準タイヤにもどしてください。

■ ラベルは見えるように

応急用スペアタイヤを装着したときはホイールに貼り付けてあるラベルが見えるようにしてください。

■ ラベルは剥がさない

応急用スペアタイヤのホイールに貼り付けてある速度制限ラベルを剥がさないでください。

■ ラベルが剥がれたときは

応急用スペアタイヤのホイールに貼り付けてある速度制限ラベルが剥がれたときは、貼り直してください。

タイヤ交換の準備

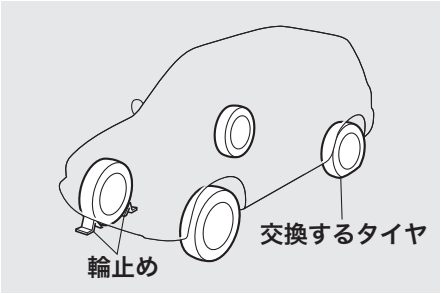
1 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めます。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをＲまたは1速に入れます。

必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

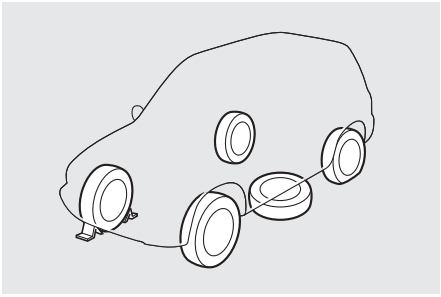
3 交換するタイヤと対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（市販品）を置きます。



76J70130

4 工具、ジャッキを取り出し、スペアタイヤを取り外します。同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは、車からおろします。

- 万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り外したスペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。

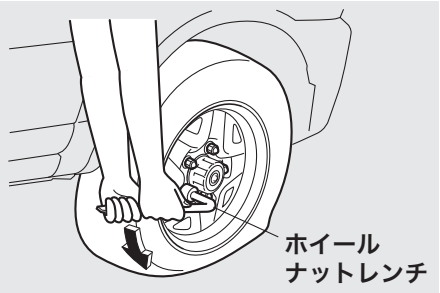


76J70140

アドバイス

スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5 ホイールナットレンチでホイールナット5個を反時計方向にまわし、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



76J70150

- 上図のホイールは代表例です。お車のタイプにより異なります。

ジャッキアップ

ジャッキアップする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

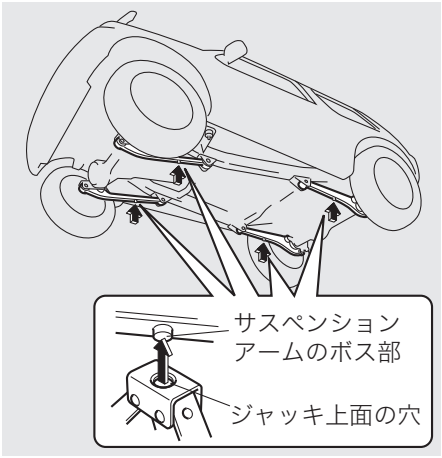
- オートマチック車 はセレクトレバーを P に入れ、エンジンを止めてください。
- マニュアル車 はエンジンを止め、チェンジレバーをRまたは1速に入れてください。

⚠警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1 ジャッキハンドル取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ上面の穴をサスペンションアームのボス部に軽く接触させます。

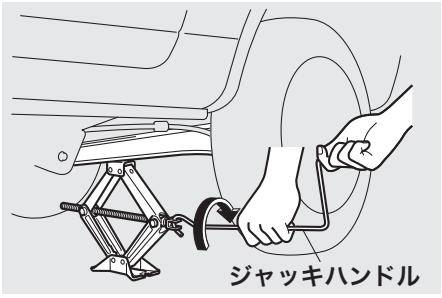


76J70160

2 ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ上面の穴がサスペンションアームのボス部にはまっているか確認します。

3 ジャッキに、ジャッキハンドルを取り付けます。（次の図参照）

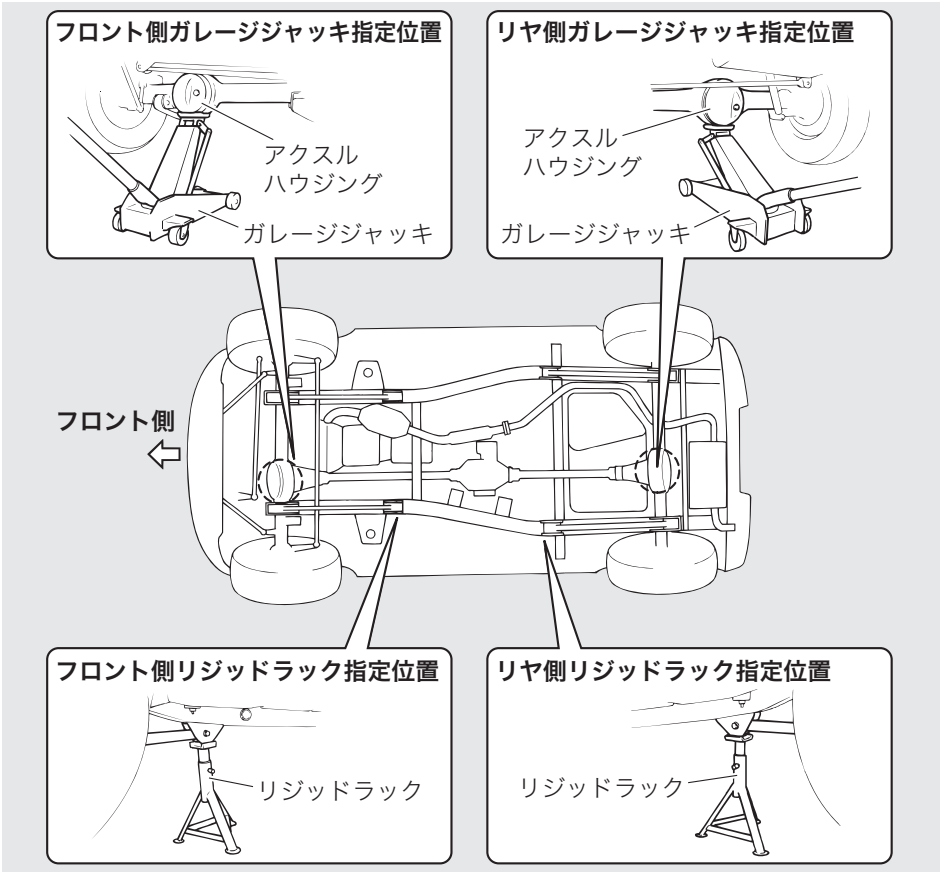
4 ジャッキハンドルをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。



76J70170

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を下図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



76J70180

⚠ 警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

タイヤの取付け・取外し

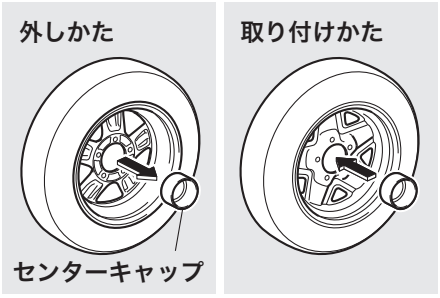
1 ホイールナットを外して、タイヤを取り外します。外したタイヤは、車体の下に置きます。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2 ジムニーの後輪タイヤを交換するときは、センターキャップを付け替えます。

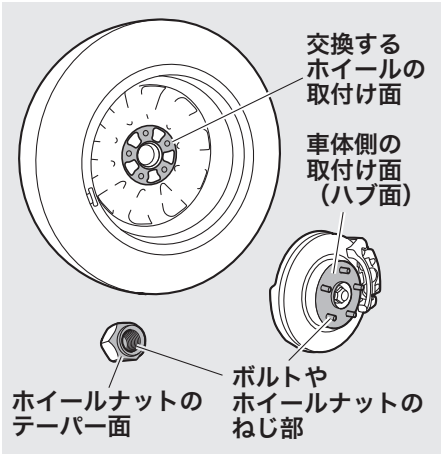
- 外すときは、ホイール裏面へキャップを押し出します。
- 取り付けるときは、ホイール裏面からキャップを押し込みます。



76J70190

3 次の場所の汚れや異物を取り除きます。

- 交換するホイールの取付け面
- 車体側の取付け面（ハブ面）
- ボルトやホイールナットのねじ部
- ホイールナットのテーパー面
- ホイール穴のテーパー面



67H70250

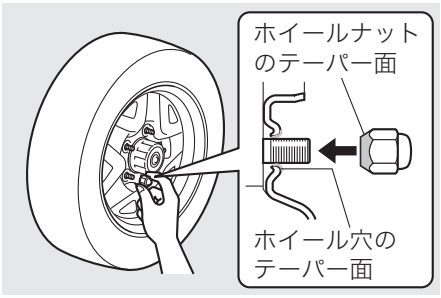
- 上図は代表例です。お車のタイプにより異なります。
- このとき、ボルトやナットのねじ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

●前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
●ナットやボルトに、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にナットを締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

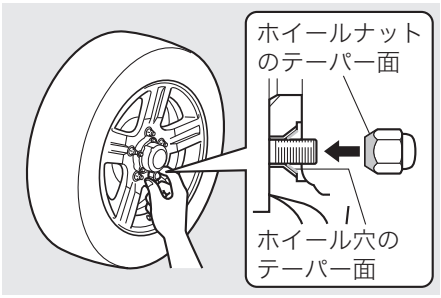
4 ホイールナットのテーパー面が、ホイール穴のテーパー面に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。

スチールホイール装備車



76J70200

アルミホイール装備車



76J70210

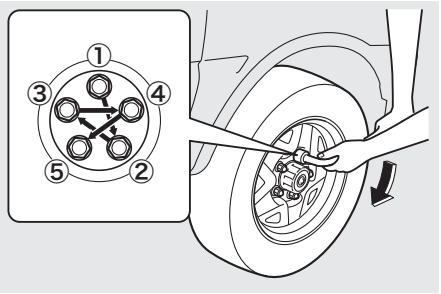
- 上図のアルミホイールは代表例です。お車のタイプにより異なります。

5 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

6 ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを次の図の順序で2～3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：100 N・m (1020 kgf・cm)

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は390 N（40 kgf）を目安にしてください。
- すべてのホイールナットが確実に締まっていることを確認してください。



76J70220

- 上図のホイールは代表例です。お車のタイプにより異なります。

⚠警告

●ホイールナットが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。

●ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、ナットを締め過ぎてボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

規定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具とジャッキを所定の位置に収納してください。
- ジムニーのスチールホイール装備車およびジムニーシエラの場合、パンクしたタイヤは、スペアタイヤの格納場所に取り付けてください。
- ジムニーのアルミホイール装備車の場合、パンクした標準タイヤは、スペアタイヤの格納場所には取り付けることができませんので、荷室にて一時保管してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから1,000 km 程度走行したあとに、ホイールナットにゆるみがないか点検してください。

⚠警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠注意

ジムニーの場合、アルミホイール（タイプ別装備）装着のタイヤは、スペアタイヤの格納場所には取り付けないでください。破損や落下のおそれがあります。

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーがあがっています。

- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

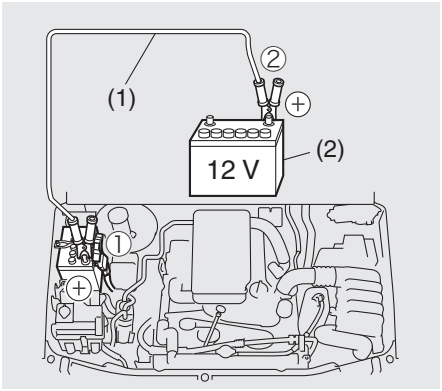
バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 Vバッテリーを使用している他のバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1 1本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続します。

① バッテリーあがり車の ⊕ 端子
② バッテリー正常車の ⊕ 端子

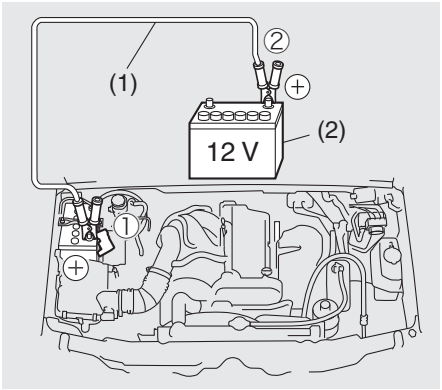
ジムニー



76J70311

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー

ジムニーシエラ



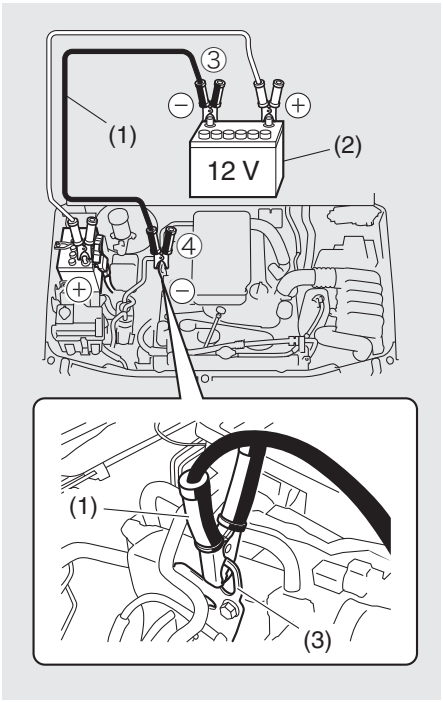
76J70471

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー

2 2本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

③ バッテリー正常車の ⊖ 端子
④ バッテリーあがり車のエンジン本体（エンジンハンガーフックなど）

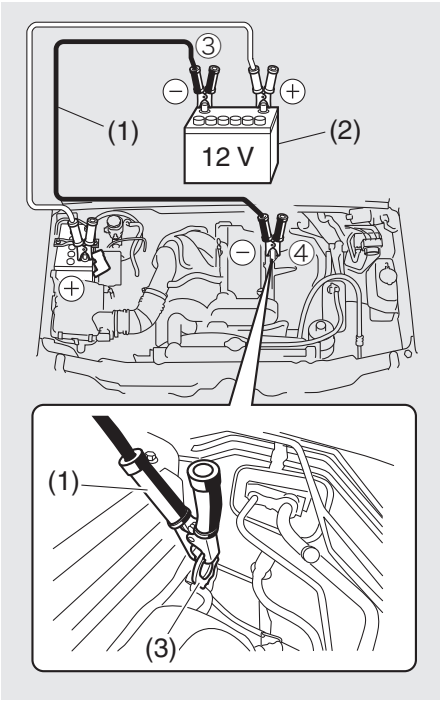
ジムニー



76J70530

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー
(3) エンジンハンガーフック

ジムニーシエラ



76J70540

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車のバッテリー
(3) エンジンハンガーフック

3 バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。

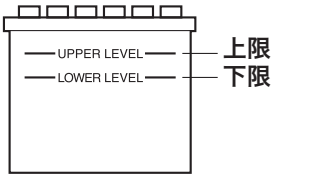
4 バッテリーあがり車のエンジンを始動します。

5 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。

6 お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠ 警告

●バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。
- **バッテリーを充電するときやブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限以下のままで充電などすると、バッテリーが発熱して爆発のおそれがあります。また、バッテリーの寿命を縮めるおそれがあります。**
  バッテリー補充液を上限まで補給してから、充電などを行なってください。



76J20370

- **充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。**
- **④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジンハンガーフックなどに接続してください。**
- **乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。**

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

- **ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。**
- **ショート防止のため、ブースターケーブルの⊕端子は、バッテリーの⊕端子以外の部分（⊖端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。**
- **オートマチック車 は押しがけができません。マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。**

バッテリーあがりを防ぐためには

- 1か月に一度は連続して30分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。

→ **2-3ページ**
（バッテリーの液面を点検する）

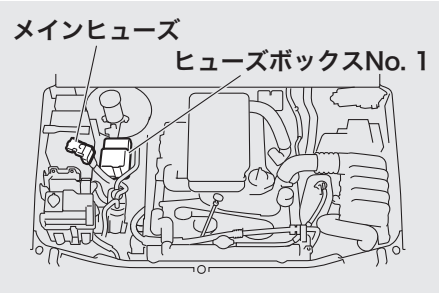
ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と運転席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

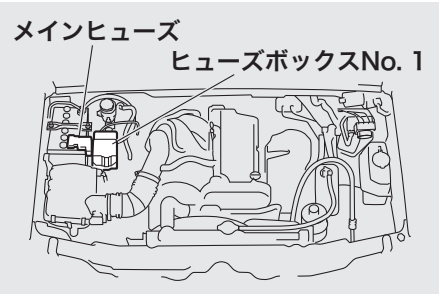
エンジンルーム内のヒューズ

ジムニー



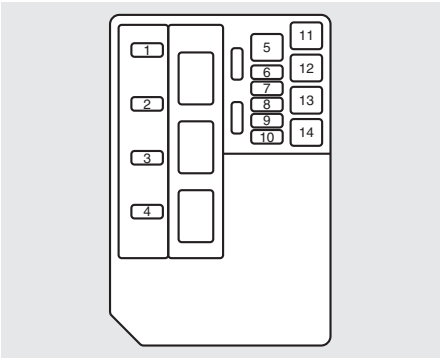
76J70321

ジムニーシエラ



76J70481

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。



76J70330

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

ジムニー

位置	表示	容量	接続先名称
1	CPRSR	10A	エアコンコンプレッサー
2	ST	30A	スターター
3	HTR FAN	20A	ヒーターファン
4	FR FOG	15A	フォグランプ
5	LAMP	50A	照明
6	H/L R	15A	ヘッドライト(右)
7	H/L L	15A	ヘッドライト(左)
8	RDTR	30A	ラジエーターファン
9	P/S	30A	パワーステアリング
10	FI	15A	燃料噴射装置
11	ABS SOL	30A	ABSソレノイド
12	IGN1	40A	エンジンスイッチ
13	ABS MOT	40A	ABSモーター
14	IGN2	50A	リヤデフォッガーパワーウインドー

ジムニーシエラ

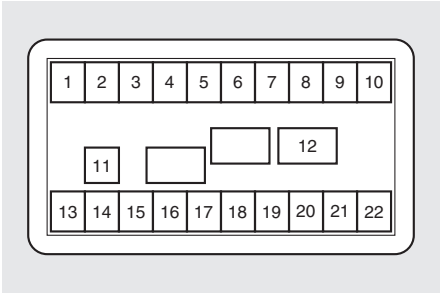
位置	表示	容量	接続先名称
1	A/C	20A	エアコン
2	ST	30A	スターター
3	HTR FAN	20A	ヒーター
4	FR FOG	15A	フォグランプ
5	LAMP	50A	照明
6	H/L R	15A	ヘッドライト(右)
7	H/L L	15A	ヘッドライト(左)
8	—	—	—
9	—	—	—
10	FI	15A	燃料噴射装置
11	ABS SOL	30A	ABSソレノイド
12	IGN1	40A	エンジンスイッチ
13	ABS MOT	40A	ABSモーター
14	IGN2	50A	エンジンスイッチ

運転席足元のヒューズ



76J70340

ヒューズの表は、ヒューズカバーの表側にあります。



76J70350

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

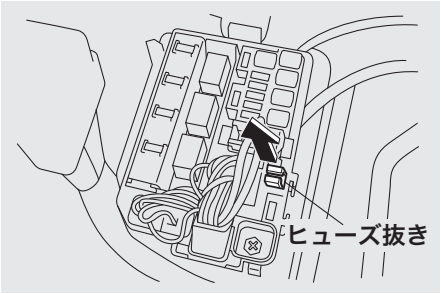
位置	表示	容量	接続先名称
1	IG2 SIG	10A	ヒーター
2	REAR DEFG	20A	リヤ デフォッガー
3	WIPER WASHER	15A	ワイパー ウォッシャー
4	SEAT HEATER	15A	シート ヒーター
5	CIGAR	15A	シガー ライター
6	DEICER	15A	デアイサー
7	HORN HAZARD	15A	ホーン 非常点滅表示灯
8	RADIO DOME	15A	ラジオ 室内灯
9	—	—	—
10	—	—	—
11	ST	10A	スターター
12	POWER WINDOW	30A	パワー ウインドー
13	IG	15A	イグニッション コイル
14	4WD	20A	4WD
15	BACK	10A	後退灯
16	AIR BAG	15A	エアバッグ
17	METER	10A	メーター
18	ABS	10A	ABS
19	AT	10A	AT
20	TAIL	10A	尾灯
21	STOP	15A	制動灯
22	DOOR LOCK	15A	ドアロック

ヒューズの点検と交換

点検・交換のしかた

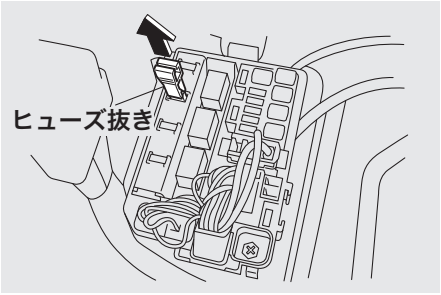
1 エンジンスイッチを LOCK にします。

2 エンジンルーム内のヒューズボックス No. 1 のカバーを外し、ヒューズ抜きを取り出します。



76J70360

3 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

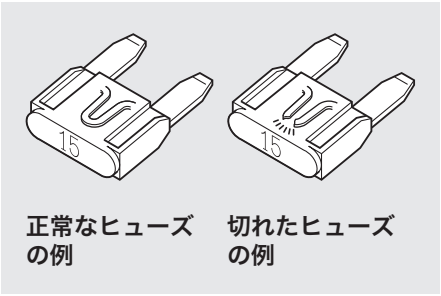


76J70370

4 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

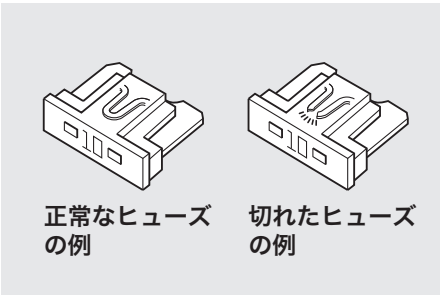
- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

ミニブレードタイプ



76J70380

低背ブレードタイプ



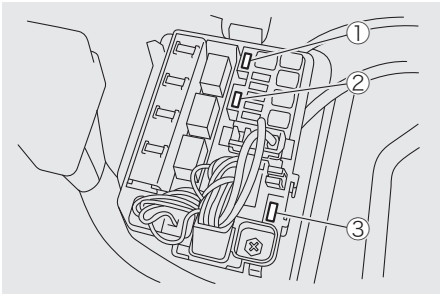
76J70490

- ヒューズを点検または交換したあとは、ヒューズ抜きを所定の位置に格納し、しっかりカバーをしてください。

■ 予備ヒューズ（低背ブレードタイプ）

エンジンルーム内のヒューズボックスNo.1にあります。

- 予備ヒューズにないサイズや容量のヒューズを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



76J70500

位置	容量	頭部の着色	個数
①	15A	青色透明	1
②	30A	緑色透明	1
③	20A	黄色透明	1

⚠警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

電球の点検

ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯は他の人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもるのと同じ現象です）

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。電球のワット数および型式は、サービスデータ（**8-4ページ**）をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**



51K0180

注 記

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れのおそれがあります。

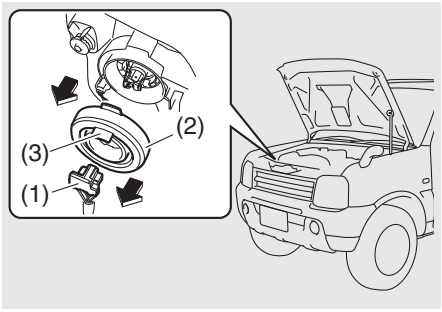
ヘッドライト

1 ボンネットを開けます。
→ **5-10ページ（ボンネット）**

2 カプラー（1）は、カプラー本体をしっかり持って車両後方へまっすぐ引いて外します。
ゴムカバー（2）はツマミ（3）を引いて外します。

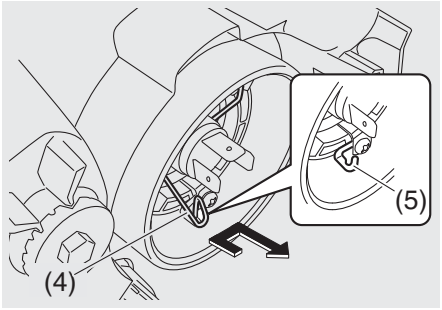
注 記

配線をひっぱったり、カプラーをこじったりすると接続不良の原因となって、ヘッドライトが点灯しなくなるおそれがあります。



76J70560

3 止め金（4）を図の矢印のように、押しながら横にずらして固定フック（5）から外します。



76J70570

4 電球を外します。交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

- カプラー本体をしっかり持って奥まで確実に差し込みます。
- ゴムカバーは、「TOP」という表示があるツマミを上にして、しっかりとはめ込みます。

フォグランプ

タイプ別装備

1 交換作業のスペースを確保します。

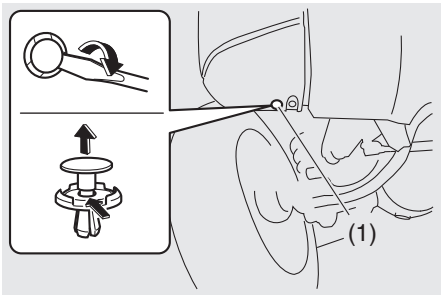
- エンジンをかけ、交換する電球の側と同じ側にハンドルをいっぱいにまわします。

2 エンジンを停止します。

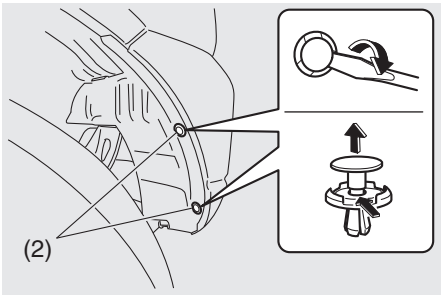
3 フェンダー内のカバーを一部外します。

- バンパー底部のクリップ（1）と、フェンダー内のカバーにあるクリップ（2）は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。

ジムニー

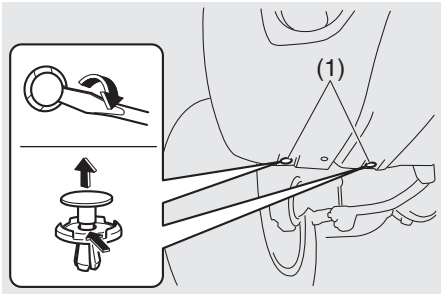


76J70580

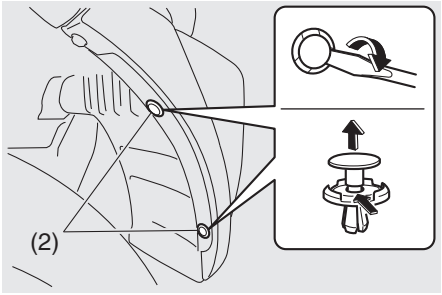


76J70590

ジムニーシエラ

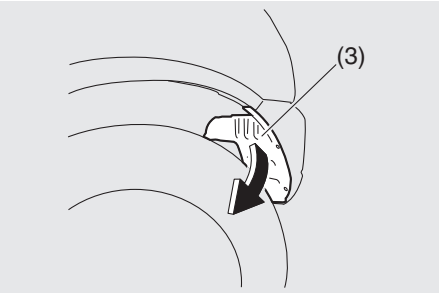


76J70600



76J70610

4 フェンダー内のカバー（3）をめくって内側から交換します。



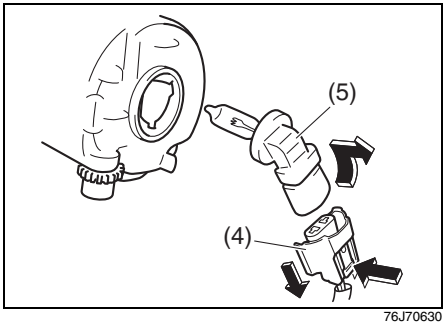
76J70620

- カプラー（4）は、本体をしっかり持ってツメを押しながら外します。

注記

配線をひっぱったり、カプラーをこじったりすると接続不良の原因となって、フォグランプが点灯しなくなるおそれがあります。

- カプラーを外したあとに電球（ソケット一体式）（5）を、反時計方向にまわして外します。



76J70630

5 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

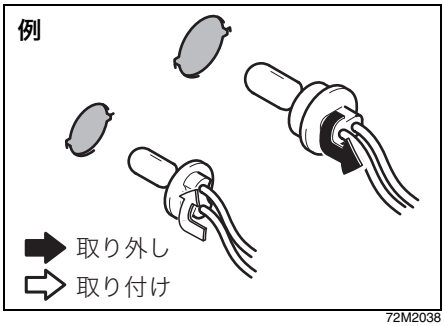
- 方向指示器／非常点滅表示灯（フェンダーまたはドアミラー）

そのほかの一般的な電球

電球ソケットおよび電球の取り外し／取り付けは、次の方法で行ないます。

■ 電球ソケットの取り外し／取り付け

- ソケットをランプ本体から取り外すときは、ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。
- 取り付けるときは、ソケットをランプ本体の切り欠きにあわせて差し込み、時計方向にまわします。



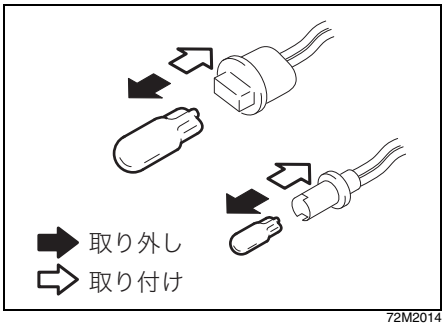
72M2038

■ 電球の取り外し／取り付け

2つのタイプがあります。

- **A**タイプは、図のように抜き差しするだけです。

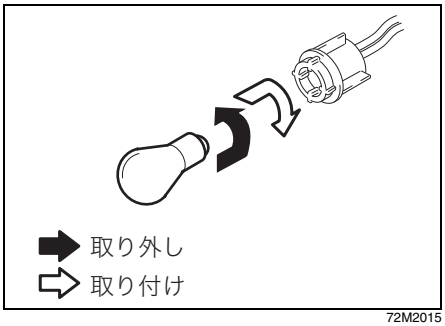
Aタイプ



72M2014

- **B**タイプは、次のようになります。
  - 取り外すときは、電球を押しながら反時計方向にまわします。
  - 取り付けるときは、電球を押しながら時計方向にまわします。

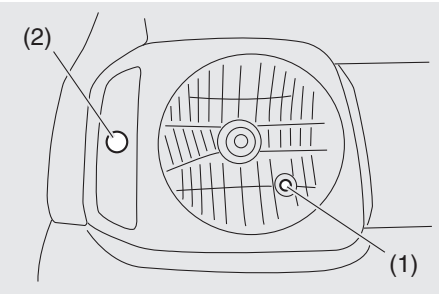
Bタイプ



72M2015

■ 車幅灯、方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

ボンネットを開け、エンジンルーム内から交換します。



76J70640

(1) 車幅灯（**A** タイプ）
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯（前面、**B** タイプ）

■ リヤコンビネーションランプ

バックドアを開け、ランプ全体を外してから交換します。

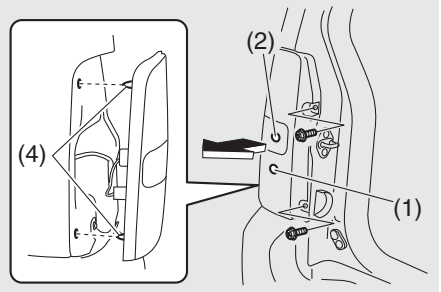
- ボルト 2 個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
- ランプ本体は、車両の後方へまっすぐ引いて外します。（※）

※運転席側はボルトを外したあと、一度バックドアを閉めてからランプ本体を外します。

注 記

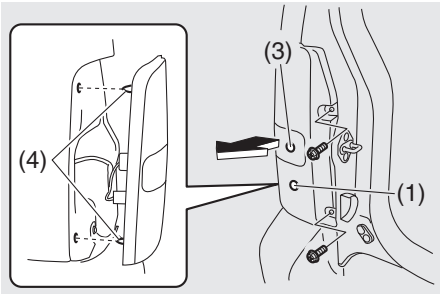
バックドアを閉めるときは、ランプ本体などが当たらないことを確認しながらゆっくりと閉めてください。

ジムニー



76J70650

ジムニーシエラ



76J70660

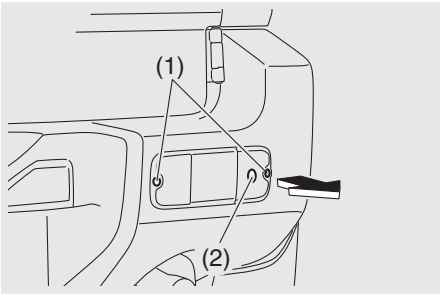
(1) 制動灯/尾灯(**A**タイプ)
(2) 方向指示器／非常点滅表示灯
（後面、**A**タイプ）
(3) 後退灯(**A**タイプ)

- ランプ本体をもとにもどすときは、クリップ２か所（4）を車体側の穴にあわせて押し込みます。

■ 方向指示器／非常点滅表示灯（後面、ジムニーシエラ）

ランプ本体を外してから交換します。

- スクリュー（1）は、プラスドライバー（市販品）で外します。

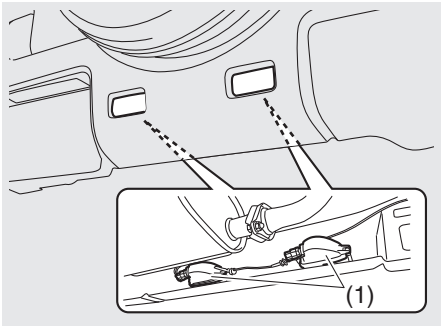


76J70670

(2) 方向指示器／非常点滅表示灯
（後面、**A**タイプ）

■ 後退灯（ジムニー）

バンパー裏側から交換します。



76J70680

(1) 後退灯(**A**タイプ)

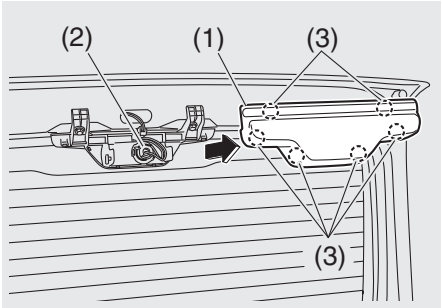
⚠注意

排気管などが十分に冷えてから電球交換を行なってください。エンジン停止後しばらくは排気管などが熱くなっているため、やけどのおそれがあります。

■ ハイマウントストップランプ

バックドアを開け、カバー（1）を外してから交換します。

- カバーは、手前にまっすぐ引いて外します。



76J70690

(2) ハイマウントストップランプ
（**B**タイプ）

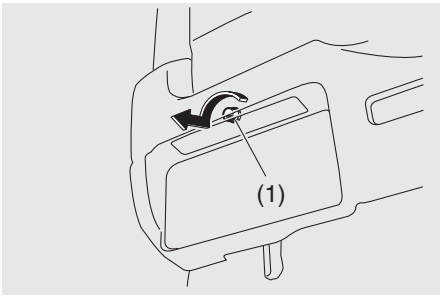
注記

カバーを外すときは、カバーのツメ（3）が破損するおそれがありますので、手前にまっすぐ引いてください。

■ 番号灯（Aタイプ）

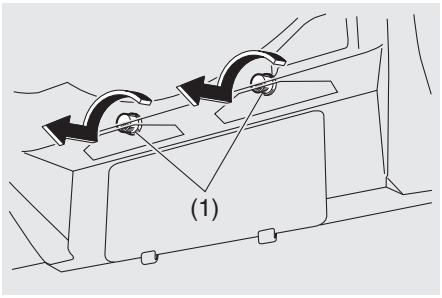
レンズ（1）を反時計方向にまわして外してから交換します。

ジムニー



76J70700

ジムニーシエラ

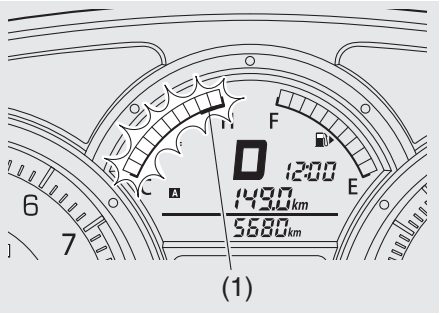


76J70710

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の目盛りがオーバーヒート範囲（1）に入り、目盛り全体が点滅している。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている



76J30780

- 上図のメーターは代表例です。お車のタイプにより異なります。

オーバーヒートしたときは

1 車を安全な場所に止めます。

2 エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
  → **5-10ページ（ボンネット）**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

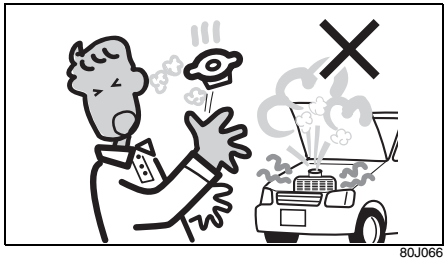
3 冷却ファンの作動を確認し、水温計の目盛りが下がるのを待ってエンジンを止めます。

- 冷却ファンが作動していないときや、水温計の目盛りが下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠ 警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。



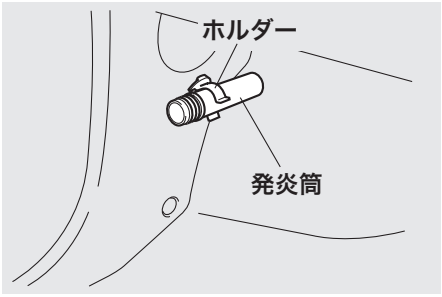
80J066

5 冷却水の量が不足しているときは補給します。

- 水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。
- 冷却水がなく、やむをえず水だけを補給したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約 5 分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



76J70230

⚠ 警告

●お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
●必ずホルダーに保管してください。
●点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。
●ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。
●トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。

故障したときは

故障したときの連絡先は

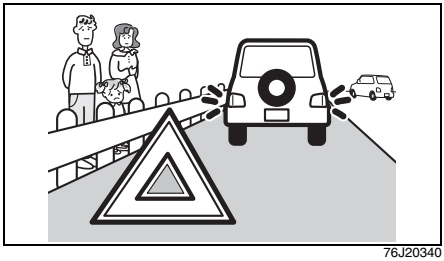
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店およびJAFの連絡先は、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

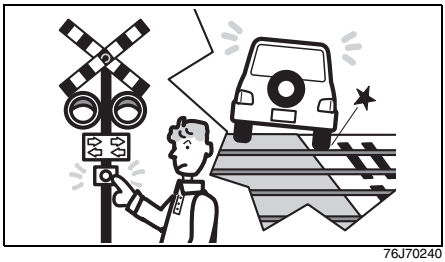


76J20340

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

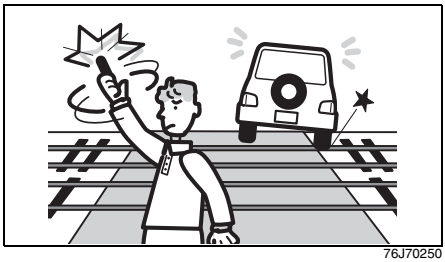
踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



76J70240

踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。



76J70250

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。



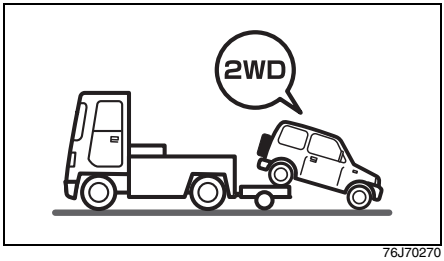
76J70260

アドバイス

マニュアル車 、オートマチック車 ともエンジンスイッチを START の位置で保持して緊急避難的に車を動かすことはできません。

けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4輪または後輪を持ち上げてください。
- 後輪だけを持ち上げてけん引するときは、安全や駆動装置の保護のため、必ずけん引の前に 2WD に切り替えてください。



76J70270

→ **4-17ページ（2WD/4WD切替えスイッチ）**

- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

⚠ 警告

4WD のままで、前輪だけまたは後輪だけを台車にのせた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛びだすなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。

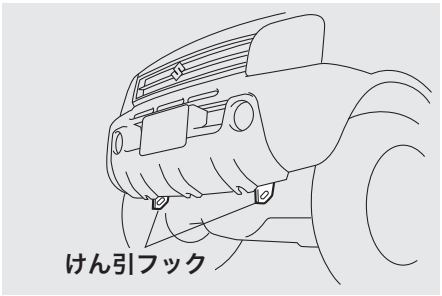
ロープけん引

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

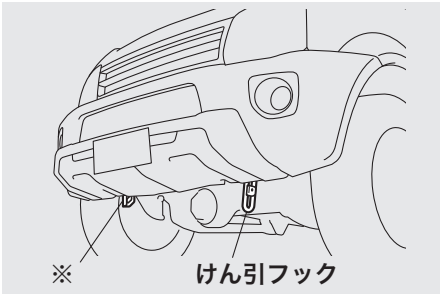
■ フロント側

ジムニー



76J70280

ジムニーシエラ



76J70510

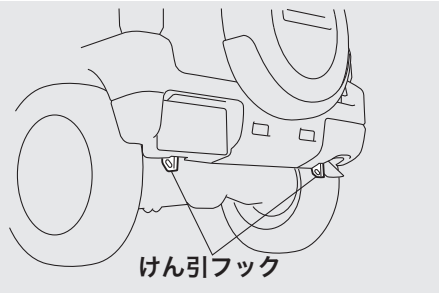
注 記

ジムニーシエラのフロント側に装備されている※印のフックは、車を輸送するときの固定用フックです。けん引には使用しないでください。フックや車体が破損するおそれがあります。

■ リヤ側

ジムニー

この車を一時的に後ろに移動させるときは、後ろのけん引フックにロープをかけます。



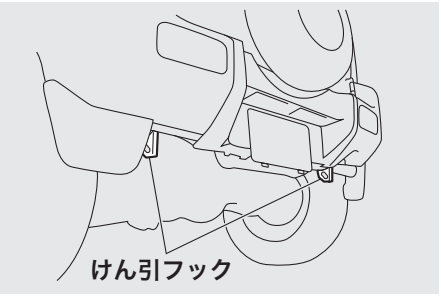
76J70290

注 記

この車で他車をけん引することはできません。

ジムニーシエラ

この車を一時的に後ろに移動させるときや他車をけん引するときは、後ろのけん引フックにロープをかけます。



76J70520

注 記

自車よりも重い車をけん引しないでください。また、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体、駆動装置が損傷するおそれがあります。

ロープでけん引してもらうときは

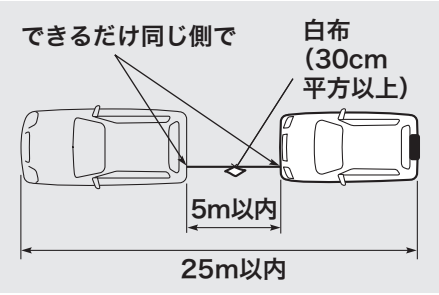
1 けん引フックにロープをかけます。

- ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

注 記

けん引中に、ロープがバンパーを傷つけるおそれがあるときは、あらかじめバンパーを外してください。

2 ロープの中間に白い布（30 cm平方以上）をつけます。



76J70300

3 エンジンはかけたままにします。

- エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを LOCK 以外の位置にします。
- ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。
- 2WD/4WD切替えスイッチを操作して、駆動状態を2WDにします。
  → **4-16ページ (2WD⇆4WDの切替え操作)**

⚠ 警告

エンジンがかからない車の運転は

- **キーを抜いたりエンジンスイッチを LOCK の位置にしたりしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

⚠ 注意

故障やバッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4 オートマチック車 はセレクトレバーを N に入れます。

マニュアル車 はチェンジレバーをN（ニュートラル）に入れます。

アドバイス

オートマチック車 の場合、故障やバッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを ON にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを P から他の位置へ動かせないときは、**4-10 ページ**の手順でシフトロックを解除してください。

5 けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

- 後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

⚠ 警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注記

- **けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
- **オートマチック車 を、やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度30 km/h以下、走行距離30 km以内にしてください。**

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。

3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4 相手方、事故の状況をメモします。

5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

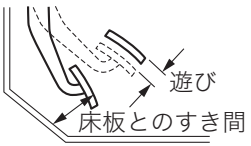
後遺症が出るおそれがあります。

項　　目		データ		
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン		
	タンク容量	40 L		
エンジンオイル（※1）	グレード	ジムニー	スズキエクスターF SL 5W-30	
		ジムニーシエラ	スズキエクスターF SM/GF-4 0W-20	
	規定量	ジムニー	オイル交換時	2.8 L
			オイル、オイルフィルター同時交換時	3.0 L
		ジムニーシエラ	オイル交換時	3.8 L
			オイル、オイルフィルター同時交換時	4.0 L
トランスミッションオイル（MT車）	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W-80（SAE 75W-80、API GL-4相当）		
	規定量	1.3 L		
トランスミッションフルード（AT車）（※2）	グレード	ジムニー	スズキATF 3317	
			DEXRON® - III	
		ジムニーシエラ	スズキATF 3317	
	規定量	5.7 L		
トランスファーオイル	グレード	スズキ4輪ギヤオイル　75W-90 (GL-4)		
	規定量	1.1 L		
デファレンシャルオイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル　80W-90 (GL-5)		
	規定量	フロント	1.7 L	
		リヤ	1.4 L	
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）		
	規定量	ジムニー	3.7 L	
		ジムニーシエラ	5.9 L	

※1　適切なオイルのご使用方法については、**2-28ページ**の「**エンジンオイルの規格／粘度**」をお読みください。

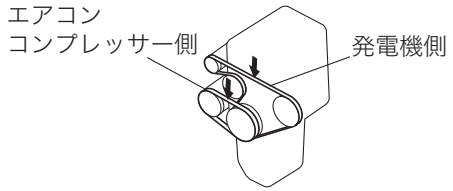
※2　ジムニーの場合、トランスミッションフルードはDEXRON® - III規格をみたすものを入れてください。なお、スズキATF 3317は、DEXRON® - III規格をみたしています。
ジムニーシエラの場合、トランスミッションフルードはスズキATF 3317を入れてください。

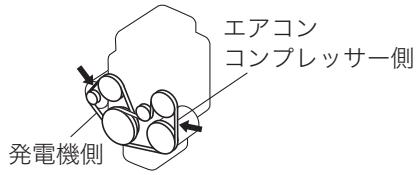
- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルードは絶対に入れないでください。

項目		データ	
ウォッシャー液	グレード	スズキ純正ウインドーウォッシャー液	
	タンク容量	ジムニー	1.5 L
		ジムニーシエラ	2.0 L
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード(DOT-3)	
パワーステアリングオイル	グレード	ジムニーシエラ	スズキATF 2326
スパークプラグ	タイプ	ジムニー	NGK：LKR7BI8 DENSO：IXU22HPR
		ジムニーシエラ	NGK：IFR6J11（イリジウム）
	電極のすきま	ジムニー	0.7～0.8 mm
		ジムニーシエラ	1.0～1.1 mm
バッテリー	タイプ	55B24R	
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※）	基準値（新品時）	10.0 mm
		限度値	8.0 mm
リヤブレーキ	ドラム内径（※）	基準値（新品時）	220 mm
		限度値	222 mm
ブレーキペダル	遊び	1～8 mm	
	床板とのすきま	水平方向に65 mm以上 〔踏み込み力 300 N（31 kgf）〕	
パーキングブレーキレバー	引きしろ	6～8 ノッチ〔操作力 200 N （20 kgf）〕	
クラッチペダル	遊び	10～20 mm	
	床板とのすきま	96～106 mm（クラッチが切れたとき）	
	 68H80040		

● 指定外のブレーキ液、パワーステアリングオイルは絶対に入れないでください。

※点検して限度値に達していたら、ディスクやドラムを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターやキャリパーゲージによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th colspan="4">デ　　ー　　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="12">ドライブベルト</td><td rowspan="12">たわみ量〔100 N（10 kgf）で押したとき〕</td><td rowspan="5">ジムニー</td><td rowspan="2">発電機側</td><td>新品時</td><td>10～12 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>12～15 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エアコンコンプレッサー側</td><td>新品時</td><td>6～7 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>8.5～9.5 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">

76J80010</td></tr>
<tr><td rowspan="7">ジムニーシエラ</td><td rowspan="2">発電機側</td><td>新品時</td><td>3～4 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>4.5～5.5 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エアコンコンプレッサー側</td><td>新品時</td><td>6.5～7.5 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>8.5～10.5 mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">

76J80030</td></tr>
<tr><td>ハンドル</td><td>遊び</td><td colspan="4">0～30 mm（ホイール外周）</td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td>ローテーション</td><td colspan="4">5,000 km走行ごと</td></tr>
</table>

■ 電球の容量

名　　称			ワット数 (型式)
ヘッドライト			60/55 W(H4)
フォグランプ		ジムニー	35 W(H8)
		ジムニーシエラ	55 W(H11)
車幅灯			5 W(W5W)
方向指示器／ 非常点滅表示灯	前面		21 W(PY21W)
	側面（※）	フェンダー	5 W
		ドアミラー	LED
	後面	ジムニー	21 W(W21W)
		ジムニーシエラ	16 W(W16W)
制動灯／尾灯			21/5 W(W21/5W)
後退灯		ジムニー	16 W(W16W)
		ジムニーシエラ	21 W(W21W)
番号灯			5 W(W5W)
前席室内灯			8 W
荷室室内灯			5 W
ハイマウントストップランプ			21 W(P21W)

※側面の方向指示器／非常点滅表示灯は、ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

タイヤの空気圧

機種	タイヤの種類	タイヤサイズ	前輪	後輪
ジムニー	標準タイヤ	175/80R 16 91Q	160 kPa (1.6 kgf/cm^2)	180 kPa (1.8 kgf/cm^2)
	応急用スペアタイヤ			
ジムニーシエラ	標準タイヤ	205/70R 15 95S		

ホイールのサイズ

機種	タイヤの種類	タイヤサイズ	適合ホイール		
			リムサイズ	インセット	取付ピッチ円直径(PCD)
ジムニー	標準タイヤ	175/80R 16 91Q	スチールホイール 16×5J	22 mm	139.7 mm
			アルミホイール 16×5 1/2JJ 16×5 1/2J		
	応急用スペアタイヤ		スチールホイール 16×5J		
ジムニーシエラ	標準タイヤ	205/70R 15 95S	15×5 1/2JJ 15×5 1/2J	5 mm	139.7 mm

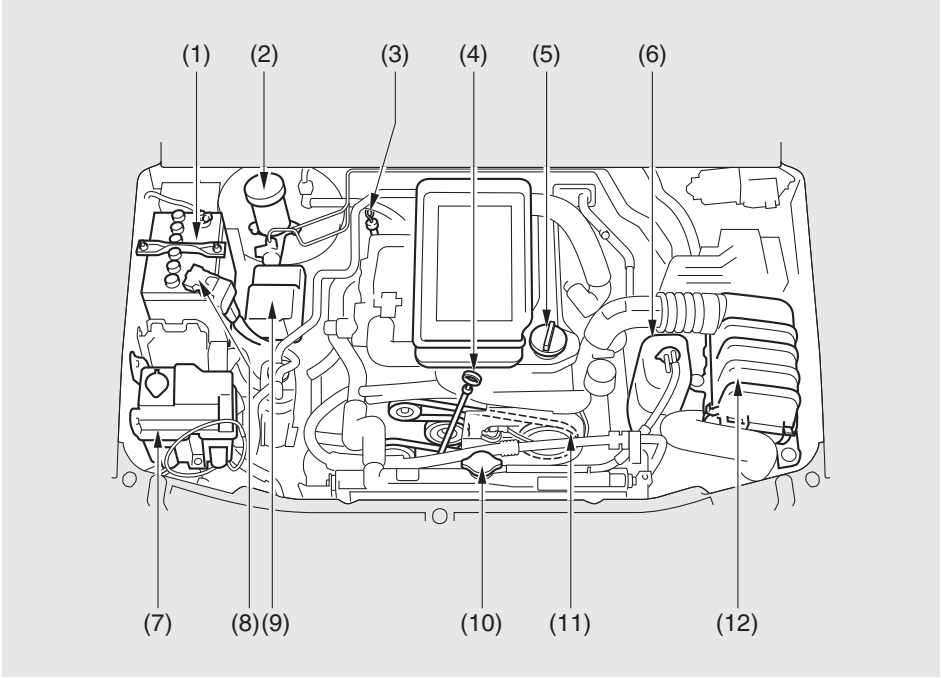
タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

エンジンルームをのぞいて

■ ジムニー

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



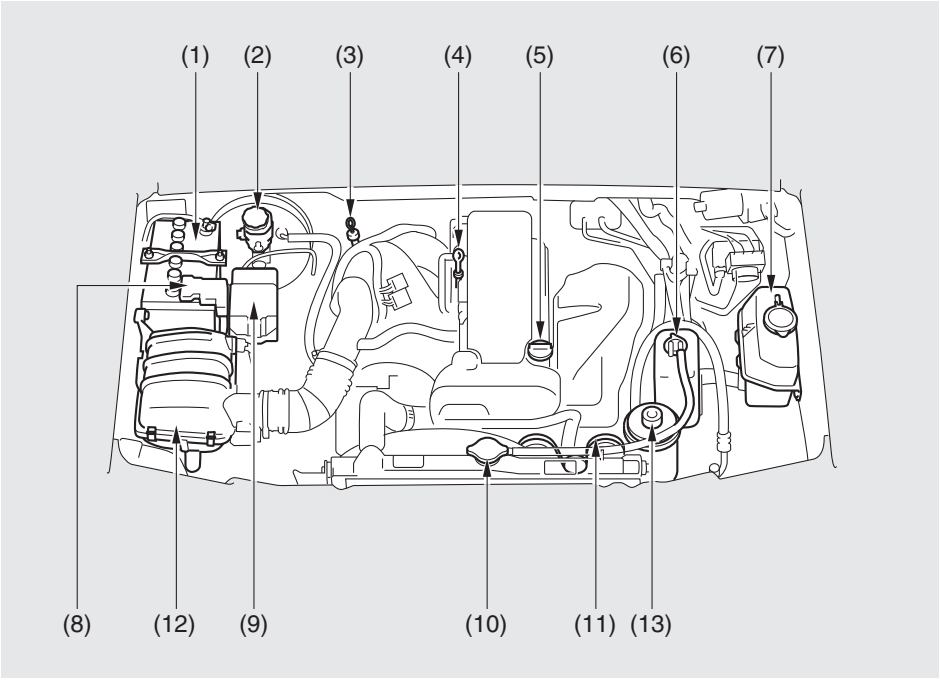
76J80020

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **バッテリー**
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク**
(3) ATフルードレベルゲージ
(4) **エンジンオイルレベルゲージ**
(5) エンジンオイルフィラーキャップ
(6) **冷却水リザーバータンク**
(7) **ウォッシャータンク**
(8) メインヒューズ
(9) ヒューズボックスNo. 1
(10) ラジエーターキャップ
(11) ドライブベルト
(12) エアクリーナー

■ ジムニーシエラ

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



76J80041

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **バッテリー**
(2) **ブレーキフルードリザーバータンク**
(3) ATフルードレベルゲージ
(4) **エンジンオイルレベルゲージ**
(5) エンジンオイルフィラーキャップ
(6) **冷却水リザーバータンク**
(7) **ウォッシャータンク**
(8) メインヒューズ
(9) ヒューズボックスNo. 1
(10) ラジエーターキャップ
(11) ドライブベルト
(12) エアクリーナー
(13) パワステオイルリザーバータンク

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
アンサーバック機能 → **3-7ページ**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯／室内灯	前席室内灯のみ

MEMO

MEMO

数字

2WD/4WD切替えスイッチ …… 4-17
4L表示灯 ……3-52、4-21
4WD車の運転 …… 2-23
4WD表示灯 ……3-52、4-20

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
警告灯……3-49、4-24
装置…… 4-21
AT(運転) …… 4-11
AT(セレクトレバー) ……4-8

E

EDR(イベントデータレコーダー)
…… 3-43

I

ISOFIX …… 3-20
ISOFIXアンカー …… 3-20
ISOFIX対応チャイルドシート
固定専用金具…… 3-20

R

R(リバース)ポジション
警告ブザー……2-20、4-11

S

SRSエアバッグ警告灯
…… 3-27、3-42、3-48
SRSエアバッグシステム…. 2-21、3-36

ア

アルミホイール
タイヤチェーン…… 6-14
タイヤの取付け・取外し…… 7-13
アンサーバック機能 …… 3-7
アンテナ …… 5-8

イ

イベントデータレコーダー
(EDR) …… 3-43
インパネトレー(助手席) …… 5-14
インパネポケット …… 5-15

ウ

ウインドー
ウインドーロックスイッチ …… 3-8
バックウインドーガラスの
手入れ …… 6-5
パワーウインドー …… 3-7
フロントウインドーガラスの
手入れ …… 6-3
ウェアインジケーター …… 6-7
ウォークインペダル …… 3-16
ウォッシャー液 …… 6-9、8-2、8-6
ウォッシャースイッチ …… 3-56
運転席・助手席シートヒーター
スイッチ …… 3-16

エ

エアコン、ヒーター
吹出し口 …… 5-2
マニュアルエアコン …… 5-3
エコドライブ …… 2-29
エンジンオイル …… 2-28、3-50、8-1
エンジン回転計(タコメーター) … 3-44
エンジンキー …… 3-2
エンジン警告灯 …… 3-49
エンジンスイッチ …… 4-2
エンジンのかけかた …… 4-3
エンジンの止めかた …… 4-5
エンジンフード(ボンネット) …… 5-10
エンジンブレーキ …… 2-12
エンジンルームをのぞいて …… 8-6
エンジンを止めるときは …… 4-5
エンスト …… 7-31

オ

オイル(エンジンオイル)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-28、3-50、8-1
オーディオ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7
オートマチック車
運転 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-13
セレクトレバー ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-8
オーバーヒート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28
お子さま用シートの
シートベルトによる固定 ・・・・・・・ 3-28
お子さま用シートの
選択について ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-30
お子さまを乗せるときは ・・・・・・・・・・ 2-4
オドメーター(積算距離計) ・・・・・・・ 3-46

カ

外気導入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-5
外装のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2
ガソリン(燃料) ・・・・・・・・・・・・・・2-20、8-1
仮眠するときは ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-17
ガレージジャッキ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-12
冠水した場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-14
寒冷時の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-9

キ

キー(エンジンキー) ・・・・・・・・・・・・・・ 3-2
キーインターロック ・・・・・・・・・・・・・・ 4-11
キースイッチ
(エンジンスイッチ) ・・・・・・・・・・・・ 4-2
キー付グローブボックス ・・・・・・・・・ 5-14
キーナンバープレート ・・・・・・・・・・・・ 3-2
キー抜き忘れ警告ブザー ・・・・・・・・・・ 4-5
キーレスエントリー ・・・・・・・・・・・・・・ 3-6
キーを抜くときは ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-5
キックダウン ・・・・・・・・・・・・・ 4-10、4-14
給油 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-18、5-9、8-1

ク

空気圧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-5
区間距離計(トリップメーター)・・・ 3-45
くもり取り(デフロスター)・・・・・・・・・ 5-2
くもり取り(リヤデフォッガー)・・・ 3-58
クラッチスタートシステム・・・・・・・・・ 4-4
クリープ現象・・・・・・・・・・・・・・ 2-20、4-10
車のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6-2

ケ

警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-10
警告灯・表示灯の見かた・・・・・・・・・・ 3-47
警告ブザー
R(リバース)ポジション
警告ブザー・・・・・・・・・・・・・ 2-20、4-11
キー抜き忘れ警告ブザー・・・・・・・・・・ 4-5
警告ブザーが鳴ったときは・・・・・ 1-15
シートベルト警告ブザー・・・・・・・ 3-24
ライト消し忘れ警告ブザー・・・・・ 3-53
携帯電話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-11
けん引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-31

コ

工具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-2
光軸調整ダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・ 3-54
後席シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-17
後席シートへの乗り降り・・・・・・・・・ 3-16
故障したときは・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-30

サ

サービスデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-1
サイドアンダーミラー・・・・・・・・・・・ 3-13
サンバイザー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-12

シ

シートアンダートレー…… 5-18
シートヒーター
（運転席･助手席）…… 3-16
シートベルト…… 3-23
シートベルト警告灯…… 3-48
シートベルト警告ブザー…… 3-24
シートベルトフォース
リミッター…… 3-28
シートベルトプリテンショナー… 3-27
シガーライター…… 5-15
事故が起きたときは…… 7-34
時刻あわせ…… 3-46
室内灯…… 5-13
シフトダウンの上限速度……4-7
シフトロック…… 4-9､4-15
ジャッキ(収納場所)……7-2
ジャッキアップ
（タイヤチェーン)…… 6-14
ジャッキアップ
（パンクしたとき)…… 7-11
集中ドアロック
（パワードアロック)……3-5
充電警告灯…… 3-51
樹脂部品などの手入れ……6-4
出発の前に……2-2
ジュニアシート…… 2-5､3-31
助手席ウォークイン…… 3-16

ス

水温計…… 3-45
スタック(立ち往生)…… 2-15
スノーブレード……6-9
スピードメーター(速度計)…… 3-44
スペアタイヤ……7-3
スペアタイヤカバー…… 7-3､7-6

セ

積算距離計(オドメーター)…… 3-45
設定切替え(カスタマイズ)…… 8-8
セレクトレバー
位置表示…… 3-51
操作…… 4-8
洗車…… 6-2
前照灯(ヘッドライト)……3-53､8-4
前席シート…… 3-13
センターコンソールトレー…… 5-18
センターコンソールボックス…… 5-17

ソ

走行中の注意…… 2-10
速度計(スピードメーター)…… 3-44

タ

ターボ車の運転…… 2-25
タイトコーナーブレーキング
現象…… 2-24
タイマーロック機能…… 3-7
タイヤ
空気圧…… 8-5
交換したあとは…… 7-15
交換するときは…… 6-6
交換の準備…… 7-9
チェーン…… 6-14
冬用タイヤ…… 6-12
ホイールサイズ…… 8-5
ローテーション…… 6-5
輪止め……2-16､6-9
タコメーター(エンジン回転計)… 3-44
立ち往生(スタック)…… 2-15
暖機運転…… 2-29

チ

チェーン(タイヤチェーン) ……6-14
チェンジレバー …… 4-6
チケットホルダー
（サンバイザー）……5-12
チャイルドシート ……2-5、3-31
駐車するときは ……2-16、4-15、6-12

テ

デアイサースイッチ ……3-59
停止表示板 ……7-30
デフロスター …… 5-2
電球
電球の交換(ランプ類) ……7-23
電球の点検 ……7-22
ワット数(ランプ類) …… 8-4
点検 ……2-2、8-1
電池交換(リモコンキー) …… 6-7

ト

ドア …… 3-3
ドアの開閉 …… 3-2
ドアミラー ……3-10
ドアミラー角度調節スイッチ ……3-11
ドアミラー格納スイッチ ……3-12
ドアミラーヒータースイッチ ……3-13
凍結防止剤 ……6-2、6-12
凍結路 ……6-11
登坂変速制御 ……4-11
渡河走行 ……2-24
時計 ……3-46
トランスミッション
警告灯 …… 3-51、4-11
トリップメーター(区間距離計) …3-46
ドリンクホルダー …… 5-17、5-19

ナ

内気循環 …… 5-5
内装のお手入れ …… 6-4

ニ

荷室サイドボックス…… 5-20
日常点検……2-2

ネ

燃料…… 2-20、8-1
燃料給油口……5-9
燃料計…… 3-45
燃料残量警告灯…… 3-49
燃料タンク容量……8-1

ハ

パーキングブレーキ
寒冷時の取扱い…… 6-12
操作……4-6
ブレーキ警告灯…… 3-47
パートタイム4WD…… 4-16
灰皿…… 5-16
ハイドロプレーニング現象…… 2-14
ハイマウントストップランプ……8-4
はさみ込み防止機構……3-9
発炎筒…… 7-29
バックウインドーガラス
室内側の手入れ……6-5
バックミラー(ルームミラー)…… 3-10
バッテリー……2-3
バッテリーあがり…… 7-15
バニティーミラー
（サンバイザー)…… 5-12
パワーウインドー……3-7
パワーステアリング警告灯…… 3-50
パワードアロック……3-5
パンク(タイヤ交換)……7-9
番号灯…… 7-28、8-4
半ドア警告灯…… 3-51
ハンドルロックが
解除できないときは……4-3

ヒ

ヒーター(エアコン)
　吹出し口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-2
　マニュアルエアコン・・・・・・・・・・・・・5-3
非常点滅表示灯・・ 7-22、7-25、7-26、8-4
非常点滅表示灯スイッチ・・・・・・・・・ 3-56
必読！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-2
ヒューズ切れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-18
表示灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1-10
表示灯の見かた・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-47
日よけ(サンバイザー)・・・・・・・・・・・ 5-12
ピラーアンテナ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5-8

フ

ブースターケーブル・・・・・・・・・・・・・ 7-16
フォグランプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-24
フォグランプスイッチ・・・・・・・・・・・・ 3-54
フットレスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-16
フューエルキャップ・・・・・・・・・・・・・・・5-9
フューエルリッド・・・・・・・・・・・・・・・・・5-9
フルフラットシート・・・・・・・・・・・・・・ 3-22
ブレーキ
　ブレーキ液・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-2
　ブレーキ警告灯・・・・・・・・・・・・・・・ 3-47
　ブレーキ倍力装置・・・・2-12、4-5、7-33
フロアコンソールトレー・・・・・・・・・・・ 5-17
フロアコンソールボックス・・・・・・・ 5-19
フロントシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-13
フロントワイパー／
　ウォッシャースイッチ・・・・・・・・・ 3-56

ヘ

ヘッドライト(前照灯)・・3-53、7-23、8-4
ヘッドライト上向き(ハイビーム)
　表示灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-52
ヘッドレスト
　後席・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-18
　前席・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-15
ベビーシート・・・・・・・・・・・・・・・ 2-5、3-31

ホ

ホイールサイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8-5
防眩式ルームミラー・・・・・・・・・・・・・ 3-10
方向指示器・・・・・・・・・・・ 7-25、7-26、8-4
方向指示器スイッチ・・・・・・・・・・・・・ 3-55
方向指示器表示灯・・・・・・・・・・・・・・・ 3-52
ホーンスイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-58
ボンネット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-10

マ

マニュアルエアコン・・・・・・・・・・・・・・ 5-3
マニュアル車(チェンジレバー)・・・・ 4-6
万一のとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-1

ミ

ミラー
　サイドアンダーミラー・・・・・・・・・ 3-13
　ドアミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-10
　バニティーミラー・・・・・・・・・・・・・ 5-12
　ルームミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-10

メ

メーター
　警告灯・表示灯の見かた・・・・・・・・ 3-47
　メーターの見かた・・・・・・・・・・・・・・ 3-44
メーターの照明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-47

ユ

油圧警告灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-50
雪道を走行するとき・・・・・・・・・・・・・ 6-11

ヨ

横風が強いときは ・・・・・・・・・・・・・・・2-13
横滑り防止装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・4-24
横滑り防止装置OFFスイッチ ・・・・・4-26
横滑り防止装置OFF
　表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-52、4-27
横滑り防止装置作動
　表示灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-52、4-26

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー ・・・・・・・3-53
ライトスイッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・3-53
ラゲッジルームランプ
　（荷室室内灯）・・・・・・・・・・・・・・・・5-13
ラジエーターキャップ ・・・・・・・7-29、8-6
ランプ
　前席室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・5-13
　電球の交換（ランプ類）・・・・・・・・・7-23
　荷室室内灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・5-13
　ハイマウントストップランプ ・・・・ 8-4
　番号灯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・7-28、8-4
　非常点滅表示灯 ・・・・・・・・・・・・3-56、8-4
　フォグランプ ・・・・・・・・・・・・ 3-54、7-24
　ヘッドライト ・・・・・・・・・・・・・3-53、8-4
　方向指示器 ・・・・・・・・・・・・・・・3-55、8-4
　方向指示器／非常点滅表示灯
　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-25、7-26
　リヤコンビネーションランプ ・・・7-26
　ワット数、型式（ランプ類）・・・・・・・ 8-4

リ

リクライニングレバー・・・・・・・・・・・・ 3-14
リジッドラック・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7-12
リバース（R）ポジション警告ブザー
　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-20、4-11
リモコンキーの電池交換・・・・・・・・・・・6-7
リヤ（後席）シート・・・・・・・・・・・・・・・ 3-17
リヤクォータートレー・・・・・・・・・・・・ 5-19
リヤコンビネーションランプ・・・・・ 7-26
リヤデフォッガースイッチ・・・・・・・ 3-58
リヤワイパー/ウォッシャー
　スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-58

ル

ルーフレール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-4
ルームミラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-10
ルームランプ（室内灯）・・・・・・・・・・・・ 5-13

レ

冷却水（ラジエーター液）
　オーバーヒート・・・・・・・・・・・・・・・ 7-28
　寒冷時の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・6-9
　規定水量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8-1

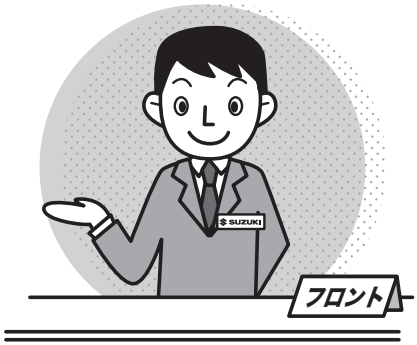
ワ

ワイパー
　寒冷時の取扱い・・・・・・・6-9、6-10、6-13
　ワイパースイッチ・・・・・・・・・・・・・ 3-57
ワックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6-2

お問い合わせ、ご相談は

お車のことや、車検・点検などのアフターサービスについてのお問い合わせやご相談がございましたら

まずは、お買い求めいただきましたスズキ販売店またはスズキ代理店にお尋ねください。



スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。**お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ、お手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。**

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など
②ご購入年月日
③走行距離
④ご相談内容
⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号